日本語 DECwindows
DECnet SNA 3270
ターミナル・エミュレータ for OpenVMS

ユーザーズ・ガイド
/ インストレーション・ガイド

AA-Q4XWA-TE

オペレーティング・システム: 日本語 OpenVMS VAX V6.0 及び
日本語 OpenVMS DECwindows Motif
または
日本語 OpenVMS AXP V1.5 及び
日本語 OpenVMS DECwindows Motif

ソフトウェア・バージョン: 日本語 DECwindows DECnet SNA 3270
ターミナル・エミュレータ
for OpenVMS

日本ディジタル イクイップメント株式会社

1994 年 4 月

本書の著作権は日本ディジタルイクイップメント株式会社 (日本 DEC) が保有しており，本書中の解説および図，表は日本 DEC の文書による許可なしに，その全体または一部を，いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また，本書に記載されている内容は，予告なく変更されることがありますので，あらかじめご承知おきください。万一，本書の記述に誤りがあった場合でも，日本 DEC は一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア (対象ソフトウェア) は，所定のライセンス契約が締結された場合に限り，その使用あるいは複製が許可されます。

日本 DEC は，日本 DEC または日本 DEC の指定する会社から納入された機器以外の機器で対象ソフトウェアを使用した場合，その性能あるいは信頼性について一切責任を負いかねます。

© Digital Equipment Corporation Japan 1994.

All Rights Reserved.
Printed in Japan.

以下は米国 Digital Equipment Corporation の商標です：

DEC,DECmate,DECnet,DECnet–DOS,DECUS,DECwindows,DNA,LAT,
PDP,PDP–11,RSX–11,RSX–11M,RSX–11M–PLUS,ThinWire,ULTRIX,
UNIBUS,VAX,VAXcluster,VMS,VT,Digital ロゴ

下記は他社の商標です。

Apple， Macintosh は米国 Apple Computer 社の商標です。
IBM は IBM 社の商標です。
IBM は米国 International Business Machines 社の商標です。
Microsoft， MS 及びMS–DOSは米国 Microsoft 社の商標です。
OSF， Motif， OSF/Motif は Open Software Foundation 社の商標です。
PostScript は米国 Adobe Systems 社の商標です。
SAS/Graph は米国 SAS Institute 社の商標です。
UNIX は UNIX システムラボラトリーズ社の商標です。

目次

まえがき xi

1 ユーザーズ・ガイド

1.1 TE の起動 1–1
1.1.1 コマンド行からの起動 1–1
1.1.2 TE 起動用の「アプリケーション」メニュー項目の作成 1–4
1.1.2.1 「アプリケーション」メニューへの TE の追加 1–4
1.1.3 「アプリケーション」メニューからの TE の起動 1–5
1.1.4 標準的な DECwindows オプションの使用 1–6
1.1.5 OpenVMS DECwindows オプション 1–6
1.1.6 ヘルプの取得 1–7
1.1.6.1 DECwindows ヘルプ 1–7
1.1.6.2 OpenVMS ヘルプ 1–7
1.1.7 TE の終了 1–8

1.2 TE の使用 1–8
1.2.1 TE 表示画面の使用 1–9
1.2.1.1 適用業務域での作業 1–9
1.2.1.1.1 画面 1–9
1.2.1.1.2 フィールド属性 1–10
1.2.1.1.3 カーソル 1–11
1.2.1.2 操作員情報の解釈 1–12
1.2.1.3 TE ウィンドウのサイズ変更 1–14
1.2.2 データの入力 1–14
1.2.3 日本語の入力方法 1–15
1.2.3.1 漢字入力ウィンドウの起動 1–15
1.2.3.2 かな漢字変換入力 1–15
1.2.3.3 IBM コードの 16 進入力 1–16
1.2.3.4 漢字入力ウィンドウの終了 1–17
1.2.4 データの編集 1–17
1.2.4.1 通常モード 1–17
1.2.4.2 挿入モード 1–17
1.2.5 表示画面の印刷 1–18
1.2.5.1 省略時印刷属性での印刷 1–18
1.2.5.2 TE 印刷属性の設定と印刷 1–18
1.2.6 複写と貼付けの使用 1–21
1.2.6.1 「複写」機能によるテキストの複写 1–22
1.2.6.2 「すべて選択」によるテキスト全体の複写 1–22
1.2.6.3 「貼付け」機能によるテキストの貼付け 1–22
1.2.6.4 マウスによる複写と貼付け 1–23
1.2.6.5 MB2 による複写と貼付け（即時複写） 1–23
1.2.6.6 拡張選択機能の使用 1–23
1.2.6.7 キーボード選択を使用した複写と貼付け 1–24

1.2.7 キー操作の記録と再生 1–24
1.2.7.1 キー操作の記録 1–24
1.2.7.2 実行中のキー操作の記録取り消し 1–26
1.2.7.3 記録されたキー操作の表示 1–26
1.2.7.4 記録されたキー操作の再生 1–27
1.2.8 自動コマンド機能 1–28
1.2.8.1 自動コマンド・スクリプトファイルの作成 1–28
1.2.8.2 自動コマンドの実行 1–28
1.2.8.3 自動コマンドの中止 1–29
1.2.9 数字キーパッドのアクセス 1–29
1.2.10 現在の設定の保存 1–29
1.2.11 キーボード・レイアウトの表示 1–29
1.2.12 機能リストの参照 1–30

1.3 接続パラメータの参照 1–31
1.3.1 フィールド属性の参照 1–32
1.3.1.1 基本属性表示モード 1–33
1.3.1.2 拡張属性表示モード 1–33
1.3.2 代替文字モード 1–33
1.3.3 TE ポップアップ・メニューの使用 1–34

1.4 TE の利用者設定 1–34
1.4.1 キー定義 1–34
1.4.1.1 キーの定義 1–35
1.4.1.2 キーの削除 1–36
1.4.2 キー定義の保存と読み込み 1–37
1.4.2.1 キー定義ファイルの作成 1–37
1.4.2.2 キー定義ファイルの読み込み 1–38
1.4.3 TE 表示属性の変更 1–40
1.4.4 選択用マウス機能の使用 1–43

1.5 ファイル転送 1–44
1.5.1 コード変換 1–44
1.5.2 ファイル転送機能の使用方法 1–45
1.5.2.1 ファイル転送コマンドの入力 1–48
1.5.2.1.1 コマンドの直接入力 1–48
1.5.2.1.2 メッセージ表示域を利用したコマンドの入力 . . . 1–48
1.5.2.1.3 コマンドマクロを利用したコマンドの入力 1–48
1.5.2.2 ファイル転送の中止 1–49
1.5.3 ユーザ定義マクロ機能を使用したファイル転送 1–51
1.5.3.1 ユーザマクロの定義 1–51
1.5.3.2 転送方法 1–52
1.5.3.3 ユーザ定義マクロの削除 1–52
1.5.3.4 ユーザ定義マクロの定義保存 1–53
1.5.3.5 ユーザ定義マクロの読み込み 1–54
1.5.4 スクリプト・ファイルによるファイル転送 1–56
1.5.4.1 スクリプト・ファイル 1–56
1.5.4.2 スクリプト・ファイルによるファイル転送の起動 1–56
1.5.4.3 スクリプト・ファイル転送時におけるのファイル転送の中止 1–57
1.5.5 ファイル転送コマンド 1–58
1.5.5.1 TSO SEND コマンド 1–58
1.5.5.2 TSO RECEIVE コマンド 1–62
1.5.5.3 CICS SEND コマンド 1–65
1.5.5.4 CICS RECEIVE コマンド 1–68
1.5.6 JISCII パラメータの処理 1–70

2 インストレーション・ガイド

2.1 インストレーションの準備 2–1
2.1.1 インストレーションに必要な事項 2–1
2.1.1.1 必要なソフトウェア 2–2
2.1.1.2 ライセンスの登録 2–2
2.1.1.3 システム・パラメータ値のチェック 2–3
2.1.1.3.1 システム・パラメータ値の変更 2–3
2.1.1.4 必須オペレーティング・システム・コンポーネント 2–4
2.1.2 システム・ディスクのバックアップ 2–4
2.1.3 オンライン・リリース・ノートへのアクセス 2–5

2.2 インストレーションの実行 2–5
2.2.1 インストレーション前の必要事項の確認 2–5
2.2.2 VMSINSTAL プロシージャの実行 2–6
2.2.2.1 情報メッセージ 2–9
2.2.3 リリース・ノートの参照 2–11
2.2.4 利用者システムに追加されたファイル 2–11

2.3 インストレーションの後に 2–11
2.3.1 サーバへのフォント・ファイルのコピー 2–11
2.3.1.1 OpenVMS サーバへのフォント・ファイルのコピー 2–12

2.4 インストレーション後の IVP の実行 2–12
2.4.1 システム・ファイルの編集 2–13
2.4.2 システムのリブート 2–13
2.4.3 ユーザ・アカウント特権の設定 2–13
2.4.4 クラスタ環境でのインストレーション 2–13

2.5 変換テーブルのコピー 2–14

2.6 問題点の通知 2–14

2.7 インストレーション例 2–15

2.8 インストールされるファイル一覧 2–17

2.9 IBM システムのパラメータ設定 2–18

A キーボード機能

A.1 LK201 キーボード上の省略時 TE キー機能 A–1

A.2 キー機能定義 A–3
A.2.1 カーソル移動 A–4
A.2.1.1 Left , Right A–4
A.2.1.2 Up , Down A–4
A.2.1.3 Tab A–4
A.2.1.4 BckTab A–4
A.2.1.5 NewLin A–4
A.2.1.6 Home A–5
A.2.2 編集 A–5
A.2.2.1 Insert A–5
A.2.2.2 Delete A–5
A.2.2.3 ErEof A–5
A.2.2.4 ErInp A–5
A.2.2.5 FM A–5
A.2.2.6 DUP A–6
A.2.2.7 Rubout A–6

A.2.3 ホストプログラムへの要求 A–6
A.2.3.1 Enter A–6
A.2.3.2 PF1 ~ PF24 . . . . . A–6
A.2.3.3 PA1 ~ PA3 . . . . . A–6
A.2.3.4 Attn A–6
A.2.3.5 Clear A–7
A.2.3.6 SysReq A–7
A.2.4 画面の印刷 A–7
A.2.4.1 Print A–7
A.2.4.2 SetFil A–7
A.2.5 ライトペン代替機能 A–7
A.2.5.1 Select A–7
A.2.6 その他の機能 A–7
A.2.6.1 Reset A–7
A.2.6.2 Kanji A–8
A.2.6.3 LogNOT A–8
A.2.6.4 LogOR A–8
A.2.6.5 ChgCha A–8
A.2.6.6 HanZen A–8
A.2.6.7 CrBlnk A–8
A.2.6.8 Defkey A–8
A.2.6.9 DspPos A–8
A.2.6.10 DspAtt A–8
A.2.6.11 DvCncl A–9
A.2.6.12 Exit A–9
A.2.6.13 Ext A–9
A.2.6.14 Help A–9
A.2.6.15 NumOvr A–9
A.2.6.16 Play A–9
A.2.6.17 Record A–9
A.2.6.18 Save A–10
A.2.6.19 Warp A–10
A.2.6.20 Xfer A–10
A.2.6.21 ATCOM A–10
A.2.6.22 ACCncl A–11

B 変換テーブル

C メッセージ

C.1 状態メッセージ C–1
C.2 ファイル転送メッセージ C–8
C.3 その他のメッセージ C–15
C.4 回復不可能エラー・メッセージ C–15

D TE の修飾子

D.1 Access Name D–1
D.2 Application Name D–1
D.3 Authorization Password D–2
D.4 Auto Logon D–2
D.5 Basic Character D–2
D.6 Character Set D–3
D.7 [No]Compress D–4
D.8 [No]Copy Keisen D–4
D.9 Data D–4
D.10 External D–5
D.11 Graphic Character Cell D–5
D.12 Interface D–5
D.13 Key Definition D–5
D.14 [No]Locking Shift D–6
D.15 Logon Mode D–6
D.16 [No]Numeric Lock Override D–6
D.17 Printer D–7
D.18 PU D–7
D.19 Session Address D–7
D.20 [No]Type Ahead D–7
D.21 Terminal Type D–8
D.22 [No]Wait D–8
D.23 Width Switching D–8
D.24 Xfer User Macro D–9

E IBM 選定文字および IBM ユーザ定義文字の取り扱い

E.1 操作手順 E–1
E.1.1 操作例 E–2

F jsnaknjdef ユーティリティ

F.1 起動方法 F–1
F.2 jsnaknjdef コマンド形式 F–1
F.3 jsnaknjdef ユーティリティ内のコマンド形式 F–2
F.3.1 use コマンド F–2
F.3.2 list コマンド F–3
F.3.3 define コマンド F–5
F.3.4 undefine コマンド F–8
F.3.5 help コマンド F–9

F.3.6 exit コマンド F–9
F.3.7 quit コマンド F–9
F.4 jsnaknjdef のステータス・メッセージ F–10

G DEC 拡張漢字セット内の IBM 選定文字

H 自動コマンドファイル

H.1 自動コマンドファイル指定時の動作概要 H–1
H.1.1 起動時の自動コマンドファイル指定 H–1
H.1.2 起動後の自動コマンドファイル指定 H–3
H.2 文字列の指定 H–3
H.3 コメント行の指定 H–3
H.4 コマンド H–3
H.4.1 キー入力コマンド H–4
H.4.1.1 自動コマンドによるファイル転送を行なう際の注意点 H–5
H.4.2 制御コマンド H–5
H.5 自動コマンドの中断 H–8

用語集

索引

図

1–1 「接続パラメータ入力」ダイアログ・ボックス 1–4
1–2 操作終了後の「メニュー」ダイアログ・ボックス 1–5
1–3 DECwindows ヘルプ概要 1–8
1–4 TE 表示画面 1–9
1–5 漢字入力ウィンドウ 1–15
1–6 「IBM コード」ウィンドウ 1–16
1–7 「印刷属性の設定」ウィンドウ 1–19
1–8 印刷領域を選択した IBM 表示画面 1–21
1–9 印刷オプション (その 1) 1–21
1–10 「キーを記録」ダイアログ・ボックス 1–25
1–11 キー操作の記録開始メッセージ・ボックス 1–25
1–12 キー操作記録終了メッセージ・ボックス 1–26
1–13 キー操作の記録取消メッセージ・ボックス 1–26
1–14 「キー操作レコード」ダイアログ・ボックス 1–27
1–15 「キーの再生」ダイアログ・ボックス 1–28
1–16 LK201 スタイル・キーボード用の省略時キーボード・レイアウト 1–30
1–17 「機能リスト表示」の例 1–31
1–18 「接続パラメータ」ダイアログ・ボックス 1–32
1–19 キー定義の変更 1–35

1–20 「キー定義」ダイアログ・ボックス 1–36
1–21 「キー削除」ダイアログ・ボックス 1–37
1–22 「キー定義保存」ダイアログ・ボックス 1–38
1–23 キー定義の保存終了・メッセージ・ボックス 1–38
1–24 「キー定義ファイルロード」ダイアログ・ボックス 1–39
1–25 キー定義の読み込み終了・メッセージ・ボックス 1–39
1–26 「ウィンドウ・オプション」ダイアログ・ボックス 1–40
1–27 「カラー・カスタマイズ」ウィンドウ 1–41
1–28 「Color Mixing」ウィンドウ 1–42
1–29 「適用」後のアプリケーション・ウィンドウ 1–43
1–30 「ファイル転送」ダイアログ・ボックス 1–47
1–31 「メッセージ表示域」を利用したコマンド入力 1–49
1–32 「コマンドマクロ」を利用したコマンド入力 1–50
1–33 「ユーザ定義マクロダイアログ・ボックス」の例 1–51
1–34 「マクロ定義ダイアログ・ボックス」の例 1–51
1–35 「ユーザ定義マクロ定義終了後」の例 1–52
1–36 「ユーザ定義マクロによる転送」の例 1–53
1–37 「ユーザ定義マクロファイル保存」ダイアログ・ボックス 1–54
1–38 ユーザ定義マクロファイルの保存終了・メッセージ・ボックス 1–54
1–39 「ユーザ定義マクロファイルロード」ダイアログ・ボックス 1–55
1–40 ユーザ定義マクロの読み込み終了・メッセージ・ボックス 1–55
1–41 「スクリプト・ファイル」の例 1–56
1–42 「スクリプト・ファイルによるファイル転送」 1–57
B–1 カナ文字用変換テーブル「送信用」(JIS → EBCDIC) B–2
B–2 カナ文字用変換テーブル「受信用」(EBCDIC → JIS) B–3
B–3 英小文字用変換テーブル「送信用」(JIS → EBCDIC) B–4
B–4 英小文字用変換テーブル「受信用」(EBCDIC → JIS) B–5
C–1 エラー・メッセージ・ボックス C–1
F–1 list 表示例− 1 . . . . . F–4

表

1–1 SNATERM コマンド修飾子 1–2
1–2 TE がサポートする OpenVMS DECwindows オプション 1–6
1–3 基本属性 1–10
1–4 状態標識/TERMINAL_TYPE=JPC3270 を指定した場合 1–12
1–5 状態標識/TERMINAL_TYPE=J3270 を指定した場合 1–13
1–6 複写と貼付けのためのキーボード選択 1–24
1–7 フィールド属性 1–33
1–8 拡張属性表示モード 1–33
1–9 即時機能アクセス： MB3 ポップアップ・メニュー 1–34
2–1 インストレーションに必要な事項 2–1
2–2 フォント・ファイル 2–12
2–3 インストールされるファイル 2–17
2–4 サーバ・ファイル 2–18
A–1 TE キー機能 A–1

H–1　キー入力コマンド H–4
H–2　制御コマンド H–6

まえがき

日本語 DECwindows DECnet SNA 3270 ターミナル・エミュレータ (以下，単に TE) は，日本語 DECwindows Motif 環境における OpenVMS ユーザが IBM システムで実行中の適用業務プログラムと通信できるようにするための通信ソフトウェア製品です。この通信は，DECnet SNA ゲートウェイを通じて実行されます。 IBM システムは，IBM 社のネットワーク・アーキテクチャ (SNA) に従って設計されたネットワーク構成の一部でなければなりません。

本書の目的

「日本語 DECwindows DECnet SNA 3270 ターミナル・エミュレータ　ユーザーズ・ガイド / インストレーション・ガイド」では，OpenVMS システムで TE を使用する方法およびインストールする方法について説明します。

対象読者

本書は，DECnet 環境で作業する OpenVMS システム上の日本語 DECwindows Motif 利用者を対象にしています。本書では，利用者は日本語 DECwindows Motif の使用方法を理解しているものと仮定しています。各オペレーティング・システムでの日本語 DECwindows Motif の使い方についての詳細は，「日本語 OpenVMS DECwindows Motif 操作ガイド」を参照してください。

本書の構成

本書は以下のように構成されています。

- 第 1 章「ユーザーズ / ガイド」では TE を使用する方法について説明します。 TE のインストレーションについては第 2 章「インストレーション・ガイド」をご覧下さい。
- 第 2 章「インストレーション・ガイド」では TE をインストールする方法について説明します。

本書で使用する表記法

本書では下記の表記法を使用します。

表記	説明
マウス	マウス，プック，スタイラスなどのポインティング装置を指します。
MB1， MB2， MB3	右手を使う場合， MB1 は左のマウス・ボタンを， MB2 は中央のマウス・ボタンを， MB3 は右のマウス・ボタンを指します。（マウス・ボタンはユーザ毎に再定義することができます。）
Ctrl/x	Ctrl/xなどのキーの組み合わせは， Ctrl キーを押した状態で，別のキーまたはポインティング装置ボタンを押すことを示します。
PF1 + x	PF1 + xなどのキーの組み合わせは，最初に PF1 キーを押し，離した後で別のキーを押し，離すことを示します。
Return	キーボードのキーを押すことを示す場合には，キー名を枠で囲んで示します。
Ext + x	Ext + xという表現は， 2 つのキーの特殊な組み合わせを示します。最初に Ext キーを押し，その後適切な文字キーを押します。
KP	KP は，キーボードの数値キーパッドを示します。たとえば KP_9 は数値キーパッドの 9 というキーを示します。
( )	形式の説明で，括弧は複数のオプションを選択するときに選択したオプションを括弧で囲まなければならないことを示します。
[ ]	形式の説明で，大括弧は省略可能な部分を示します。何も選択しないか， 1 つの項目を選択するか，またはすべての項目を選択できます。
{}	形式の説明で，中括弧は複数のオプションから必ず 1 つのオプションを選択しなければならないことを示します。
大文字のテキスト	大文字のテキストは OpenVMS コマンドで使用されます。
コマンド行の中の大文字	ユーザが入力する必要があることを示します。
italic text	*italic text*(斜体字) は変数を示します。

頭字語

本書では次の頭字語を使用します。

ACF/NCP	拡張通信機能/ネットワーク制御プログラム (NCP とも呼ぶ)
ACF/VTAM	拡張通信機能/仮想記憶通信アクセス方式 (VTAM とも呼ぶ)
SNA	システム・ネットワーク・アーキテクチャ
LU	論理ユニット
TE	日本語 DECwindows DECnet SNA 3270 ターミナル・エミュレータソフトウェア
PLU	一次論理ユニット
PU	物理ユニット
SLU	二次論理ユニット
SSCP	システム・サービス制御ポイント
SPR	ソフトウェア性能レポート

注意

ACF/NCP , ACF/VTAM は IBM 社の製品です。

参考文献

OpenVMS システムで TE を使用する場合，日本 DEC が発行している以下の解説書を，参考文献として利用してください。

- 日本語 DECwindows DECnet SNA 3270 ターミナル・エミュレータ for OpenVMS インストレーション・ガイド
- OpenVMS DECwindows Motif User's Guide
- 日本語 OpenVMS DECwindows Motif 操作ガイド
- 日本語 Motif 日本語機能説明書
- 日本語 OpenVMS DECwindows デスクトップ・アプリケーション・ガイド
- 日本語 OpenVMS DECwindows ユーザーズ・ガイド
- DECnet SNA Gateway-CT and Gateway-ST Management(OpenVMS)

PS55 日本語 3270 パーソナル・コンピュータについての詳細は，次の IBM 社の解説書を参照してください。

- IBM パーソナルシステム/55 日本語 3270 パーソナル・コンピュータユーザーズ・ガイド (N:SC18-2266-0)
- IBM 3179-G/3192-G カラー・グラフィック表示装置解説書 (GA18-2589-1)
- IBM 3270 Information Display System (GA23-0060)
- IBM 3270 Information Display System: Operator's Guide (GA27-2742)
- IBM 3270 情報表示システムデータ・ストリームプログラマー用解説書 (GA23-0059)
- IBM 3270 情報表示システム 3274 制御装置解説とプログラマーの手引き (GA23-0061)
- IBM 3270 Information Display System: 3278 Display Station Operator's Guide (GA27-2890)
- Systems Network Architecture—Introduction to Sessions Between Logical Units (GC20-1869)
- Systems Network Architecture—Sessions Betweeen Logical Units (GC20-1868)
- システム・ネットワーク体系概念と諸製品 (GC30-3072)
- システム・ネットワーク体系 (SNA) 解説書 (GC30-3073)
- SAS/GRAPH Guide to Hardware Interfaces, Version 5 Edition
- SAS/GRAPH User's Guide, Version 5 Edition
- GDDM 概説書 (GC33-0319)
- GDDM 導入およびシステム管理 (SC33-0321,0322,0323)
- GDDM 基本プログラミング解説書 (SC33-0332)

- GDDM 適用業務プログラミングの手引き (SC33-0337)

SNA 問題判別については，次の解説書を参照してください。

- SNA System Problem Determination Guide (G320-6016)

1

ユーザーズ・ガイド

1.1 TE の起動

日本語 DECwindows DECnet SNA 3270 ターミナル・エミュレータ (以下，単に TE) はレイヤード・ソフトウェア製品であり，日本 DEC がサポートするワークステーション上で， IBM システムの PS55 日本語 3270 パーソナル・コンピュータをエミュレートします。 TE は，日本語 DECwindows Motif 環境で動作し， DECnet SNA ゲートウェイを通じて IBM システムと通信します。

この章では次の操作方法について説明します。

- OpenVMS コマンド行から TE を起動する方法
- セッション・マネージャーの「アプリケーション」メニューに TE を追加する方法
- 表示ウィンドウを変更するために標準の DECwindows オプションを使用する方法
- TE 機能を利用しているときのヘルプの使用方法
- TE の終了方法

1.1.1 コマンド行からの起動

この節では TE を，コマンド行から起動する方法について説明します。

注意

TE は，セッション・マネージャーまたは UE ウィンドウの「アプリケーション」メニューからも起動することができます。「アプリケーション」メニューから TE を起動するには，「アプリケーション」メニューに TE 起動用のメニュー項目が定義されていなければなりません。 TE 起動用のメニュー項目の作成方法は，『第 1.1.2 項, TE 起動用の「アプリケーション」メニュー項目の作成』を参照してください。

コマンド行から TE を起動するには，Digital コマンド言語 (DCL: Digital Command Language) を使用します。

まず，TE を導入したシステムのセッション・マネージャ・ウィンドウを開きます。そして，「アプリケーション」メニューをプル・ダウンし，「日本語端末」を選択します。日本語端末ウィンドウの中に次のコマンドを入力すると TE が起動します。

```
$ SNATERM/INTERFACE=DECWINDOWS node-spec 修飾子
```

node-spec	node-spec は，使用するゲートウェイ・ノードを指定する DECnet パラメータであり，ゲートウェイのノード名，またはノード・アドレスです。
修飾子	修飾子を指定します (SNATERM コマンドの修飾子については表 1–1 を参照してください)。セッションを開始するには，/ACCESS_NAME 修飾子，あるいは/APPLICATION_NAME 修飾子と/PU 修飾子，あるいは/PU 修飾子と/WAIT 修飾子を入力しなければなりません。

SNATERM コマンドを入力する場合は，ゲートウェイ・ノードを指定します。また，IBM システムの適用業務プログラムとセッションを開始するために必要な修飾子も指定します。必要な情報については，ゲートウェイ管理者にお尋ねください。

セッションを開始するために必要な情報をコマンド行に完全に指定しなかった場合には，「接続パラメータ入力」ダイアログ・ボックスが表示されます (図 1–1 を参照)。この場合は，必要な情報を入力した後で「了解」をクリックして，セッションを開始してください。

TE を起動する時に指定することができる SNATERM コマンドの修飾子については表 1–1 を参照してください。

表 1–1 SNATERM コマンド修飾子

コマンド修飾子	最少文字	省略時の設定	説明
/ACCESS_NAME=アクセス名	/AC=	なし	第 D.1 節
/APPLICATION_NAME=アプリケーション名	/AP=	なし	第 D.2 節
/AUTHORIZATION_PASSWORD=登録パスワード	/AUTH=	なし	第 D.3 節
/AUTO_LOGON=ファイル名	/AUTO=	なし	第 D.4 節
/BASIC_CHARACTER=基本文字モード	/B=	KATAKANA	第 D.5 節

(次ページに続く)

表 1–1 (続き) SNATERM コマンド修飾子

コマンド修飾子	最少文字	省略時の設定	説明
/CHARACTER_SET=ファイル名	/CHAR=	基本文字モードに依存	第 D.6 節
/[NO]COMPRESS	/COM	COMPRESS	第 D.7 節
/[NO]COPY_KEISEN	/COP	NOCOPY_KEISEN	第 D.8 節
/DATA=データ	/DA=	なし	第 D.9 節
/EXTERNAL=ファイル名	/E=	なし	第 D.10 節
/GRAPHIC_CHARACTER_CELL=解像度	/GR=	24	第 D.11 節
/INTERFACE=DECWINDOWS	/INT=	CHARACTER_CELL	第 D.12 節
/KEY_DEFINITION=ファイル名	/KE=	なし	第 D.13 節
/[NO]LOCKING_SHIFT	/LOC=	NOLOCKING_SHIFT	第 D.14 節
/LOGON_MODE=ログオン・モード・エントリ名	/LOG=	なし	第 D.15 節
/[NO]NUMOVR	/NUM	NONUMOVR	第 D.16 節
/PRINTER=ファイル名	/PR=	SNATPRINT.LIS	第 D.17 節
/PU=PU 名	/PU=	なし	第 D.18 節
/SESSION_ADDRESS=セッション・アドレス	/SE=	なし	第 D.19 節
/TERMINAL_TYPE=ターミナル・タイプ	/TE=	JPC3270	第 D.21 節
/[NO]TYPE_AHEAD	/TY	NOTYPE_AHEAD	第 D.20 節
/[NO]WAIT	/WA	NOWAIT	第 D.22 節
/WIDTH_SWITCHING=文字幅	/WID=	CURRENT	第 D.23 節
/XFER_USER_MACRO=ファイル名	/XF=	なし	第 D.24 節

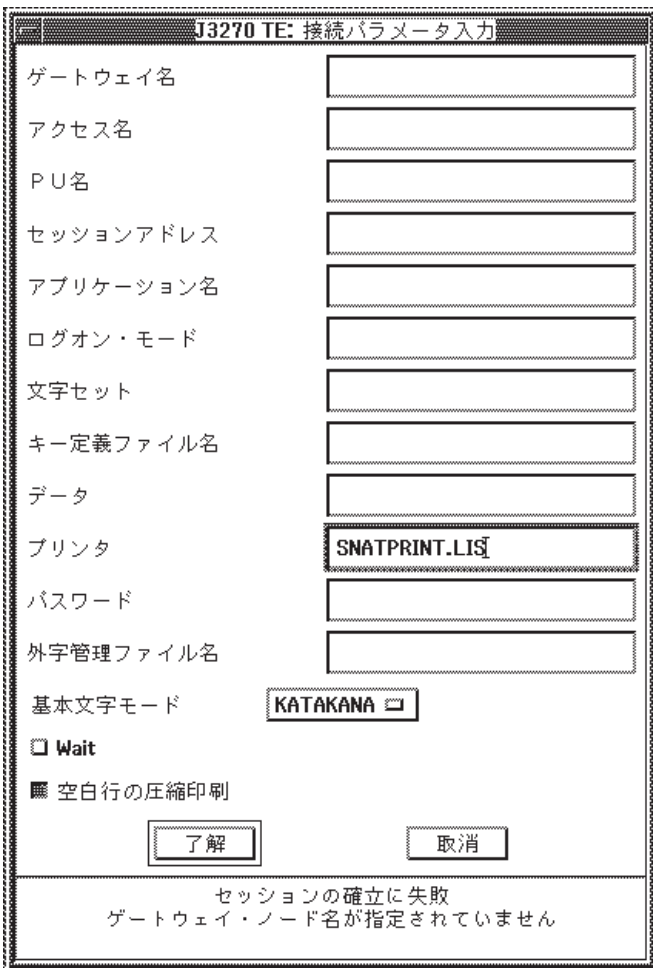
SNATERM コマンドの修飾子についての詳細は，『付録 D, TE の修飾子』を参照してください。

図 1–1 に示す「接続パラメータ入力」ダイアログ・ボックスは，TE を起動する時に必ず表示されるというわけではありません。もし，ゲートウェイ名と

- アクセス名
- PU 名と/WAIT 修飾子
- PU 名とアプリケーション名

のいずれかを指定した場合には，「接続パラメータ入力」ダイアログ・ボックスは表示されずに TE はすぐに起動します。 TE が起動すると表 1–4 または表 1–5 に示す操作員情報が表示されます。

図 1–1 「接続パラメータ入力」ダイアログ・ボックス



1.1.2 TE 起動用の「アプリケーション」メニュー項目の作成

セッション・マネージャー・ウィンドウまたは UE ウィンドウの「アプリケーション」メニューにメニュー項目を作成することができます。「アプリケーション」メニュー項目を作成すると，メニュー・バーから直接 TE を起動することが可能になり，アプリケーションの起動が容易になります。システム管理者がまだメニュー項目を作成していないなら，自分でそれを作成することができます。次の 2 つの章で OpenVMS 上でのメニュー項目の作成方法を説明します。

1.1.2.1 「アプリケーション」メニューへの TE の追加

セッション・マネージャの「アプリケーション」メニューに TE のメニュー項目を追加するには，次の操作を行ないます。

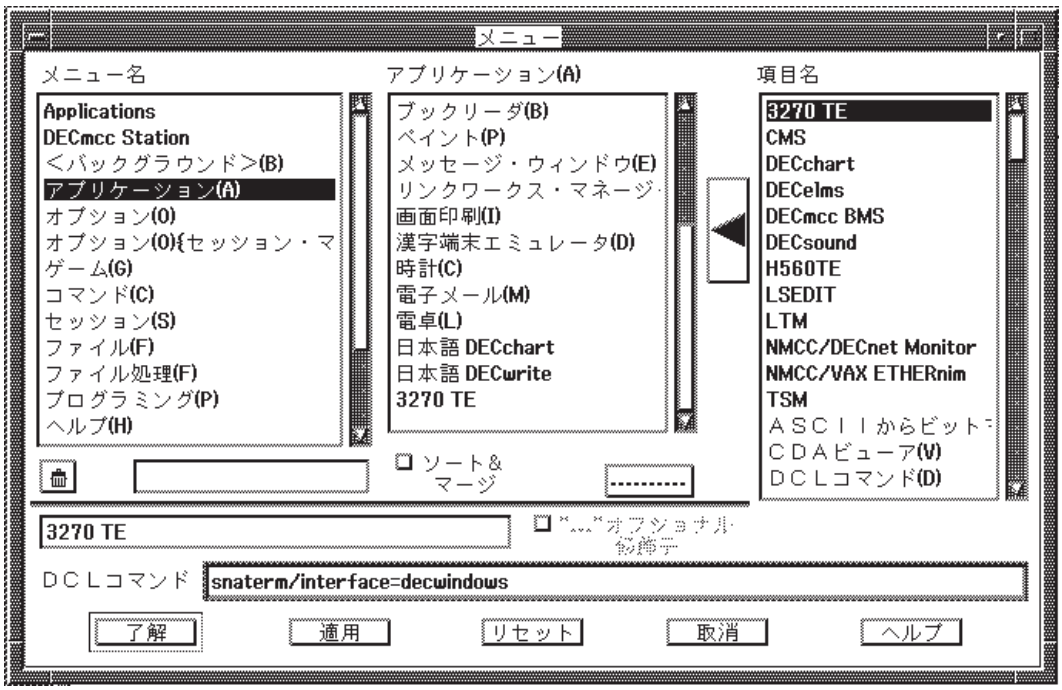
1. ファイルビュー・ウィンドウまたはセッション・マネージャを開き，「オプション」メニューをプルダウンし，「メニュー」を選択します。メニュー・ウィンドウが表示されます。

2. 「DCL コマンド」欄の上の欄に，TE と関連付けるメニュー項目名を入力します。そして，次の DCL コマンドを入力します。

```
SNATERM/INTERFACE=DECWINDOWS
```

3. オプショナル修飾子の右の矢印ボタンをクリックします。メニュー項目名が「項目名」リスト上に現れます。次に「メニュー名」リストの「アプリケーション」をクリックします。「項目名」リストに追加したメニュー項目を選択し，「項目名」リストの横の矢印ボタンをクリックします。
4. 「適用」または「了解」をクリックします。「適用」のクリックは，それまでに行った変更を適用します。「了解」をクリックすると変更を適用して「メニュー」ウィンドウを終了します。「取消」をクリックするといつでも，「メニュー」ウィンドウを終了することができます。

図 1–2　操作終了後の「メニュー」ダイアログ・ボックス



1.1.3　「アプリケーション」メニューからの TE の起動

一度「アプリケーション」メニューに TE メニュー項目を作成すれば，それ以降そのメニューから直接 TE を起動することができます。 3270TE メニュー項目を選択すると，「接続パラメータ入力」ダイアログ・ボックスが現れます。図 1–1 は表示されるダイアログ・ボックスを示しています。

「接続パラメータ入力」ダイアログ・ボックスには，IBM システムとのセッションを開始するために必要な接続パラメタを入力しなければなりません。ゲートウェイを使用する場合はゲートウェイ名を，「ゲートウェイ名」入力欄に入力します。また，各セション毎に必要な修飾子の値も入力しなければなりません。

セションを確立するために必要なゲートウェイ名と，修飾子については，ゲートウェイ管理者にお尋ねください。また，各選択項目については『付録 D, TE の修飾子』を参照してください。

必要な接続パラメータを入力すれば，「了解」ボタンをクリックしてください。セションが開始します。もし，セションを開始するのに必要な情報を入力しなかった場合には，「接続パラメータ入力」ダイアログ・ボックス (図 1–1) が再び表示されます。

1.1.4 標準的な DECwindows オプションの使用

IBM システムの適用業務プログラムは， TE 適用業務域内の内容の属性を制御します (『第 1.2.1 項, TE 表示画面の使用』を参照) 。しかし，コマンド行から TE を起動するときに特定の DECwindows オプションを指定することにより，ディスプレイ・ウィンドウのいくつかの属性を変更できます。

1.1.5 OpenVMS DECwindows オプション

表 1–2 は TE ディスプレイ・ウィンドウの表示方法を変更する OpenVMS DECwindows オプションを示しています。

表 1–2 TE がサポートする OpenVMS DECwindows オプション

オプション	最少文字	説明
コマンド修飾子		
/WINDOW_ATTRIBUTES=(属性値,...)	/WIN=	DECwindows ウィンドウ属性を指定する。省略属性値あるいはアプリケーションの省略値ファイルの中で指定した属性値を上書きする。
/DISPLAY=ディスプレイ名	/DISP=	出力先ディスプレイを指定する。

(次ページに続く)

表 1–2 (続き) TE がサポートする OpenVMS DECwindows オプション

オプション	最少文字	説明
属性値		
BACKGROUND=カラー	BACK=	ウィンドウとダイアログ・ボックスの背景カラーを指定する。
FOREGROUND=カラー	FORE=	ウィンドウとダイアログ・ボックスの前景カラーを指定する。
ICON_NAME=文字列	ICON=	TE アイコンの中に表示する文字列を指定する。
INIT_STATE=状態	INIT=	ウィンドウの初期状態を指定する。適切な状態は ICON と WINDOW である。
TITLE=文字列	TITL=	メイン・ウィンドウのタイトル・バーの中に表示する文字列を指定する。
X_POSITION=位置	X_POS=	ワークステーション・ウィンドウ内でのアプリケーション・ウィンドウの X 位置を指定する。
Y_POSITION=位置	Y_POS=	ワークステーション・ウィンドウ内でのアプリケーション・ウィンドウの Y 位置を指定する。

1.1.6 ヘルプの取得

TE の DECwindows ヘルプは，セッションの途中でいつでも使用できます。また，OpenVMS ヘルプ機能によりコマンド行から TE のヘルプにアクセスすることができます。この後の節では，TE を使用している時にヘルプにアクセスする方法について説明します。

1.1.6.1 DECwindows ヘルプ

DECwindows を使用しているソフトウェア製品のヘルプにアクセスするには，TE メニュー・バーの「ヘルプ」を選択します。ここから，「バージョン」，「概要」，「用語説明」の 3 つの種類のヘルプ文を見ることができます。

DECwindows ヘルプ概要は図 1–3 を参照してください。

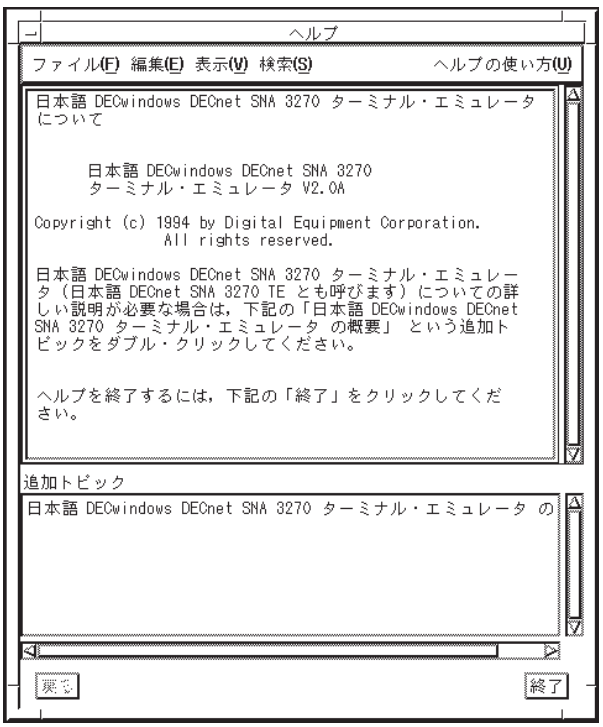
1.1.6.2 OpenVMS ヘルプ

TE コマンドについての情報が必要な場合は，OpenVMS システム・ヘルプにアクセスすることができます。この場合，以下に示す DCL HELP コマンドを入力します。

```
$ HELP SNA_JDWTE
```

起動コマンドとそのパラメータ，その修飾子についての情報が画面に表示されます。さらに詳しい情報が必要な場合は，"Subtopic?"プロンプトの後にパラメータ名または修飾子名を入力してください。

図 1–3　DECwindows ヘルプ概要



1.1.7　TE の終了

TE を終了するには「ファイル」メニューをプルダウンし，「終了」を選択します。Ctrl/Zを押して，セッションを終了することもできます。

1.2　TE の使用

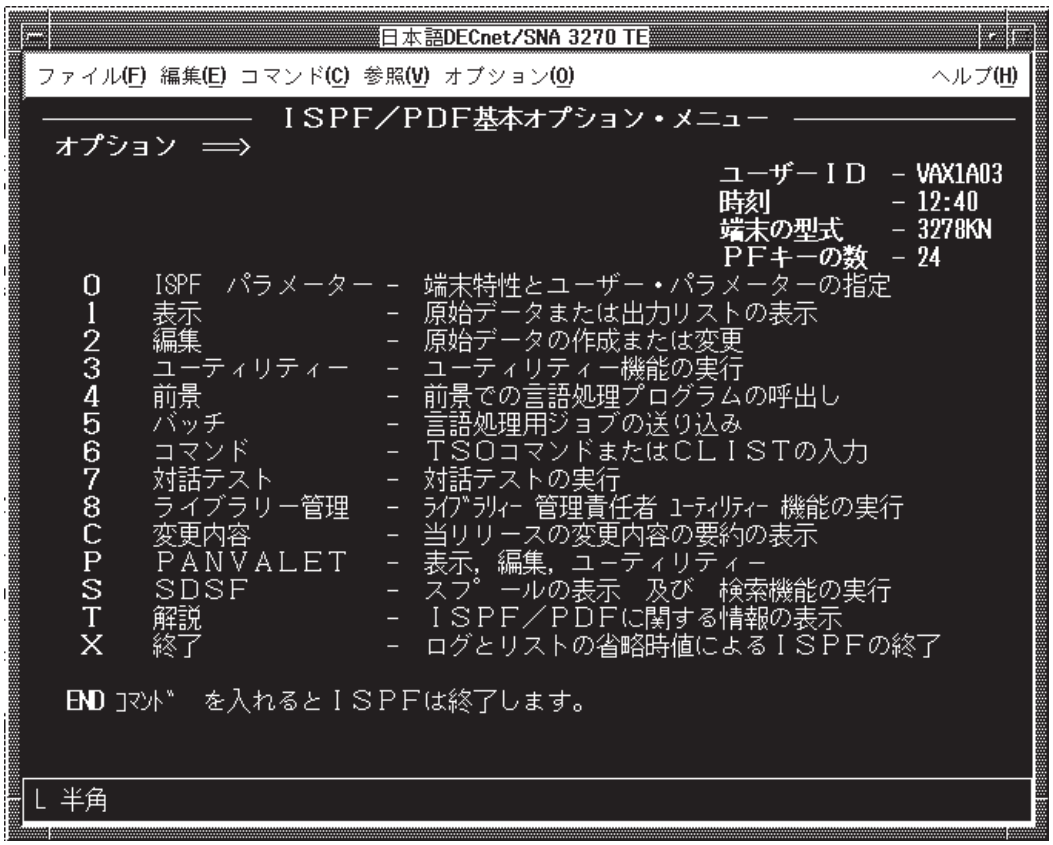
この章では，IBM システムとのセッションを確立した後で，日本語 DECwindows DECnet SNA 3270 ターミナル・エミュレータ（TE）を使用する方法について説明します。特に，この章では以下の項目に関する操作方法について説明します。

- TE 表示画面の使用
- データの入力と編集
- 表示画面の印刷
- キー操作の記録と再生
- 数字キーパッドの使用
- 現在の設定の保存と表示
- TE ポップアップ・メニューの使用

1.2.1　TE 表示画面の使用

TE 表示画面は 2 つの部分から構成されます。それは適用業務域と操作員情報域です（図 1–4 を参照）。この後の 2 つの節では，適用業務域と操作員情報域についてそれぞれ説明します。

図 1–4　TE 表示画面



1.2.1.1　適用業務域での作業

適用業務域は，データの入力や出力の受信など適用業務プログラムに関連する大部分の作業を実行する場所です。この後の節では，適用業務域の特徴について説明します。

1.2.1.1.1　画面　TE 画面は不定様式または定様式です。不定様式の画面にはフィールドはありません。不定様式の画面にデータを入力する方法は，使用するアプリケーション・プログラムに応じて異なります。不定様式画面の使用方法については，IBM システムのマニュアルをご覧ください。定様式画面には 1 つ以上のフィールドがあります。

1.2.1.1.2 フィールド属性　各フィールドは，IBM ホスト上の適用業務プログラムにより，そのフィールドの最初の桁にあたる位置に属性文字が書き込まれて作成されます。属性文字によって，そのフィールドが持っている特性が表されます。これをそのフィールドの属性と呼びます。

- フィールドの属性

  フィールドの属性には，次の 2 種類があります。

  基本属性
  拡張属性

  画面から得ることのできないフィールドの属性に関する情報は，TE で定義された特別なキー操作により知ることができます。

  - 基本属性

    基本属性は，属性文字のビット構成によって決められます。表 1–3 に基本属性にあたるフィールドの属性を示します。

表 1–3　基本属性

フィールドの属性	説明
保護フィールド	内容をキーボード操作により変更できないフィールドで，見出しや適用業務プログラムからのメッセージなどに使われます。もし，このフィールドにキーボードからデータを書き込もうとすると，キーボードが入力禁止状態となり，警告ベルとともに操作員情報域に「XX この位置では変更できません。が表示されます。これを解除するためには，Reset キーを押します。
無保護フィールド	キーボードからフィールドの内容を変更することのできるフィールドです。適用業務プログラムが 1 つの定様式画面を表示した時に，カーソルは，通常，最初の無保護フィールドの文字がまだ書かれていない位置に置かれます。フィールドがいっぱいになるか，→	を入力した場合に，カーソルは次の無保護フィールドに移動します。
数字フィールド	数字無保護フィールドへは，0 ~ 9 ，. ，マイナス符号 - ，および DUP キーのみの入力が可能です。それ以外の文字を入力しようとすると，キーボードが入力禁止状態となり，警告ベルとともに操作員情報域に「XX 数字フィールド。数字のみ入力可能」が表示されます。これを解除するためには，Reset キーを押します。
高輝度フィールド	高輝度フィールドは，普通のフィールドよりも明るく表示されるフィールドです。これは，そのフィールドを強調するためのもので，操作上は特に違いはありません。
非表示フィールド	このフィールドでは，文字を入力しても表示はされません。このフィールドは，パスワードの入力フィールドなどに用いられます。

  - 拡張属性

    拡張属性には，以下のようなものがあります。

    – 文字セットに関するもの

      英数カナ・フィールド
      漢字フィールド

– 漢字入力可能または不可

– フィールド罫線

これらは，適用業務プログラムが，属性文字を書き込むと同時に指定するものです。その情報は， TE の内部に保持されます。

• 英数カナ・フィールド

英数カナ・フィールドには，通常，英数カナ文字が書き込まれます。さらに SO 文字と SI 文字の 2 つの制御文字を使って，漢字を混在させることができます。 SO 文字と SI 文字は， IBM システム上の適用業務プログラムからのインバウンド・データとして TE のバッファに書き込まれます。そのフィールドが無保護フィールドであれば，漢字または英数カナ文字をキーボードから入力することができます。フィールドの属性が，漢字入力可能になっている場合は，キーボードから漢字を入力することができます。その際には，自動的に SO，SI 文字が生成されます。英数カナ・フィールドへ漢字の入力方法については，後述の『第 1.2.3 項, 日本語の入力方法』を参照してください。

注意

漢字コードに関しては， DEC， IBM ともにそれぞれ独自のコード体系を採用していますので，入出力の際に相互のコード変換が必要です。このコード変換は， TE が内部で行なっています。ここで述べられている漢字とは，互いに変換可能な DEC 漢字セットと IBM 漢字システム文字セットの中にある文字のことを言います。英数カナ・フィールドの中で，漢字を表示する部分を漢字サブフィールドと呼びます。

• 漢字フィールド

漢字フィールドには，互いに変換可能な DEC 漢字セットと IBM 漢字システム文字セットの中にある漢字を入力することができます。漢字フィールドには，英数カナ文字を混在させることはできません。漢字の入力方法については，後述の『第 1.2.3 項, 日本語の入力方法』の節を参照してください。

1.2.1.1.3 カーソル　適用業務域内で作業をする場合に，カーソルには，文字カーソル，選択用マウス・カーソル，クロスカーソルの 3 つの形態があります。

文字カーソルは標準的な長方形のカーソルであり，大部分の文字入力アプリケーションで使用されます。初期状態は文字カーソルは点滅します。しかし， CrBlnk 機能を使用すれば，このカーソルを点滅しないようにすることができます。（『付録 A, キーボード機能』を参照してください。）

選択用マウス・カーソルは人さし指を伸ばした小さい手の形であり，選択用マウス機能を使用するときに表示されます（『第 1.4.4 項, 選択用マウス機能の使用』を参照）。

クロスカーソルは小さい十字の形をしたカーソルで，特定のグラフィック・アプリケーションを実行するときに表示されます。マウスの MB1 ボタンによりグラフィック・カーソルに対する応答を指示します。

1.2.1.2 操作員情報の解釈

操作員情報域は状態標識が表示される場所です。これらの状態標識により，IBM システムとのセッションの状態を監視できます。

起動時に/TERMINAL_TYPE 修飾子で指定されたキーワードによって表示形式が異なります。/TERMINAL_TYPE 修飾子で JPC3270 を指定した場合に表示される可能性のある状態標識を表 1–4, J3270 を指定した場合に表示される可能性のある状態標識を表 1–5 に示します。(省略値は JPC3270 です。)

表 1–4 状態標識/TERMINAL_TYPE=JPC3270 を指定した場合

状態標識	意味
S	IBM 制御プログラムとのセッション (SSCP-LU セッション) 中である。
L	IBM システムの適用業務プログラムとのセッション (LU-LU セッション) 中である。
半角	次に入力される文字が半角文字である。
全角	次に入力される文字が全角文字である。
Ext	EXT 機能を使用中である。
O	NumOvr 機能を使用中である。このインディケータは，NumOvr 機能を再度押したときにオフになる。
^	挿入モードである。
P	Play モードである。 Play 機能によってキー操作を再生中である。
A	自動コマンドモードである。 Auto Command 機能によってコマンド・スクリプトを実行中である。
Pr	画面の内容をファイルまたはプリンタに出力中である。処理が終了するまで，状態標識は表示されたままの状態である。
R	Record モードである。キー操作が記録されている。
K	キー先読み機能が動作中である。
rr/cc	現在のカーソル位置を行/桁で表示します。 DspPos 機能により表示する/しないを切り換えることができます。
XX 英数かな文字のみ入力可能。	半角の英数かな文字のみ入力可能なフィールドに漢字を入力しようとした場合に表示されます。
XX お待ちください。	IBM ホストと通信中のため入力できないことを示します。
XX この位置では変更できません。	保護フィールドに入力しようとした場合に表示されます。
XX このフィールドではセレクト不可。	セレクト不可能なフィールドで SELECT キーを押した場合に表示されます。
XX 数字フィールド。数字のみ入力可能。	NUM OVR 機能を使用せずに，数字フィールドに入力しようとした場合に表示されます。

(次ページに続く)

表 1–4 (続き) 状態標識/TERMINAL_TYPE=JPC3270 を指定した場合

状態標識	意味
XX 無効なキーが押されました。	使用できない場所で，あるキー機能を実行しようとした場合に表示されます。
XX フィールドがいっぱいです。	フィールドを超える量の文字を入力しようとした場合に表示されます。
XX やり直してください。	入力禁止メッセージが表示されているときに，RESET キー機能によって入力禁止を解除せずに，入力を継続しようとした場合に表示されます。

表 1–5 状態標識/TERMINAL_TYPE=J3270 を指定した場合

状態標識	意味
SSCP	IBM 制御プログラムとのセッション (SSCP-LU セッション) 中である。
Appl	IBM システムの適用業務プログラムとのセッション (LU-LU セッション) 中である。
Ext	EXT 機能を使用中である。
O	NumOvr 機能を使用中である。このインディケータは，NumOvr 機能を再度押したときにオフになる。
Insert	挿入モードである。
Inhib	端末からの入力が禁止されていることを示しています。これは次のような場合に表示されます。 a. 保護フィールドにデータを書き込もうとした場合 b. 許可されていないタイプのデータを入力しようとした場合 c. ENTER キーを押した直後など
K	キー先読み機能が動作中である。
P	Play モードである。 Play 機能によってキー操作を再生中である。
A	自動コマンドモードである。 Auto Command 機能によってコマンド・スクリプトを実行中である。
Print	画面の内容をファイルまたはプリンタに出力中である。処理が終了するまで，状態標識は表示されたままの状態である。
R	Record モードである。キー操作が記録されている。
K	キー先読み機能が動作中である。

(次ページに続く)

表 1–5 (続き) 状態標識/TERMINAL_TYPE=J3270 を指定した場合

状態標識	意味
SysAvl	IBM システムとの通信が正常に行なわれており，データの送信が可能であることを示します。 TE が IBM システムにデータを送信している間は，このメッセージは表示されません。
Wait	IBM システムが，入力をまだ受付ける状態でないことを示します。ステータス・ラインが使用可能な場合，このメッセージは SysAvl がオフのときに表示されます。

1.2.1.3 TE ウィンドウのサイズ変更

他の DECwindows アプリケーションの場合と同様に，ウィンドウの右上の角にあるサイズ変更ボタンを使用することで，TE ウィンドウのサイズを変更できます。 TE ウィンドウをもとのサイズに戻すには，「コマンド」メニューをプルダウンし「ウィンドウ・サイズ変更」を選択します。

1.2.2 データの入力

データを入力できる状態になった場合には，カーソルによって示されるフィールドに必要な情報を入力します。

不定様式画面
IBM システムのプログラムが不定様式画面を表示した場合の入力方法については，IBM システムのマニュアルをご覧ください。不定様式画面では入力を区切るために FM キーが使用されることがあります。また，不定様式の画面にデータを入力する方法は，使用するアプリケーション・プログラムによって異なります。

定様式画面
IBM システムのプログラムが定様式画面を表示した場合には，入力可フィールドにのみデータを入力して編集してください。入力可フィールドにデータを入力すると，適用業務プログラムに応じてカーソルは自動的に次の入力不可フィールドまたは入力可フィールドの先頭に移動します。また，Left，Right，Up，Down，Tab，BckTab，Home，NewLin 等を使用してカーソルを移動することも可能です。一部のキーを誤って使用すると，入力不可フィールドに対する入力を禁止するためにキーボードがロックされることがあります。キーボードがロックした場合には，状態標識「XX この位置では変更できません。」が表示され，データを入力するためにどのキーも使用できない状態になります。この場合には Reset 機能を使用して，キーボードのロックを解除した後，再度キーボードを使用してください。 (これらの機能や他の使用可能なすべての機能についての説明は，『付録 A, キーボード機能』を参照してください。)

1.2.3　日本語の入力方法

日本語を入力するには漢字入力ウィンドウを起動します。漢字入力ウィンドウ内ではかな漢字変換を行うことができます。

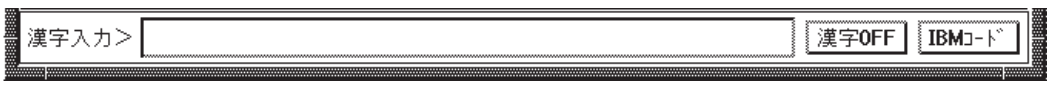
1.2.3.1　漢字入力ウィンドウの起動

漢字入力ウィンドウを起動するには，以下のいずれかの操作を実行します。

- Kanji キーを押します。
- 「コマンド」メニュー上の「漢字 ON」をクリックします。
- MB2 を押したままにして，ポップアップ・メニューを表示します。マウス・ポインタを「漢字 ON」に移動してから MB2 を離すことにより，「漢字 ON」を選択します。

TE は，操作員情報域の下に図 1–5 に示す漢字入力ウィンドウを開きます。

図 1–5　漢字入力ウィンドウ



漢字入力ウィンドウには，かな漢字変換フィールド，「漢字 OFF」及び「IBM コード」プッシュ・ボタンがあります。かな漢字変換フィールドは，かな漢字変換を行うためのフィールドです。「漢字 OFF」プッシュ・ボタンは，漢字入力ウィンドウを終了する場合に使用します。「IBM コード」プッシュ・ボタンは，「IBM コード」を 16 進表現で指定し，それに対応する漢字をかな漢字変換フィールドに入力する場合に使用します。

漢字入力ウィンドウが起動すると，「コマンド」メニューとポップアップ・メニュー上の「漢字 ON」の表示は「漢字 OFF」に変わります。

1.2.3.2　かな漢字変換入力

漢字入力ウィンドウが開かれると，次の操作を行うことによって，かな漢字変換入力を行うことができます。

1. 文字カーソルを文字入力位置に移動します。
2. 文字キーを打鍵します。文字はかな漢字変換フィールドに入力されます。
3. かな漢字変換キーを押して，かな漢字変換フィールド内の文字をかな漢字変換します。
4. Return キーを押します。かな漢字変換フィールド内の文字が適用業務域に移されます。

かな漢字変換入力を行うには，まず，文字カーソルを文字の入力位置に移動します。文字カーソルを移動するには，Left，Right，Up，Down，Tab，NewLin 等の TE キーを使用します。TE キーについては，『付録 A, キーボード機能』を参照してください。漢字入力ウィンドウが開かれていても，入力フォーカスが適用業務域にあれば，TE キーは有効です。かな漢字変換ウィンドウが開いた直後は，入力フォーカスが適用業務域にあります。文字カーソルを移動したり，Enter，PA，PF キー等を押してホストプログラムへの要求を行ったりすることができます。

文字カーソルを文字の入力位置に置いたら，文字キーを打鍵します。文字は，かな漢字変換フィールドに入力されます。適用業務域にあった入力フォーカスは，かな漢字変換フィールドに移動します。かな漢字変換フィールドに入力フォーカスがある場合は，かな漢字変換キーが有効です。この場合，TE キーは使用できません。

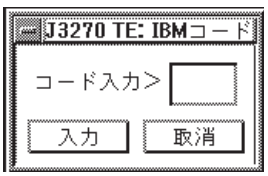
かな漢字変換フィールド内の文字は，かな漢字変換キーを押すことにより，かな漢字変換することができます。かな漢字変換キーの機能や割り当てについては，『日本語 OpenVMS DECwindows Motif 操作ガイド』と『日本語 Motif 日本語機能説明書』を参照してください。かな漢字変換は，日本語 DECwindows Motif の DXmCSText ウィジェットによって実行されます。

かな漢字変換が終わったら，Return キーを押します。かな漢字変換フィールドの文字は適用業務域に移されます。かな漢字変換フィールドにあった入力フォーカスは適用業務域に移動します。ただし，入力不可フィールドに書き込もうとした場合など，入力が不当な場合には，キーボードはロックされ，漢字変換フィールド内の文字は消去されます。この場合も入力フォーカスは適用業務域に移動します。

1.2.3.3 IBM コードの 16 進入力

TE では，IBM コードを 16 進表現で入力することができます。IBM コードを 16 進表現で入力するには，かな漢字変換フィールド上の「IBM コード」プッシュ・ボタンをクリックします。図 1–6 に示す「IBM コード」ウィンドウが表示されます。

図 1–6 「IBM コード」ウィンドウ



このウィンドウに IBM コードの 16 進表現を入力します。Return キーを押すか，あるいは「入力」をクリックすれば，入力した 16 進コードに対応する IBM コードがかな漢字変換フィールドに書き込まれます。「取消」をクリックすると，IBM コードはかな漢字変換フィールドに書き込まれません。指定した 16 進コードが不当な場合は，入力が取り消され，ウィンドウは閉じられません。

再び「IBM コード」ウィンドウを開いた場合には，最後に入力した IBM コードの 16 進表現が表示されます。

1.2.3.4 漢字入力ウィンドウの終了

漢字入力ウィンドウを終了するには，以下のいずれかの操作を実行します。

- Kanji キーを押します。
- 「コマンド」メニュー上の「漢字 OFF」をクリックします。
- MB2 を押したままにして，ポップアップ・メニューを表示します。マウス・ポインタを「漢字 OFF」に移動してから MB2 を離すことにより，「漢字 OFF」を選択します。
- 漢字入力ウィンドウの「漢字 OFF」をクリックします。

漢字入力ウィンドウのかな漢字変換フィールド内に文字が表示されている時に上記の操作を行うと，その文字は適用業務域に入力されずに取り消されます。かな漢字変換フィールドに表示された文字を適用業務域に入力するには，上記の操作を行う前に，Return キーを押してください。

漢字入力ウィンドウを終了すると，「コマンド」メニューとポップアップ・メニュー上の「漢字 OFF」の表示は，「漢字 ON」に変わります。

かな漢字変換フィールド内で Return キーを押した時に，漢字入力ウィンドウを自動的に終了させることもできます。漢字入力ウィンドウを自動的に終了させるには，「オプション」メニューの「漢字確定自動終了」トグル・ボタンをオンにします。

1.2.4 データの編集

入力可フィールドのデータを編集する場合，既に書き込まれたデータにデータを上書きしたり（通常モード），部分的に文字が埋められたフィールドに新しいデータを挿入したりする（挿入モード）ことができます。また， Delete， ErEof， ErInp などの機能を使用して，入力可フィールドの内容を変更することも可能です。

1.2.4.1 通常モード

通常モードではデータを入力したり，既に書き込まれたデータを編集することができます。データを入力する場合，タイプした文字は空 (NULL) の位置に格納されるか，またはその位置にすでに表示されている文字が新しい文字（スペースも文字です。）に変更されます。その後，カーソルは次の位置に移動します。

1.2.4.2 挿入モード

Insert キーを使用することにより，入力可フィールドの既存の文字の間に新しい文字を入力できます。

挿入モードを使用するには， Insert 機能を使用します。まず，テキストを挿入したい場所の右側の文字の位置にカーソルを移動します。入力した文字はすべて，カーソルとその左側のテキストの間に挿入されます。テキストが挿入されると，カーソルの位

置にある文字とフィールド内のカーソルの右側にあるすべての文字は，1 文字分ずつ右に移動します。

入力可フィールドがいっぱいになるまで，文字は何文字でも挿入できます。フィールドがいっぱいになった後，さらにテキストを挿入しようとした場合にはキーボードがロックされ，操作員情報域に状態標識「XX フィールドがいっぱいです」が表示されます。その場合には，Reset 機能を使用して挿入モードを終了し，通常モードに戻ってください。また，Enter，Clear，あるいは PA 機能や PF 機能を使用することにより，挿入モードを終了することも可能です。

注意

フィールドにデータを挿入するための領域が残されているように見える場合でも，複数のスペースが後に続いているために，フィールドへの挿入操作ができない場合があります。

1.2.5 表示画面の印刷

TE の印刷機能を使用すれば，TE 表示画面を印刷することができます。ここでは，IBM 表示画面の内容を省略時の印刷属性で印刷する方法と，省略時の印刷属性を変更して印刷する方法を説明します。

1.2.5.1 省略時印刷属性での印刷

TE の省略時印刷属性で IBM 表示画面の内容を印刷するには，「ファイル」メニューをプルダウンし，「印刷」を選択します。あるいは，Print キーを押します。Print キーについては『付録 A, キーボード機能』を参照してください。TE は，表示されている IBM 表示画面から現在の省略時印刷ファイルに TE 表示画面の内容を印刷します。

TE の初期設定では，表示画面のテキストデータのみが印刷されます。画面全体がファイル SNATPRINT.LIS に保存されます。しかし，省略時の設定を変更することにより，初期設定と異なる出力ファイルに印刷データを出力することも可能です。省略時設定の変更については，次項で説明します。

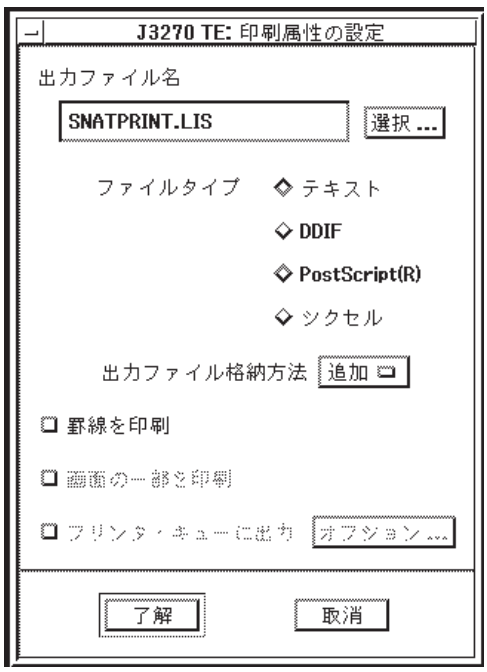
1.2.5.2 TE 印刷属性の設定と印刷

TE では，利用者固有の TE 印刷属性を設定して印刷することができます。この場合，「ファイル」メニューの「印刷...」オプションを選択します。あるいは，SetFil キーを押します。図 1–7 に示す「印刷属性の設定」ウィンドウが表示されます。SetFil キーについては『付録 A, キーボード機能』を参照してください。

「印刷属性の設定」ウィンドウでは，次に示す項目について設定を行うことができます。

- 出力ファイル名

図 1–7 「印刷属性の設定」ウィンドウ



TE 画面の内容を出力する先のファイル名を「出力ファイル名」入力欄に指定します。ディレクトリを指定しなかった場合は，TE 起動時のディレクトリが指定されたものと見做されます。

TE の初期設定では，SNATPRINT.LIS が「出力ファイル名」欄に表示されます。ディレクトリは，TE 起動時のディレクトリが表示されます。

利用者システムのディレクトリから出力ファイルを選択することもできます。その場合は「選択...」をクリックします。「ファイルの選択」ウィンドウが表示されるのでファイルを選択してください。選択したファイル名が「出力ファイル名」入力欄に入力されます。

- ファイルタイプ

  TE 表示画面の内容をどのような形式で出力するかを，「テキスト」，「PostScript(R)」，「シクセル」，「DDIF」の中から選択できます。「テキスト」を選択すると，TE 表示画面のテキストデータのみを印刷します。「PostScript(R)」，「シクセル」，「DDIF」を選択すると画面イメージをモノクロで印刷します。 TE の初期設定では，「テキスト」が選択されています。

- 格納方法

  出力ファイルの格納方法を選択します。「新規」を選択すると，同名のファイルが存在しない場合は，新規にファイルを作成します。同名のファイルが存在する場合は，既存の同名ファイルはそのままで，それよりバージョン番号の新しいファイルを新たに作成します。「追加」を選択すると既存ファイルの最後にデータが追加されます。格納方法は，「テキスト」の場合にのみ指定可能で，初期値は

「追加」です。「PostScript(R)」，「シクセル」，「DDIF」の場合の格納方法は「新規」です。

- 罫線を印刷

  「罫線を出力」トグルボタンをオンにすると，行間罫線を出力することができます。オフの場合には行間罫線は出力されません。

  「罫線を出力」トグルボタンは，印刷ファイルタイプが「テキスト」の場合にのみ指定可能で，初期値はオフです。

  注意

  出力装置が行間罫線に対応していないものは，行間罫線の印刷 を指定しても出力されません.

- 画面の一部を印刷

  「画面の一部を印刷」トグルをオンにすると，TE 表示画面の一部を選択して印刷することができます。オフの場合は画面全体が印刷されます。「画面の一部を印刷」トグルは，「PostScript(R)」，「シクセル」，「DDIF」の場合にのみ指定可能で，初期値はオフです。「テキスト」の場合は画面全体の印刷を行います。

  「画面の一部を印刷」トグルをオンにして「了解」を押すと，「印刷属性の設定」ウィンドウは終了し，小さい十字が現れます。印刷領域を選択するには，MB1 を押し，その領域が選択されるまで十字をドラッグします。 MB1 を離すと，選択した画面領域が印刷されます。図 1–8 では， IBM 表示画面の中で印刷領域を選択しています。

- プリンタ・キューに出力

  TE 表示画面の内容を出力ファイルに保存した後，そのファイルをプリント・キューに送ることができます。この場合，「プリンタ・キューに出力」トグルをオンにします。オフにするとプリンタ・キューには送られません。

  「オプション」をクリックすると，図 1–9 に示すウィンドウが表示され，このウィンドウでプリント・フォーマットや出力先プリンタを指定することができます。

上記の項目を設定した後，「了解」をクリックします。「印刷属性の設定」ウィンドウが終了します。この後，「画面の一部を印刷」トグルがオフの場合は，直ちに印刷が始まります。「画面の一部を印刷」トグルがオンの場合は，小さい十字が現れます。 MB1 を押し，その領域が選択されるまで十字をドラッグします。 MB1 を離すと，選択した画面領域の印刷が始まります。印刷が終了すると， TE 画面の操作員情報域に「画面内容が印刷されました。」というメッセージが表示されます。「取消」をクリックすると，変更した設定内容は取り消され，印刷は行なわれません。

図 1–8　印刷領域を選択した IBM 表示画面

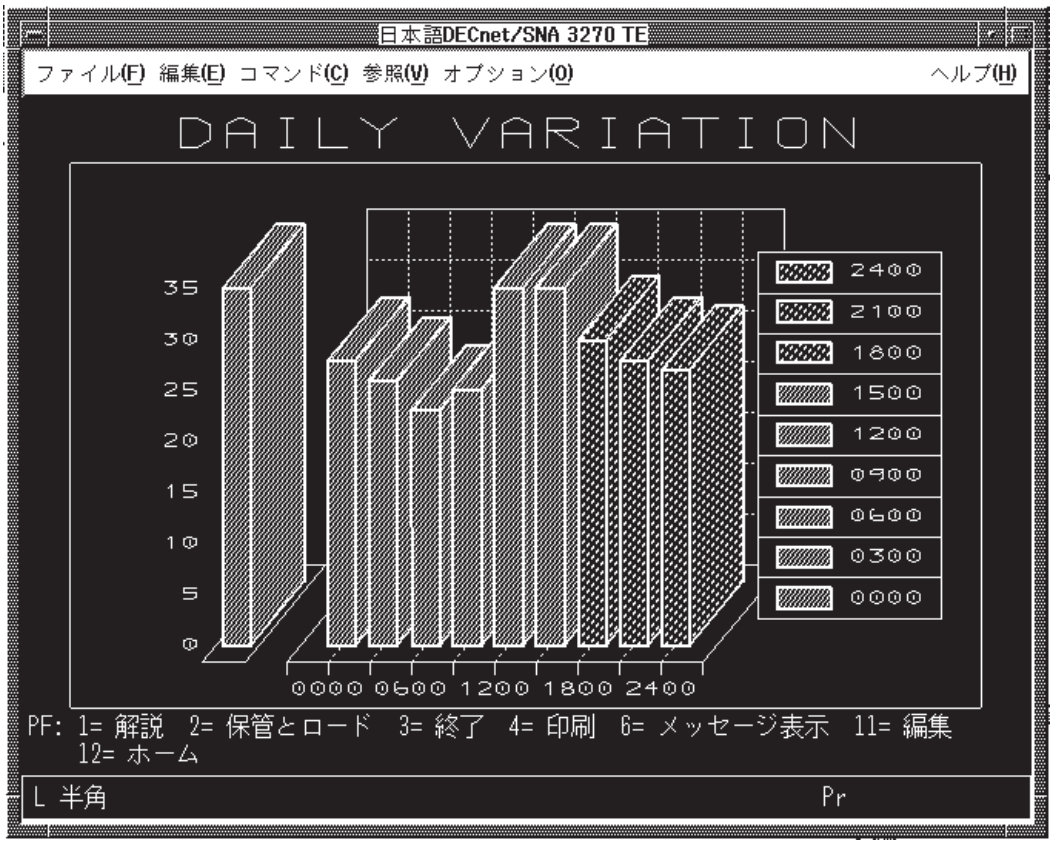
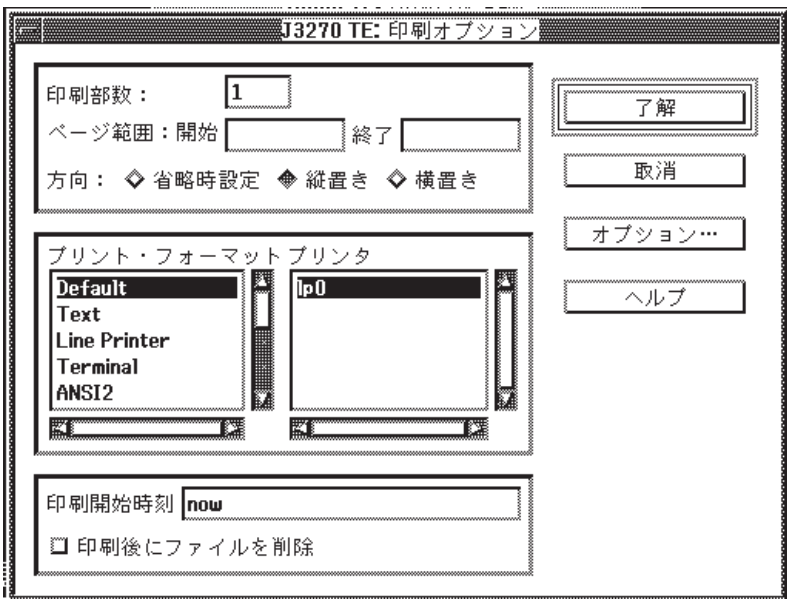


図 1–9　印刷オプション (その 1)



1.2.6　複写と貼付けの使用

TE では，異なるアプリケーション間で，テキストの複写と貼付けを行うことが可能です。この機能により，アプリケーション間での素早いデータ交換を行うことができ，キーボードからデータを入力する時間を節約することができます。

1.2.6.1 「複写」機能によるテキストの複写

「編集」メニューを使用して，選択したテキストを DECwindows クリップボードに複写することができます。テキスト文字列（あるいはテキスト・ブロック）を選択し，複写するには次のようにします。

1. MB1 でテキスト文字列をドラッグ選択します。カーソルをテキスト文字列に移動し，MB1 を押し，カーソルを左または右へドラッグして選択したいテキストを高輝度にしてください。 MB1 を離すとテキストが選択されます。
2. 選択したテキストを DECwindows クリップボードに複写するために，「編集」メニューをプル・ダウンし，「複写」を選択します。複写したテキストは，別の複写操作を行うか，現在の DECwindows セッションをログ・アウトするまでクリップボードに残っています。

1.2.6.2 「すべて選択」によるテキスト全体の複写

アプリケーション・ウィンドウ全体を選択し複写するには，次のようにします。

1. まず，「編集」をプルダウンし「すべて選択」を選択します。
2. 次に，「編集」を再びプルダウンし，「複写」を選択します。これによりアプリケーション画面が DECwindows クリップボードに複写されます。

複写後，その画面内容がそれ以前のクリップボードの内容を上書きします。

1.2.6.3 「貼付け」機能によるテキストの貼付け

「複写」機能でテキストをクリップボードに複写した後，「貼付け」機能を使用することにより，そのテキストを現在の DECwindows セッションの書き込み可能なフィールドに貼付けることができます。同じテキストを再び複写しなくても，クリップボードに複写されたテキストを何度でも貼付けることができます。

「貼付け」機能を使用するには，次のようにします。

1. 「複写」機能でテキスト文字列をクリップボードに複写します。
2. 次に MB1 を使用して，アプリケーション・ウィンドウを入力フォーカスにします。矢印キーを使用して，テキストを貼付けたいフィールドにカーソルを移動します。
3. 「編集」メニューをプルダウンし，「貼付け」を選択します。クリップボードに複写したテキストが，カーソルで指示したフィールドに現れます。

1.2.6.4　マウスによる複写と貼付け

あるフィールドから別のフィールドへ短いテキスト文字列を複写したい場合，マウスを使用した複写と貼付けは特に便利です。 TE では，同じアプリケーションの中でも，あるいは 2 つのアプリケーション間でも，テキストの複写と貼付けが可能です。

マウスでテキストの複写と貼付けを行うには，次のようにします。

1. MB1 でテキスト文字列をドラッグ選択します。カーソルをテキスト文字列に移動し， MB1 を押し，カーソルを左または右へドラッグして選択したいテキストを高輝度にしてください。 MB1 を離すとテキストが選択されます。
2. マウス・カーソルをアプリケーション・ウィンドウの中のフィールドに移動します。そのアプリケーション・ウィンドウは，テキストを選択したのと同じウィンドウでも構いませんし，あるいは現在の DECwindows セッションの下で動作している別のアプリケーション・ウィンドウでも構いません。
3. MB2 をクリックして選択したテキストを，マウス・カーソルの置かれたフィールドに複写します。選択したフィールドはそれを新しいフィールドに複写した後も選択され続けていることに注意してください。このテキストは，再度選択しなくても，別のフィールドに複写することができます。

1.2.6.5　MB2 による複写と貼付け（即時複写）

DECwindows 即時複写により，1 つのアプリケーション画面上において，あるフィールドから別のフィールドにテキストを手軽に複写することができます。即時複写を行うには，以下のようにします。

1. テキストを貼付けたいフィールドにカーソルを位置付けます。
2. テキスト・ブロックの上にマウス・カーソルを位置付け， MB2 を押します。 MB2 を押したまま選択したいテキストの上をドラッグします。
3. MB2 を離すと，ドラッグしたテキストは自動的にアプリケーション画面のカーソル位置に複写されます。

1.2.6.6　拡張選択機能の使用

1 度 MB1 でテキスト領域を選択した後，その選択領域をマウスまたはキーボードの矢印キーで拡張することができます。

マウスによる拡張選択：

1. MB1 でテキストを選択した後，マウス・カーソルを選択したかった領域の境界を示す位置まで移動します。この位置は，選択したテキストの上下左右いずれでも構いません。
2. シフト・キーを押して， MB1 をクリックします。これにより，最初に選択した領域はマウス・カーソルの現在の位置まで拡張します。

矢印キーによる拡張選択：

MB1 でテキストを選択した後，シフト・キーを押しながらいずれかの矢印キーを押すと，選択したテキストの範囲が拡張します。

1.2.6.7 キーボード選択を使用した複写と貼付け

もし，X サーバにマウス機能が備わってない場合，複写と貼付けを行うためにキーボードを使用することができます。表 1–6 は OpenVMS サーバ上で，このような機能を実行するためにどのようにキーボードを使用すればよいかを示しています。

表 1–6 複写と貼付けのためのキーボード選択

キー選択	機能
Select	選択を始めるためのアンカーを設定します。
Shift/Select	アンカーと現在のカーソル位置の間の領域を選択します。また，それまでに行った選択を解除します。
Shift/F8	追加モードと通常モードを切り替えます。省略時モードは通常モードです。
Shift/↑ ,↓ ,→ ,←	現在の選択を拡張します。
Ctrl//	すべて選択します。
Ctrl/¥	選択を解除します。
F14	貼付けます。
Ctrl/Insert Here	クリップボード複写
Shift/Insert Here	クリップボード貼付け

1.2.7 キー操作の記録と再生

ある操作で何度も同じ一連のキー操作を繰り返すことが必要な場合に，そのキー操作を記録すればとても便利です。 TE では，テキスト，コマンドあるいはその両方からなる一連のキー操作を記録することができます。 1 つの PF キーに最大 127 のキー操作を記憶することができ， Play 機能を使用して再び同じキー操作を繰り返すことができます。

この節では， TE を使用している時にキー操作を記録する方法と再生する方法について説明します。

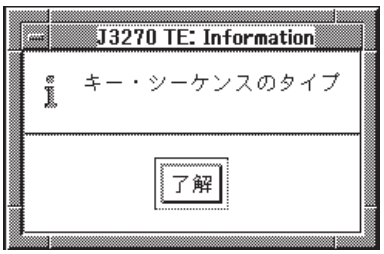
1.2.7.1 キー操作の記録

キー操作を記録するには，次の操作を実行します。

1. 「コマンド」メニューをプルダウンし，「キーを記録... 」を選択してください。「キーを記録」ダイアログ・ボックスが表示されます (図 1–10 を参照) 。
2. 一連のキー操作を割り当てる PF キーをクリックします。次に「了解」をクリックします。操作員情報域に「R」が表示され，図 1–11 が表示されます。

図 1–10 「キーを記録」ダイアログ・ボックス

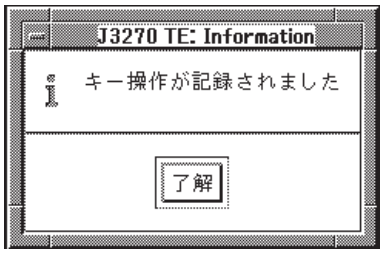
図 1–11 キー操作の記録開始メッセージ・ボックス



次に「了解」をクリックしてウィンドウを消し，保存したい一連のキー操作を行います。

3. キー操作の記録が終わったら，メニューをプルダウンし，再び「キーを記録...」を選択してください。これにより，それまでのキー操作が保存され，図 1–12 に示すメッセージ・ボックスが表示されます。「了解」を押してください。

図 1–12　キー操作記録終了メッセージ・ボックス



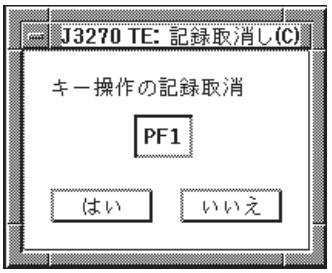
1.2.7.2　実行中のキー操作の記録取り消し

「キーを記録...」を再度選択するまでは，いつでも実行中のキー操作の記録を取り消すことができます。実行中の記録を取り消すには，次のようにします。

1. 「コマンド」メニューを再びプルダウンし，「記録取消し」を選択します。キー操作の記録取消メッセージ・ボックスが表示されます。（図 1–13 参照）
2. 「はい」をクリックし，キー操作の記録を取り消します。

このようにして記録を取り消すと，TE は記録操作を取り消す以前に入力したキー操作を保存しません。

図 1–13　キー操作の記録取消メッセージ・ボックス



1.2.7.3　記録されたキー操作の表示

現在記録されているキー操作を見るには，次のようにします。

1. 「参照」メニューをプルダウンし，「キー操作レコード」を選択します。「キー操作レコード」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 見たいキー操作が記録されている PF キーをクリックします。そのキー操作が表示されます。図 1–14 は記録されたキー操作を示しています。山括弧で囲まれた項目（<NEWLIN>と）は機能キーです。
3. 終了したら「終了」をクリックします。

図 1–14 「キー操作レコード」ダイアログ・ボックス

1.2.7.4 記録されたキー操作の再生

記録されたキー操作を再生する前に，カーソルがアプリケーション画面の正しい位置に置かれていることを確認してください。もし，いくつかのテキストとコマンドを含むキー操作を記録した時，カーソルがある特別なフィールドにある場合は，キー操作の再生が正しく行なわれるようにカーソルを同じフィールドに置かなければなりません。記録されたキー操作を再生するには，次の操作を行ないます。

1. 「コマンド」メニューをプルダウンし，「キーの再生...」を選択します。どの PF キーがキー操作を記録しているかを見ることができます。 TE は図 1–15 に示すような「キーの再生」ダイアログ・ボックスを表示します。

図 1–15 「キーの再生」ダイアログ・ボックス

2. 再生すべきキー操作を記録した PF キーをクリックします。次に「了解」をクリックします。キー操作が再生されると，操作員情報域に「P」が表示されます。

1.2.8 自動コマンド機能

TE 使用中に，ある決まった一連の操作を毎回行なう場合に， 自動コマンド機能を使用すると便利です。

自動コマンド機能ではあらかじめ自動コマンド・スクリプト ファイルに記述しておいた入力文字列および TE コマンド列 を再生させることができます。

自動的に TE を操作させる点で"キー操作の記録 / 再生" 機能と類似していますが，これは TE 使用中にキーの操作 が必要なのに対して，"自動コマンド"機能ではテキスト エディタ等であらかじめ作成しておいたスクリプトファイル を使用できる点が違います。

1.2.8.1 自動コマンド・スクリプトファイルの作成

自動コマンド・スクリプトファイルの作成方法に関しては，付録 H を参照して下さい。

1.2.8.2 自動コマンドの実行

1. 「オプション」メニューをプルダウンし，「自動コマンド...」を選択するか，または ATCOM キーを押して下さい。「自動コマンドファイル」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「自動コマンドファイル」入力部分をクリックしてキーボードからファイル名を入力するか，ディレクトリ / ファイル名をダブル・クリックで選択してスクリプトファイルを選択して下さい。
3. 「了解」ボタンをクリックすると自動コマンドが開始されます。自動コマンドの開始を取り消す場合は「取消し」ボタンをクリックして下さい。

1.2.8.3 自動コマンドの中止

実行中の自動コマンドを停止するには，ACCncl キーを押して 下さい。 操作員情報域に「自動コマンドは取り消されました」という メッセージが表示されて自動コマンドは停止します。

ただし，ACCncl キーを押したときに実行中のコマンドは，その送受信が終了した時点で停止します。

自動コマンドでファイル転送を行なっているときに，自動コ マンドを停止させるには，「ファイル転送」ウィンドウの 「中止」ボタンをマウスでクリックします。ただし同時に ファイル転送も中止されます。

1.2.9 数字キーパッドのアクセス

数字キーパッドのキーには，省略時の設定で機能が割り当てられています。この機能を無効にして，数字を入力するために数字キーパッドを使用する場合には，「オプション」メニューをプルダウンし，「数字キーパッド」を選択します。このメニュー選択項目はトグル・スイッチであり，数字入力とキーに割り当てられている機能を交互に切り換えることができます。

数字キーパッドの数値が有効な場合には，「数字キーパッド」選択項目の前のトグル・スイッチが黒になります。

数字キーパッドに省略時の機能を再度割り当てる場合には，再び「数字キーパッド」を選択してください。

1.2.10 現在の設定の保存

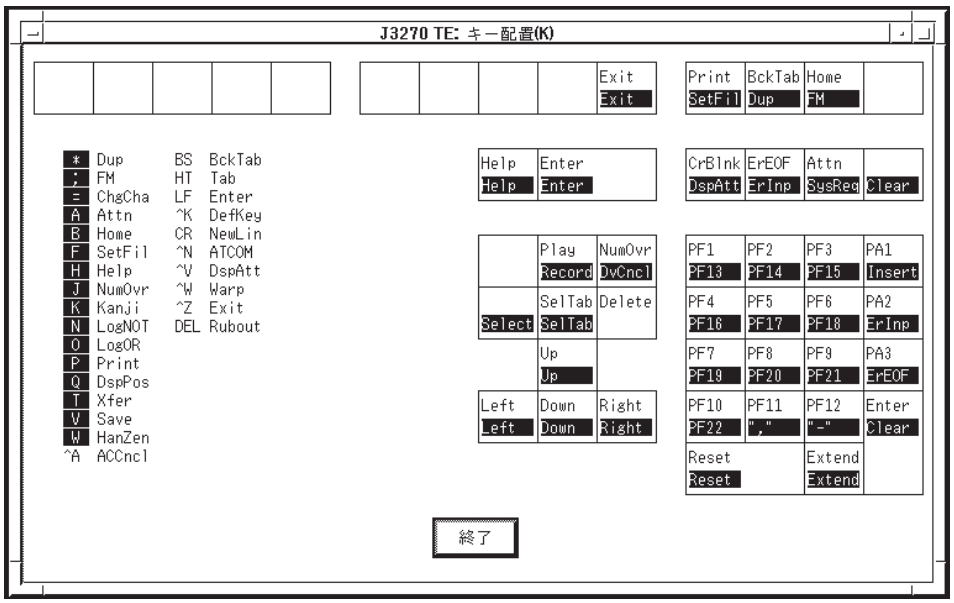
「オプション」メニューのプルダウン・メニューから「現在の設定値を保存」を選択することにより設定を継続することを選択することができます。

現在の設定を保存する時，TE は DECW$USER_DEFAULTS ディレクトリの下に保存ファイル SNADWTE_DEFAULTS.DAT を作成し，TE の設定を保存します。

1.2.11 キーボード・レイアウトの表示

キーボードのキーに TE の機能が現在どのように割り当てられているかを確認するために，キーボード・レイアウトを表示できます。その場合には「参照」メニューをプルダウンし，「キー配置」を選択してください。図 1–16 は，省略時のキーボード・レイアウトを示しています。

図 1–16　LK201 スタイル・キーボード用の省略時キーボード・レイアウト

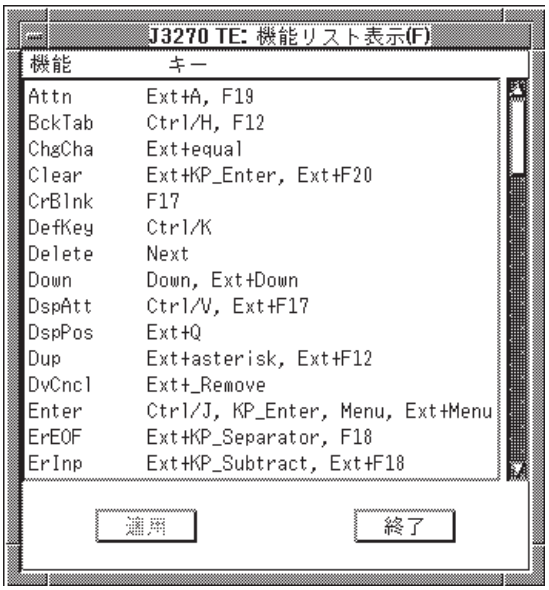


1.2.12　機能リストの参照

多くの TE キーには，省略時機能定義がなされています。これらの機能とその省略時のキー割り当てについては『付録 A, キーボード機能』を参照してください。これらの省略時のキー割り当ては利用者の要求に適合するように，再定義できます。 TE 機能がどのように割り当てられているかを見るには，機能リストをチェックします。

機能リストを表示するには「参照」メニューをプルダウンし，「機能リスト表示」を選択します。 TE 機能がキーボードの各キーにどのように割り当てられているかを示したウィンドウが表示されます。図 1–17 は「機能リスト表示」の例を示しています。

図 1–17 「機能リスト表示」の例



セッションの途中でキー定義を変更しても，「適用」を押せば，その変更結果は機能リストに自動的に反映されます。(図 1–17 を参照)

機能リストの表示を終了する場合には，「終了」をクリックしてください。

1.3 接続パラメータの参照

現在の接続パラメータは，「参照」メニューをプルダウンして「接続パラメータ」を選択することによりいつでも表示できます。図 1–18 のようなウィンドウが表示され，現在設定されているパラメータが示されます。パラメータの表示を終了する場合には「終了」をクリックしてください。

図 1–18 「接続パラメータ」ダイアログ・ボックス

1.3.1 フィールド属性の参照

TE は，フィールドの開始位置にフィールド属性を示す文字を表示することができます。この文字により，フィールドが画面上にどのように表示されるか，例えば，通常輝度，高輝度，非表示等を参照することができます。フィールド属性を示す文字は，TE ポップアップ・メニューを選択するか， DspAtt 機能 (『付録 A, キーボード機能』を参照してください) を使用する場合のみ表示されます。

TE は基本属性，拡張属性の両方の属性に対する情報を提供します。

1.3.1.1 基本属性表示モード

基本属性表示モードを表示するには，TE ポップアップ・メニューにより，「属性表示なし」を選択してください。属性を表す文字が現れ，画面の各フィールドのタイプが示されます。または，Ext + F17 または Ctrl/V を押して，表示する事もできます。次の表は表示される文字と対応するフィールドのタイプを示しています。

表 1–7 フィールド属性

表示される文字	フィールド属性
n	入力可フィールド，通常輝度
N	入力不可フィールド，通常輝度
d	入力可フィールド，ライトペン検知可
D	入力不可フィールド，ライトペン検知可
h	入力可フィールド，高輝度
H	入力不可フィールド，高輝度
i	入力可フィールド，非表示
I	入力不可フィールド，非表示

1.3.1.2 拡張属性表示モード

基本属性表示モードのときに，TE ポップアップ・メニューの「基本属性表示」を選択するか，Ext + F17 または Ctrl/V を押すと，拡張属性表示モードになります。

表 1–8 拡張属性表示モード

表示される文字	フィールドのタイプ
a	英数カナ・漢字入力不可フィールド
i	英数カナ・漢字入力可能フィールド
k	漢字フィールド
┣	SO
┫	SI
☒	捕足空白位置

画面を「属性表示なし」の状態にするには，ポップアップ・メニューをもう一度表示して，「拡張属性表示」を選択します。

1.3.2 代替文字モード

日本語 DW 3270 TE ポップアップ・メニューの代替文字モードを選択すると，基本文字モードで指定されなかった方の文字セットが使用されます。

代替文字モードは，表示，Print 機能およびファイル転送に対してのみ有効で，入力は基本文字モードが使用されます。

1.3.3 TE ポップアップ・メニューの使用

MB3 ポップアップ・メニューを使用すれば，ある機能に即時にアクセスすることができ，作業が楽になります。 MB3 ポップアップ・メニューの各項目はメニュー・バーのプルダウン・メニューの中の項目と重複しています。プルダウン・メニューを使用すると機能を正確に実行することができます。

次のテーブルはポップアップ・メニューの各項目とプルダウン・メニューの位置との関連を示しています。

表 1–9 即時機能アクセス： MB3 ポップアップ・メニュー

MB3 ポップアップ・メニュー	プルダウン・メニュー
漢字 ON/OFF	「コマンド」メニューの下
属性表示	「参照」メニューの下
数字キーパッド	「オプション」メニューの下
印刷	「ファイル」メニューの下
キーを記録	「コマンド」メニューの下
キーの再生	「コマンド」メニューの下
記録取消	「コマンド」メニューの下
代替文字モード	「コマンド」メニューの下
キー配置	「参照」メニューの下

1.4 TE の利用者設定

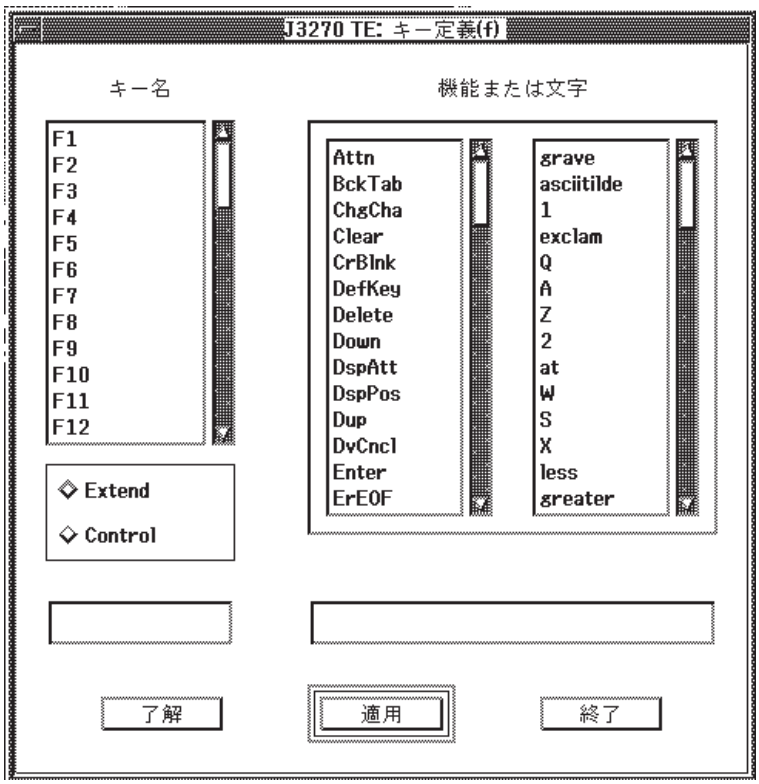
利用者が効率的に作業できるように，TE では利用者固有のキー定義の作成と保存ができます。またいくつかの表示属性を変更することもできます。この章では次の操作方法について説明します。

- キーの定義と削除
- キー定義の保存と読み込み
- TE 表示属性の変更
- 選択用マウス機能の使用方法

1.4.1 キー定義

TE キーボードの各キーには特定の PS55 日本語 3270 パーソナル・コンピュータの機能が割り当てられています。 TE では，利用者の要求に合うようにキー定義を変更することができます。これにより利用者固有の作業をより効果的に行うことが可能になります。次の 2 つの節では，キー定義の割り当てと削除の方法について説明します。この 2 つの機能を使用するには，図 1–19 に示す「オプション」メニューで機能を選択します。

図 1–19　キー定義の変更



1.4.1.1　キーの定義

利用者固有のキーを定義するには，「オプション」メニュー (図 1–19) をプルダウンし，「キー定義...」を選択します。図 1–20 に示す「キー定義」ダイアログ・ボックスが画面に表示されます。それから，次の操作を行います。

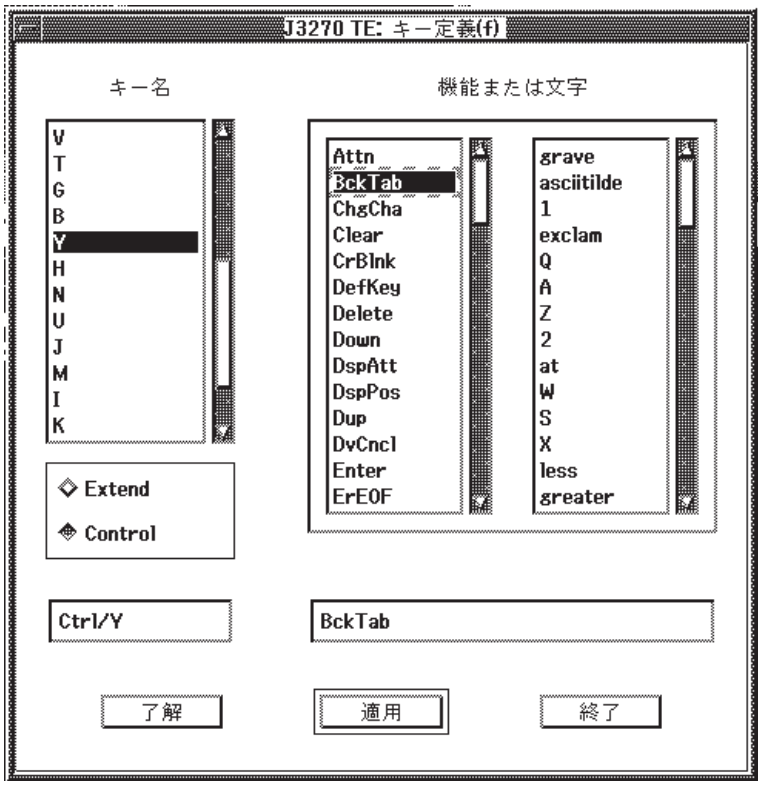
1. 「キー名」リスト・ボックスの内部で，機能または文字を割り当てたいキーをクリックします。 Control キーまたは Extend キーと組み合わせてキーを使用したい場合は (例えば Ctrl/A) ，「Control」または「Extend」オプション・ボタンをクリックしてから，そのキーをクリックします。
2. 「機能または文字」リスト・ボックスは 2 つの一覧ボックスに分割されています。選択したキーに割り当てる機能または文字の名前をクリックします。「適用」をクリックして，機能または文字をキーに割り当てます。
3. 以上の操作を繰り返すことにより，必要な数だけキーを定義することができます。操作が終了した後で，「了解」をクリックします。

新しいキー定義は，現在のセッションを終了するまで有効です。再定義したキーを登録した永久的なファイルを作成する場合には，『第 1.4.2 項, キー定義の保存と読み込み』で説明する「キー定義の保存」メニューを選択してください。図 1–20 は，BckTab 機能を Ctrl/Y に割り当てようとしている「キー定義」ダイアログ・ボックスです。

注意

キー定義で使用できる文字は DEC でサポートしているキーボード KeySym のみです。 DEC でサポートしていないキーボード KeySym に定義した場合にはその動作は保証されません。

図 1–20 「キー定義」ダイアログ・ボックス

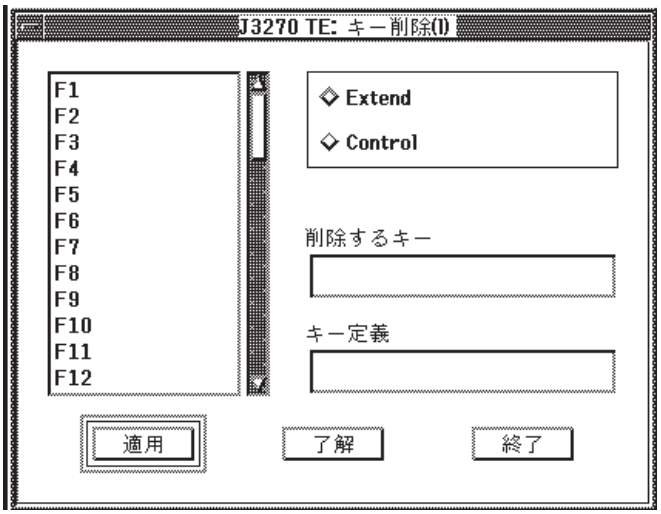


1.4.1.2 キーの削除

キーを削除する場合には，次の操作を実行します。

1. 「オプション」メニューをプルダウンし，「キー削除...」を選択します。図 1–21 に示す「キー削除」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 削除したい機能が割り当てられているキーをクリックします。削除しようとしているキーが Control キーまたは Extend キーのいずれかを使用している場合は (例えば Ctrl/Y) ，「Extend」または「Control」ボタンもクリックします。そして「適用」をクリックして，選択したキーから機能の割り当てを削除します。
3. 以上の操作を繰り返すことにより，必要な数だけ，機能の割り当てをキーから削除できます。操作が終了した後で，「了解」をクリックします。

図 1–21 「キー削除」ダイアログ・ボックス



1.4.2 キー定義の保存と読み込み

セッション中に定義したキーは，そのセッションが終わるまで有効です。新しいセッションを開始すると，前のセッションで定義したキー定義に代わり，省略時のキー定義が有効になります。

「ファイル」メニューをプルダウンし，「キー定義保存...」を選択すると，キー定義を保存したファイルを作成することができます。新しいセッションを開始する時に，キー定義修飾子あるいはオプションでこのファイルを指定すると，TE の省略時キー定義に代わり，このファイルに保存されているキー定義が有効になります。この機能を利用すると，TE セッションを開始する度にキー定義を行う手間を省くことができます。

1.4.2.1 キー定義ファイルの作成

キー定義ファイルを作成するには，以下の操作を行います。

1. TE ウィンドウから「ファイル」メニューをプルダウンして，サブメニューから「キー定義保存...」を選択します。図 1–22 に示す「キー定義保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 新しいキー定義ファイルを作成するために「選択」テキスト入力フィールドにそのファイル名を入力します。リスト・ボックスのなかのファイル名をクリックすることにより，既存のファイル名で新しいファイルを作成することもできます。
3. ファイル名を入力したら，「了解」をクリックします。

図 1–22 「キー定義保存」ダイアログ・ボックス

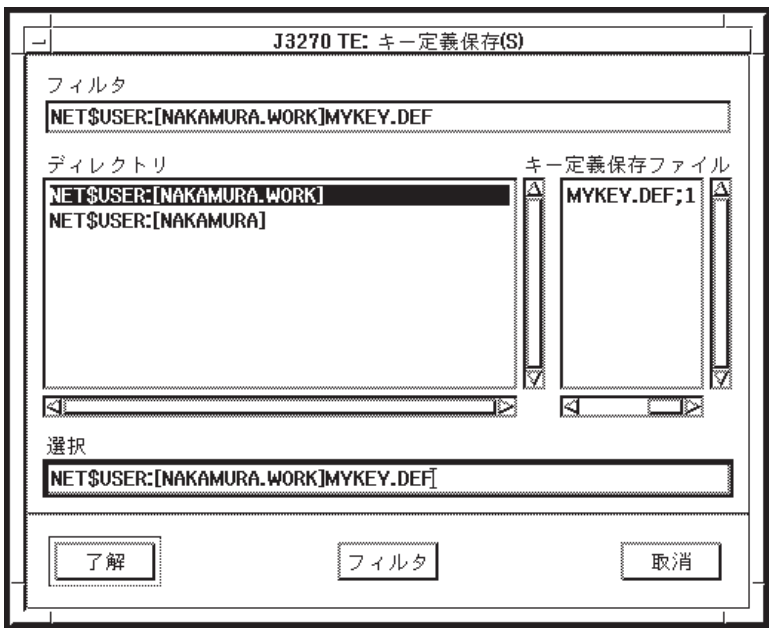
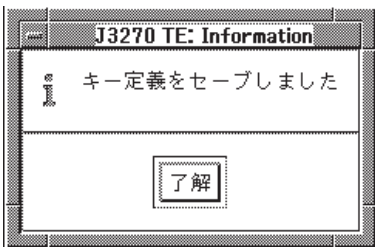


図 1–23 キー定義の保存終了・メッセージ・ボックス



キー定義ファイルを保存するために「了解」を押すと，TE は図 1–23 に示すメッセージ・ボックスを表示します。

1.4.2.2 キー定義ファイルの読み込み

TE を使用していくつかの異なる作業を行う場合，それに対応して複数の異なるキー定義を使用したいということがあるかもしれません。このような場合，セッションの途中に何度でも新しいファイルに置き換えることができます。次のような操作を行うことにより，新しいキー定義ファイルをメモリに読み込んで使用することができます。

1. TE ウィンドウから「ファイル」メニューをプルダウンし，プルダウン・メニューから「キー定義ファイルロード...」を選択します。「キー定義ファイルロード」ダイアログ・ボックス (図 1–24 参照) が表示されます。

図 1–24 「キー定義ファイルロード」ダイアログ・ボックス

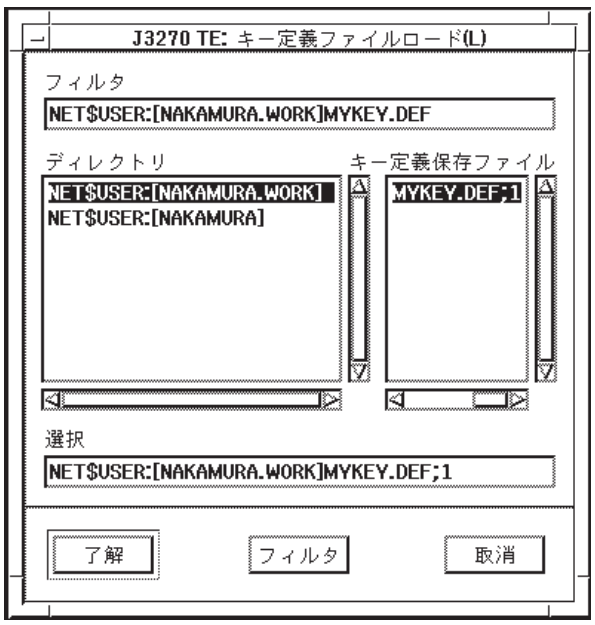
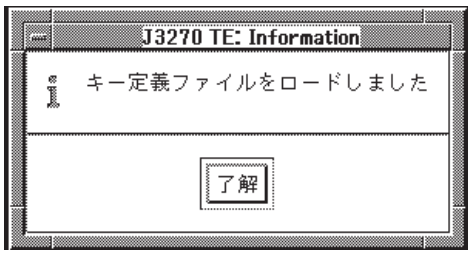


図 1–25 キー定義の読み込み終了・メッセージ・ボックス



2. 使用したいキー定義ファイルがリスト・ボックスに表示された場合には，そのファイルの名前をクリックします。表示されなかった場合には，「選択」テキスト入力フィールドにファイルの名前を入力します。
3. ファイル名を選択または入力した後で「了解」をクリックします。ファイルを読み込めない場合には，キー定義は変更されず，セッションはそのまま継続します。

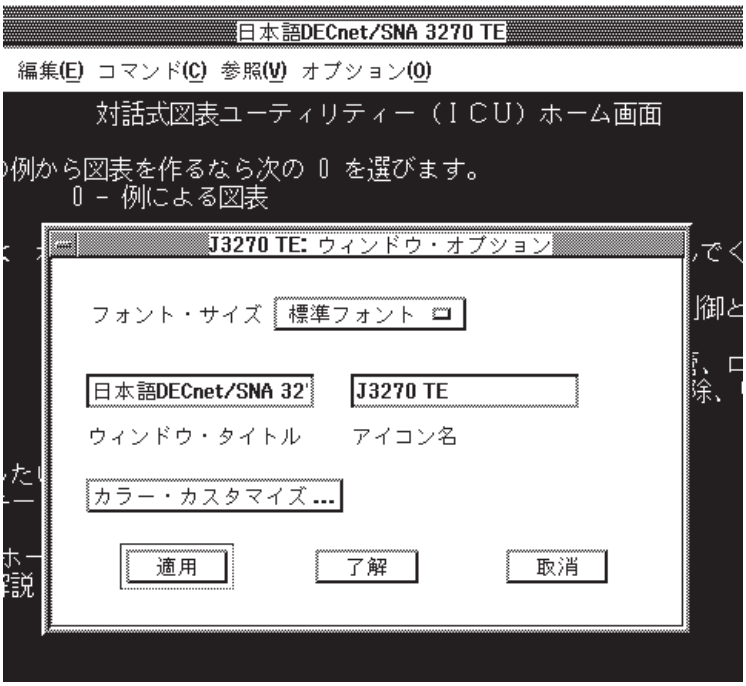
キー定義ファイルを読み込むために「了解」を押すと，TE は図 1–25 に示すメッセージ・ボックスを表示します。

1.4.3　TE 表示属性の変更

「ウィンドウ・オプション」ダイアログ・ボックスの中の省略時設定を変更することにより，TE 表示のいくつかの外観を制御することができます。

「ウィンドウ・オプション」ダイアログ・ボックスを表示するには，「オプション」メニューをプルダウンし，「ウィンドウ...」を選択します。図 1–26 はダイアログ・ボックスと省略時の設定を示しています。

図 1–26　「ウィンドウ・オプション」ダイアログ・ボックス

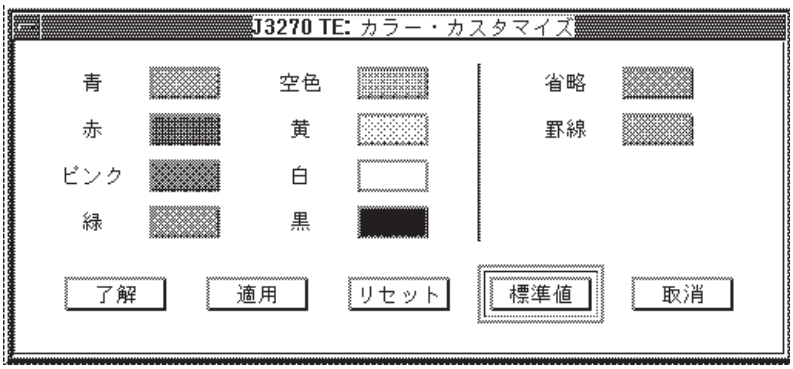


このダイアログ・ボックスでは，フォント・サイズを拡大フォント，標準フォント，縮小フォント,DWTE フォントから選択することができます。 TE 初期設定では，DWTE フォントが選択されます。

ウィンドウ・タイトルまたはアイコン名を変更することもできます。「ウィンドウ・タイトル」入力欄または「アイコン名」入力欄にテキストを入力します。これらの入力欄では，かな漢字変換キーが有効です。かな漢字変換キーの機能や割り当てについては，『日本語 OpenVMS DECwindows Motif 操作ガイド』と『日本語 Motif 日本語機能説明書』を参照してください。かな漢字変換は，日本語 DECwindows Motif の DXmCSText ウィジェットによって実行されます。

TE では，適用業務域に最大 8 色のカラー表示が可能です。そして，これらの 8 色カラーをそれぞれ自由な色に変更することができます。カラーを変更するには，「カラー・カスタマイズ...」を選択します。「カラー・カスタマイズ...」を選択すると，図 1–27 に示す「カラー・カスタマイズ」ウィンドウが表示されます。

図 1–27 「カラー・カスタマイズ」ウィンドウ



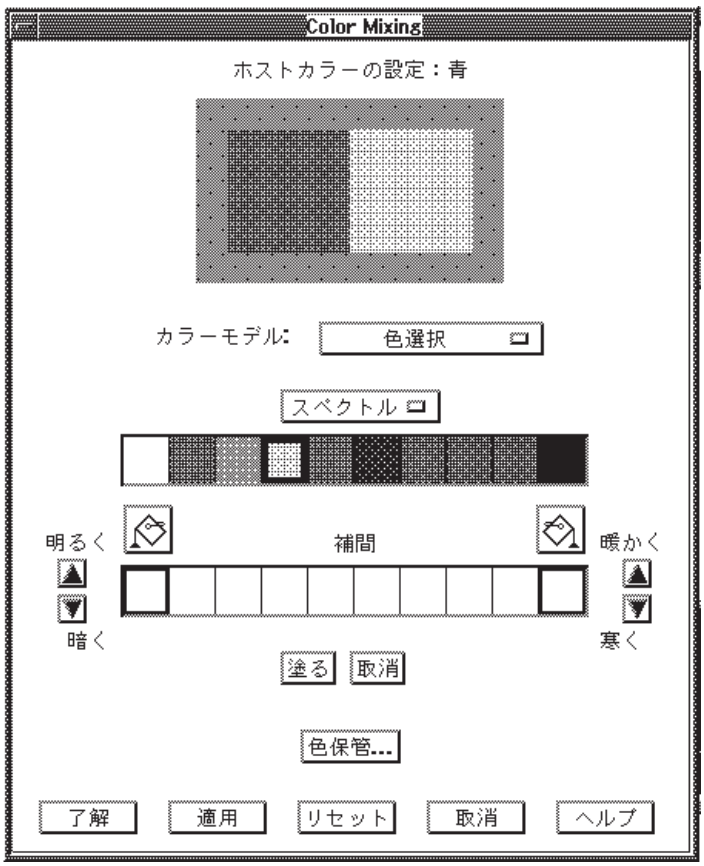
左側に 8 色カラーボックス，右側に省略 (デフォルト) カラーと罫線カラーボックスがあります。 8 色カラーボックスを変更するには，変更したいカラー・ボックスをクリックしてください。図 1–28 に示す「Color Mixing」ウィンドウが表示されます。

「Color Mixing」ウィンドウは，日本語 DECwindows Motif の ColorMixing ウィジェットにより表示されます。

省略 (デフォルト) カラーと罫線カラーボックスのカラーは，8 色カラーボックスの中から選択されます。それぞれのカラーボックスをクリックすることにより，8 色カラーボックスの中のカラーが順次選択されていきます。

カラーの設定を終えたら「了解」をクリックします。選択したカラーが適用業務画面に反映され，「カラー・カスタマイズ」ウィンドウが終了します。選択したカラーを反映した後も，「カラー・カスタマイズ」ウィンドウを表示したままにしておきたい場合は「適用」をクリックします。「リセット」をクリックすると，新しく設定したカラー指定が取消されて，各カラーボックスの設定は現在適用業務域に表示されているカラー設定に戻ります。この場合，「カラー・カスタマイズ」ウィンドウは終了しません。新しく設定したカラー指定を取消した後，「カラー・カスタマイズ」ウィンドウを終了させたい場合は，「取消」をクリックします。「標準値」をクリックすると，TE の標準色が各カラーボックスに表示されます。さらに「了解」あるいは「適用」をクリックすることにより，標準色が適用業務域に反映されます。

図 1–28 「Color Mixing」ウィンドウ

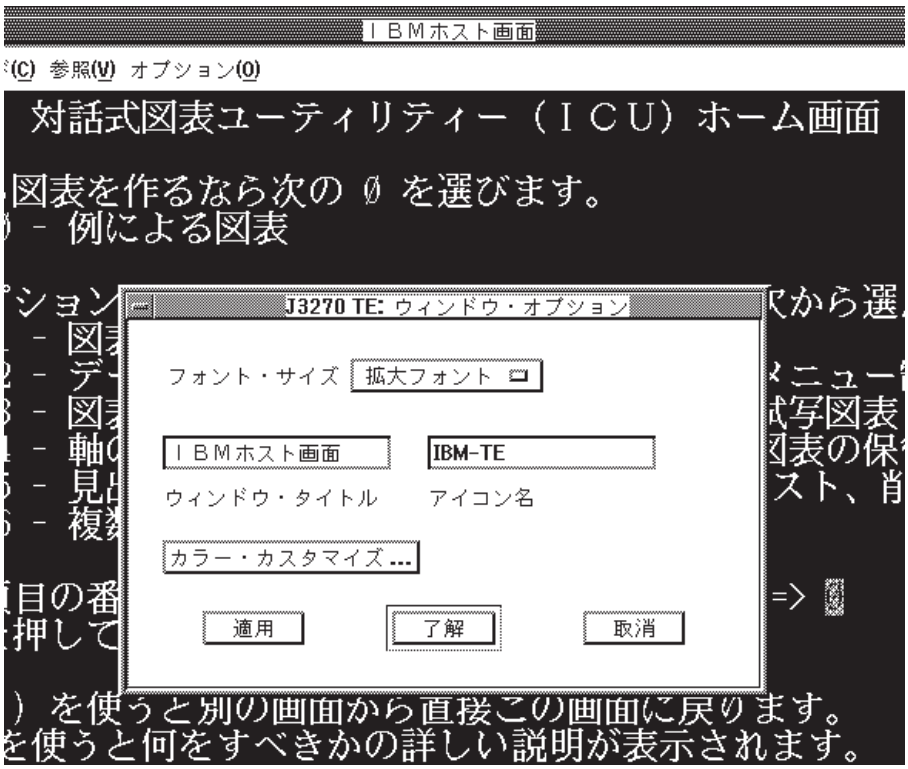


「ウィンドウ・オプション」ダイアログ・ボックスの変更を終えたら，「適用」を押します。 TE 表示ウィンドウに変更が適用されます。ダイアログ・ボックスに示されたウィンドウ・オプションが適切であるなら，「取消」を押してそれらを変更せずに終了します。図 1–29 では，アプリケーション・ウィンドウ上のタイトルとアイコン名が変わり，フォント・サイズが標準フォントから拡大フォントに変わったこと (背景のアプリケーション・ウィンドウを参照してください。) に注意してください。変更を終えた後に，「適用」を押す代わりに「了解」を押すこともできます。アプリケーション・ウィンドウに変更が適用され，ダイアログ・ボックスは消去されます。

注意

ウィンドウ・サイズの変更時には，表示されているグラフィック・データは消去されます。再度グラフィック・データを表示するにはホスト側から新たにグラフィック・データを受信する必要があります。

図 1–29 「適用」後のアプリケーション・ウィンドウ



1.4.4 選択用マウス機能の使用

PS55 日本語 3270 パーソナル・コンピュータにおいてライトペンにより行なわれるライトペン検知可フィールドの選択と IBM システムへのアテンション操作を選択用マウス機能によって行うことができます。選択用マウスを使用すると，人さし指を示す小さい手の形でマウス・ポインタが表示されます。

選択用マウス機能を使用するには「オプション」メニューをプルダウンし，「マウスポインタ変更」を選択します。このメニュー項目はトグル・スイッチであり，選択用マウスと通常のマウス操作を切り換えます。「マウスポインタ変更」機能が使用中の場合には，「マウスポインタ変更」メニュー項目の横にトグル標識が表示されます。選択用マウス機能を取り消すには，メニュー項目を再度選択してください。

注意

選択用マウス機能を使用している途中で，表示領域の内部で TE ポップアップ・メニューをアクセスすることはできません。ポップアップ・メニューをアクセスするには，マウス・ポインタを操作員情報域に移動しなければなりません。

1.5 ファイル転送

TE は，IBM ホスト・システムに導入されている CICS(MVS)，MVS/TSO の各ファイル転送支援プログラム (APVUFILE) を使用して，IBM ホスト・システムと OpenVMS システムの間でファイルの送受信を行うことができます。（本章では特に区別する必要がない場合は，OpenVMS システムを DEC システムと呼びます。）ファイル転送機能を実行するには，CICS または TSO へのログオンが済んでいなければなりません。また，ファイル転送機能の実行中には，IBM3270 端末のエミュレーション機能は使用できません。

ファイル転送支援プログラムについては，以下の IBM 社のマニュアルも参考にしてください。

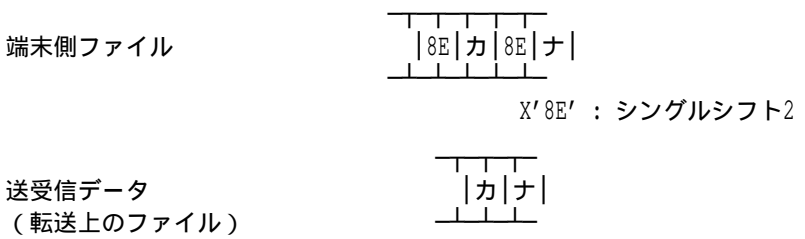
- MVS/TSO ファイル転送支援プログラムプログラム解説書 (N:SH18-0122)
- CICS(MVS,VSE) ファイル転送支援プログラムプログラム解説書 (N:SH18-0123)

1.5.1 コード変換

TE ファイル転送では，英数字，カナ，漢字，タブのコード変換を行うことができます。英数，カナの変換は 1 バイトコード変換テーブルに従って変換されます。1 バイトコード変換テーブルについては『付録 B, 変換テーブル』を参照してください。ここでは，カナ，漢字，タブの変換について説明します。

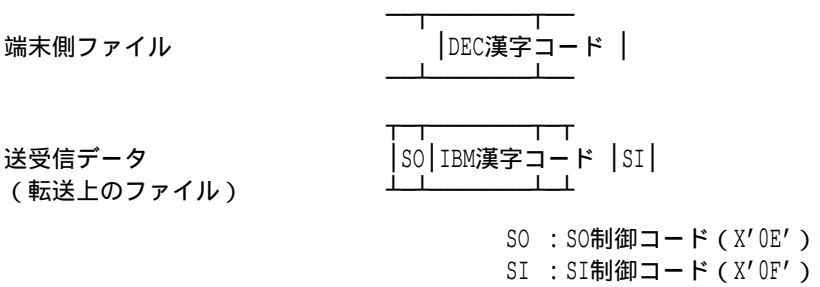
カナコード

DEC 側システム上のカナコード（半角カタカナ）は，JIS カタカナ文字セットのカナコードの前にシングルシフト 2（X'8E'）を付加して表されます。IBM ホスト側システム上のカナコードは，EBCDIC コードで表されます。コード変換ありで DEC 側ファイルを送信する場合は，カナコードの前に付加されたシングルシフト 2 は削除され，カナコードは EBCDIC コードに変換されます。転送上のレコード（送信データ）はシングルシフト 2 を削除した分だけ短くなります。コード変換ありで IBM ホスト側データセットを受信する場合は，EBCDIC カナコードは JIS カタカナコードに変換され，そのカナコードの前にシングルシフト 2 が付加されます。DEC 側ファイルのレコード長はシングルシフト 2 を付加した分だけ長くなります。



漢字コード

DEC 側システム上では漢字コードとして DEC 漢字コードが用いられます。 IBM ホスト側システム上では IBM 漢字コードが用いられ，IBM 漢字コードの前後には切り替えコード (SO,SI 制御コード) が付加されています。コード変換ありで DEC 側ファイルを送信する場合は，DEC 漢字コードは IBM 漢字コードに変換され，IBM 漢字コードの前後に切り替えコードが付加されます。送信データは切り替えコードを付加した分だけ長くなります。コード変換ありで IBM ホスト側データセットを受信する場合，切り替えコードは削除され，IBM 漢字コードは DEC 漢字コードに変換されます。切り替えコードが削除された分だけ DEC 側ファイルのレコード長は短くなります。



カナシフトコードに関する注意

/LOCKING_SHIFT 修飾子を指定した場合には，シングルシフト 2 の代わりにロッキングシフト 2 (X'1B7D') 及びロッキングシフト 3 (X'1B7C') が付加されます。

1.5.2 ファイル転送機能の使用方法

ファイル転送機能を使用するには，「オプション」メニューの「ファイル転送...」を選択するか，あるいはファイル転送機能キー (EXT+T) によりファイル転送モードに移行しなければなりません。ファイル転送モードに対して，通常の IBM3270 端末をエミュレーションするモードを 3270 モードと呼びます。

使用手順を以下に示します。

1. CICS または TSO にログオンされており，実行中のジョブがないことを確認します。

2. 「オプション」メニューの「ファイル転送...」を選択する (あるいはファイル転送機能キーを押す) と，図 1–30 に示す「ファイル転送」ダイアログ・ボックスが表示されます。

   「ファイル転送」ダイアログ・ボックスは，「メッセージ表示域」と「ファイル転送コマンド」入力域からなり，「ファイル転送コマンド」入力域からファイル転送コマンドを入力することにより，ファイル転送を行います。

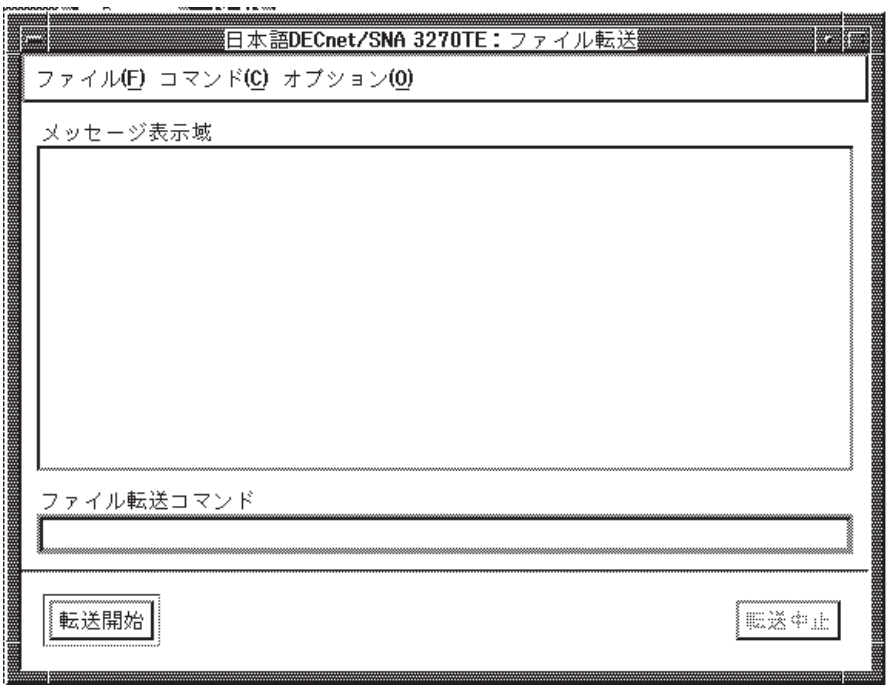
3. ファイル転送コマンド (SEND,RECEIVE 等) を入力します。

4. 「転送開始」のプッシュ・ボタンをクリックすることにより転送を開始します。

5. ファイル転送が開始されると「メッセージ表示域」にファイル転送メッセージが表示されますので，転送が正常に終了したかどうかを確認してください。ファイル転送メッセージについては第 C.2 節にメッセージの一覧があります。

6. 「ファイル転送」ダイアログ・ボックスの「ファイル」メニューで「終了」を選択することにより，ファイル転送を終了します。

図 1–30 「ファイル転送」ダイアログ・ボックス



1.5.2.1　ファイル転送コマンドの入力

ファイル転送コマンドは「ファイル転送」ダイアログ・ボックスの「ファイル転送コマンド」入力域から入力します。コマンドの入力には，直接コマンドを入力する方法の他に，「オプション」メニューの「マクロ...」機能を使用して，より簡単にファイル転送コマンドを入力することも可能です。

さらに入力すべきコマンドを定義し，転送コマンドを入力せずに実行できるユーザ定義マクロ機能があります。この機能により，ユーザは繁雑なファイル転送コマンドを意識することなく，ファイル転送を行うことができます。ユーザ定義マクロ機能については，『第 1.5.3 項, ユーザ定義マクロ機能を使用したファイル転送』を参照してください。

また前回と同じコマンドを繰り返す場合や，前回と同様なコマンドを入力したい場合などには，「メッセージ表示域」の表示内容を利用して，コマンドを入力することも可能です。

1.5.2.1.1　コマンドの直接入力

「ファイル転送コマンド」入力域から直接コマンドを入力します。

コマンドを入力後はリターンキー押すか，もしくは「転送開始」のプッシュ・ボタンをクリックすることにより転送を開始します。

1.5.2.1.2　メッセージ表示域を利用したコマンドの入力

「メッセージ表示域」で表示されている内容を「ファイル転送コマンド」入力域に入力することにより，コマンドのリコールなどを簡単に行うことができます。

「メッセージ表示域」で表示されている内容のうち，利用したい行をクリックすると「ファイル転送コマンド」入力域に，その選択した行の内容がコピーされるます。これ以降は「ファイル転送コマンド」入力域にて編集することが可能です。この様子を図 1–31 に示します。

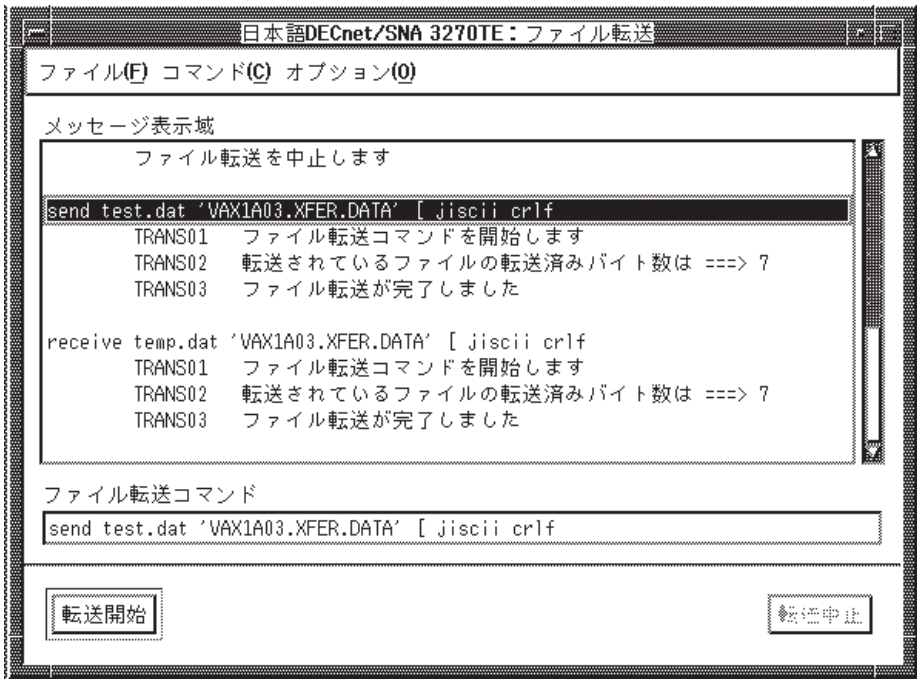
編集終了後はリターンキー押すか，もしくは「転送開始」のプッシュ・ボタンをクリックすることにより転送を開始します。

1.5.2.1.3　コマンドマクロを利用したコマンドの入力

後に説明するように，ファイル転送コマンドは SEND や RECEIVE などいくつかの決まったキーワードと，ファイル名やホスト側のデータセットの指定のように転送の度に変更する項目との組み合せで構成されています。コマンドマクロを使用することにより，決まったキーワードについての入力をマウスでクリックすることで行うことができるようになり，毎回同じキーワードを入力する繁雑さを避けることができます。

マクロコマンドを利用するには，「ファイル転送」ダイアログ・ボックスの「オプション」メニューから「マクロ...」を選択します。すると図 1–32 に示す「ファイル転送マクロ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

図 1–31 「メッセージ表示域」を利用したコマンド入力



「ファイル転送マクロ」ダイアログ・ボックスにはキーワードがラベルとなったプッシュ・ボタンからあり，これらをクリックすると「ファイル転送コマンド」入力域にそのキーワードが入力されます。

また「ローカルファイル名...」プッシュ・ボタンをクリックすると，ファイル・セレクション・ボックスが表示され，ローカルファイル名を選択することができます。

編集終了後はリターンキー押すか，もしくは「転送開始」のプッシュ・ボタンをクリックすることにより転送を開始します。

1.5.2.2 ファイル転送の中止

ファイル転送が開始されると，「ファイル転送」ダイアログ・ボックスの「転送中止」プッシュ・ボタンがクリック可能となります。ファイル転送中に転送を中止したい場合は，「転送中止」プッシュ・ボタンをクリックしてください。

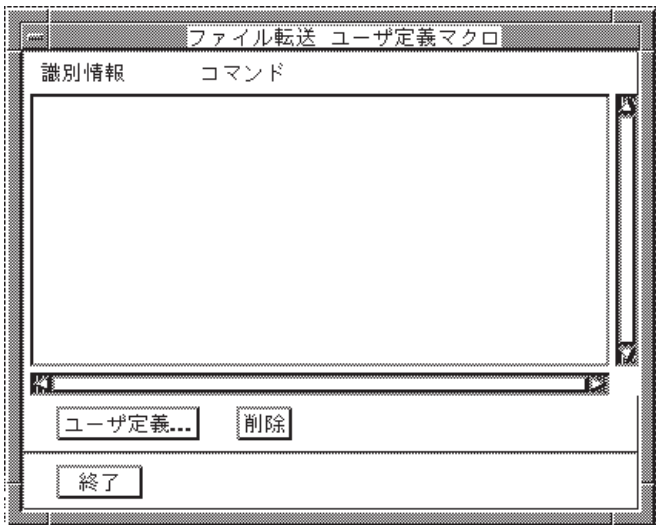
図 1–32 「コマンドマクロ」を利用したコマンド入力

1.5.3　ユーザ定義マクロ機能を使用したファイル転送

ユーザ定義マクロ機能を使用すると，ユーザはあらかじめ定義されたコマンドのリストから転送したいコマンドを選択するだけでファイル転送を行うことが可能です。

ユーザ定義マクロ機能を使用するには，「オプション」メニューの「ユーザ定義マクロ...」を選択します。これにより図 1–33 のようなユーザ定義マクロダイアログ・ボックスが表示されます。

図 1–33　「ユーザ定義マクロダイアログ・ボックス」の例



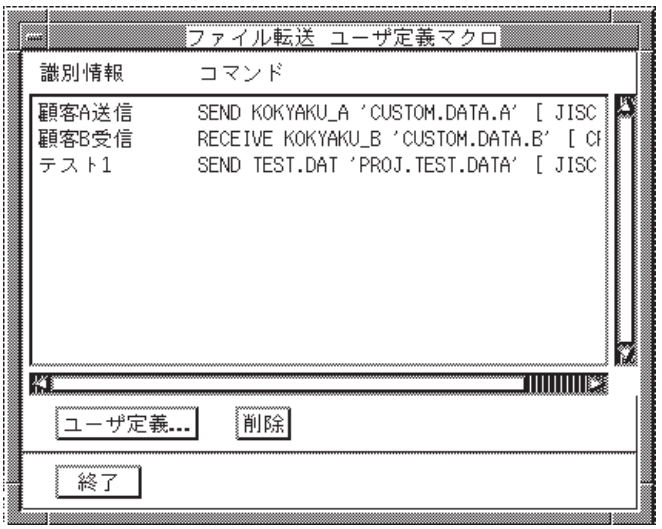
1.5.3.1　ユーザマクロの定義

ユーザ定義マクロを定義するには，図 1–33 のユーザ定義マクロ・ダイアログボックスにおいて「ユーザ定義...」プッシュ・ボタンをクリックします。これにより図 1–34 のようなマクロ定義ダイアログ・ボックスが表示されます。

図 1–34　「マクロ定義ダイアログ・ボックス」の例

識別情報と転送コマンドを入力することにより，ユーザ定義マクロを定義することができます。入力を終了して「終了」プッシュ・ボタンを選択すると，その内容がユーザ定義マクロダイアログ・ボックスのスクロール・リストに登録されます。この様子を図 1–35 に示します。

図 1–35 「ユーザ定義マクロ定義終了後」の例



ここで識別情報とは対応するファイル転送コマンドをあらわす文字列であり，これにより，ユーザは複雑なコマンド列から選択するのではなく，よりわかりやすい識別情報から転送コマンドを選択することができます。

識別情報の文字列の制限

識別情報は英数文字 / 漢字をふくむ文字列ですが，その長さは英数文字であれば 1 2 文字以内，漢字であれば 6 文字以内でなければなりません。それ以上の長さの文字列を指定するとエラー・メッセージが表示されますので，再度長さを修正して入力してください。

1.5.3.2 転送方法

『第 1.5.3.1 項, ユーザマクロの定義』で定義されたユーザ定義マクロで転送を開始するには，ユーザ定義マクロダイアログ・ボックスのスクロール・リストに登録された定義のなかから，転送する項目を選択してダブル・クリックすることによりファイル転送を行うことができます。この様子を図 1–36 に示します。

1.5.3.3 ユーザ定義マクロの削除

ユーザ定義マクロの定義を削除するには，ユーザ定義マクロダイアログ・ボックスのスクロール・リストに登録された定義のなかから，削除する項目を選択して「削除」プッシュ・ボタンをクリックすることによりおこないます。これにより，その項目は自動的にスクロール・リストから削除されます。

図 1–36 「ユーザ定義マクロによる転送」の例

1.5.3.4 ユーザ定義マクロの定義保存

ユーザ定義マクロはファイルとして保存し，再度 TE を起動するときに繰り返し使用することができます。ユーザ定義マクロファイルを作成するには，以下の操作を行います。

1. 「ファイル転送」ダイアログ・ボックスから「ファイル」メニューをプルダウンして，サブメニューから「ユーザ定義マクロファイル保存...」を選択します。図 1–37 に示す「ユーザ定義マクロファイル保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 新しいユーザ定義マクロファイルを作成するために「選択」テキスト入力フィールドにそのファイル名を入力します。リスト・ボックスのなかのファイル名をクリックすることにより，既存のファイル名で新しいファイルを作成することもできます。
3. ファイル名を入力したら，「了解」をクリックします。

図 1–37 「ユーザ定義マクロファイル保存」ダイアログ・ボックス

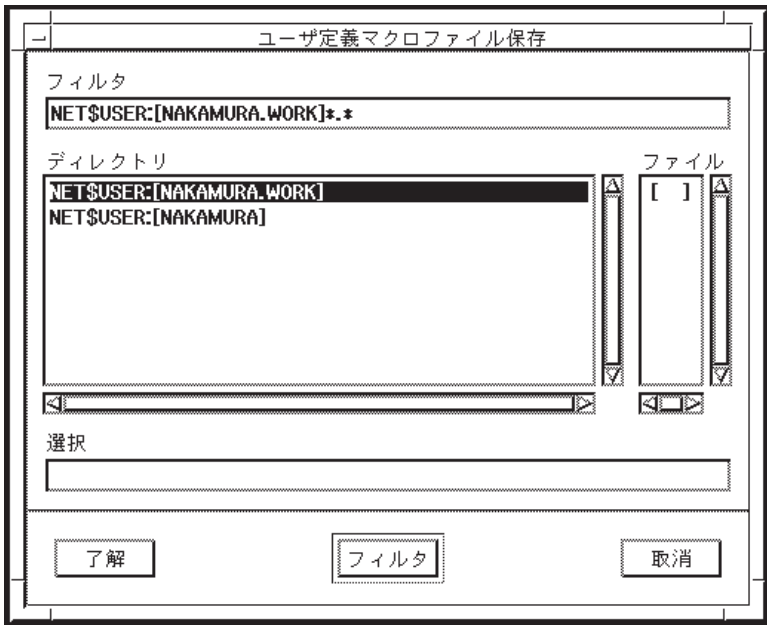
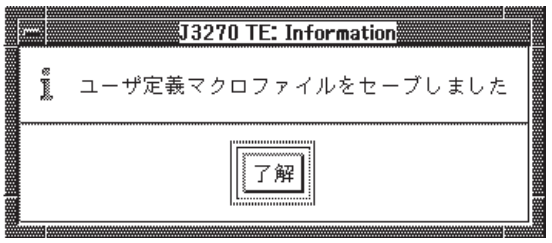


図 1–38 ユーザ定義マクロファイルの保存終了・メッセージ・ボックス



ユーザ定義マクロファイルを保存するために「了解」を押すと，TE は図 1–38 に示すメッセージ・ボックスを表示します。

1.5.3.5 ユーザ定義マクロの読み込み

ユーザ定義マクロファイルは，TE 起動時の Xfer User Macro 修飾子によってロードすることができます。(第 D.24 節, Xfer User Macro 参照)

またセッションの途中に何度でも新しいユーザ定義マクロファイルに置き換えることができます。次のような操作を行うことにより，新しいユーザ定義マクロファイルをメモリに読み込んで使用することができます。

1. 「ファイル転送」ダイアログ・ボックスから「ファイル」メニューをプルダウンし，プルダウン・メニューから「ユーザ定義マクロファイルロード...」を選択します。「ユーザ定義マクロファイルロード」ダイアログ・ボックス (図 1–39 参照) が表示されます。

図 1–39 「ユーザ定義マクロファイルロード」ダイアログ・ボックス

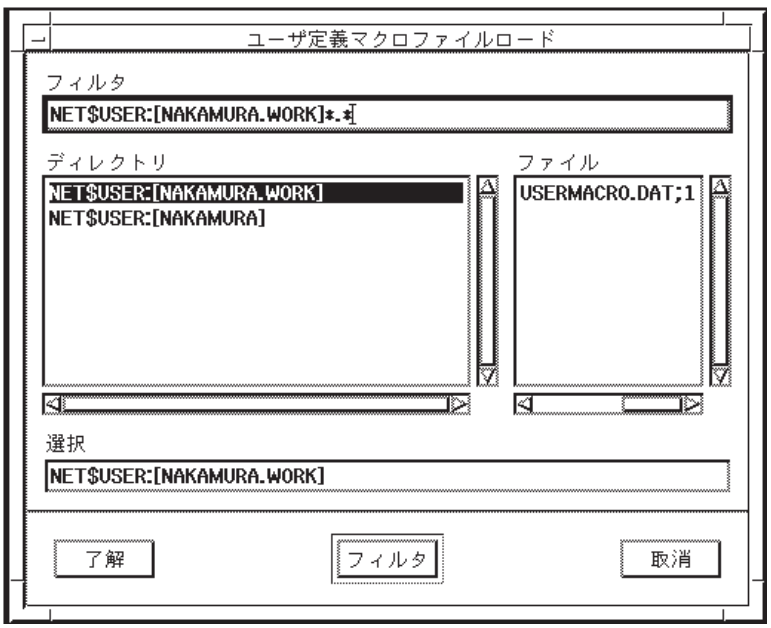
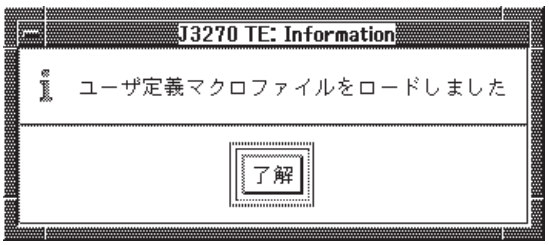


図 1–40 ユーザ定義マクロの読み込み終了・メッセージ・ボックス



2. 使用したいユーザ定義マクロファイルがリスト・ボックスに表示された場合には，そのファイルの名前をクリックします。表示されなかった場合には，「選択」テキスト入力フィールドにファイルの名前を入力します。
3. ファイル名を選択または入力した後で「了解」をクリックします。ファイルを読み込めない場合には，ユーザ定義マクロの定義は変更されず，セッションはそのまま継続します。

ユーザ定義マクロファイルを読み込むために「了解」を押すと，TE は図 1–40 に示すメッセージ・ボックスを表示します。

1.5.4　スクリプト・ファイルによるファイル転送

ファイル転送を連続して行いたい場合，毎回転送コマンドを「ファイル転送コマンド」入力域から入力する方法のほかに，あらかじめ入力するファイル転送コマンドをファイルに記述しておき，それを一括して動作させることも可能です。このファイル転送コマンドが記述されたファイルをスクリプト・ファイルと呼びます。

1.5.4.1　スクリプト・ファイル

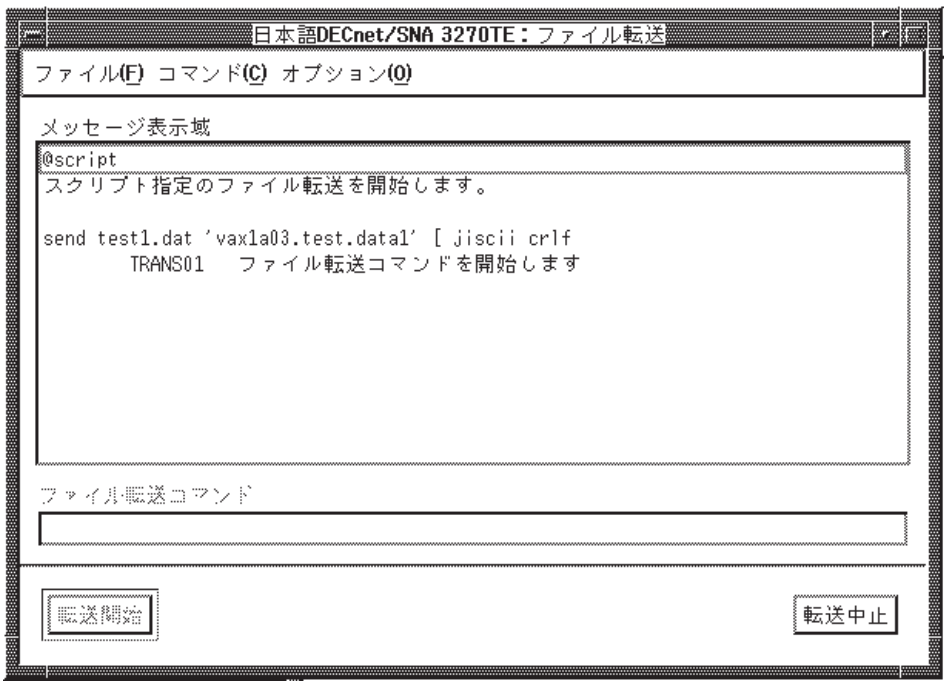
スクリプト・ファイルには，「ファイル転送コマンド」入力域に入力するコマンド列を各行に並べて記述します。行の第 1 文字目が '!' の行はコメントです。スクリプト・ファイルの例を図 1–41 に示します。

図 1–41　「スクリプト・ファイル」の例

1.5.4.2　スクリプト・ファイルによるファイル転送の起動

スクリプト・ファイルによるファイル転送を起動するには，「ファイル転送コマンド」入力域にて「@script_filename」と入力します。これにより，スクリプト・ファイルに記述されたファイル転送コマンドが順に実行されます。スクリプト・ファイルによるファイル転送の例を図 1–42 に示します。

図 1–42 「スクリプト・ファイルによるファイル転送」



注意

スクリプト・ファイルに記述するコマンドの中に，「@script_filename」のようにスクリプト・ファイル転送をネストして指定することはできません。

1.5.4.3 スクリプト・ファイル転送時におけるのファイル転送の中止

スクリプト・ファイル転送時に，ファイル転送中に転送を中止したい場合は通常のファイル転送中止と同様に「転送中止」プッシュ・ボタンをクリックしてください。これにより，スクリプト・ファイルによるファイル転送自体が終了します。

1.5.5　ファイル転送コマンド

使用できるファイル転送コマンドは，TSO または CICS 用のコマンドです。ファイル転送機能を使用するには，ホストシステムに対応するファイル転送支援プログラム (APVUFILE) が導入されている必要があります。

- TSO 用： MVS/TSO ファイル転送支援プログラム (5799-BWJ)
- CICS 用： CICS ファイル転送支援プログラム (5799-BWL)

1.5.5.1　TSO SEND コマンド

ファイル転送モードでの TSO の SEND コマンド形式は以下のとおりです。

```
SEND file-name data-set-name[(member-name)][/password] [ [option]
```

SEND	ホスト・システムにファイルを送るときのコマンドです。
file-name	DEC システム上のファイルを指定します。
data-set-name	ホスト・システムの TSO データ・セット名を指定します。指定できるデータ・セットは，新規または既存の順次編成データ・セットまたは既存の区分編成データ・セットです。
member	既存の区分編成データ・セットのメンバー名を指定します。 1 ~ 8 文字で指定します。
password	TSO データ・セットにパスワードが設定されている場合に指定します。

オプション
以下にオプションを示します。

[

必ず指定してください。この記号の前後に必ず 1 つ以上の空白をいれてください。

例：

```
SEND    JISSEKI.DAT    USER1.KOKYAKU(JULY)/DENKI    [    CRLF
```

JISCII

送信ファイルの 1 バイト・コードおよび 2 バイト・コードをそれぞれ EBCDIC コードおよび IBM 漢字コードに変換します。また，SI/SO 文字を漢字フィールドに挿入します。受信時に SI/SO コードを X'1F' および X'1E' に変換して受信していた場合は，X'1F' および X'1E' を SI/SO 文字に変換します。ただし，NOSO オプションを同時に指定した場合は，SI/SO コードの処理が異なります。詳細は，NOSO の項を参照してください。

例：

```
SEND    JISSEKI.DAT    USER1.KOKYAKU(JULY)/DENKI    [    CRLF    JISCII
```

CRLF

このオプションは，送信ファイルがテキスト・ファイルのときには必ず指定してください。テキスト・ファイル以外のときには指定しないでください。このオプションを指定するとファイルの各行末に CRLF(X'0D0A') を付加して送信します。ホスト・システムは CRLF を受信すると，レコードの区切りとして認識します。

RECFM オプションを指定しないで CRLF を指定すると，TSO データ・セットのレコード形式は，可変長を指定した時と同じ扱いになります。

例：

```
SEND    JISSEKI.DAT    USER1.KOKYAKU(JULY)/DENKI    [    CRLF
```

APPEND

ホスト・システムに既に同じ名前のデータ・セットが存在するとき，送信ファイルを既存のデータ・セットに追加します。

既存の順次編成データ・セットに送信する時に APPEND オプションを指定しないと，すでにあるデータ・セットの内容は送信したファイルの内容に置き換えられます。

このオプションは，区分編成データ・セットに対しては指定できません。

例：

```
SEND    JISSEKI.DAT    USER1.KOKYAKU/DENKI   [    CRLF  APPEND
```

LRECL(レコード・サイズ)

TSO データ・セットのレコード長を指定します。省略時は，固定長レコードの場合は， 80 バイト，可変長レコードの場合は， 84 バイトとなります。

このオプションは，順編成データ・セットを新規に作成するときのみ有効です。

例：

```
 SEND    JISSEKI.DAT    USER1.NIPPOU/SEIZOU   [    CRLF    LRECL(128)
BLKSIZE(1024)
```

BLKSIZE(ブロック・サイズ)

TSO データ・セットのブロック・サイズを指定します。

このオプションは，順編成データ・セットを新規に作成するときのみ有効です。

例：

```
 SEND    JISSEKI.DAT    USER1.NIPPOU/SEIZOU   [    CRLF    BLKSIZE(2048)
```

RECFM(F|V|U)

TSO データ・セットのレコード形式を F,V または U で指定します。それぞれの意味を以下に示します。

- F を指定した場合
  固定長レコードのデータ・セットであることを示します。
- V を指定した場合
  可変長レコードのデータ・セットであることを示します。
- U を指定した場合
  不定形式レコードのデータ・セットであることを示します。

RECFM オプションを省略すると， CRLF オプションが指定されていない場合には，固定長レコードとなり， CRLF オプションが指定されている場合には，可変長レコードとなります。

このオプションは，順編成データ・セットを新規に作成するときのみ有効です。

例：

```
 SEND    JISSEKI.DAT    USER1.NIPPOU/SEIZOU   [    CRLF    RECFM(F)
BLKSIZE(2048)
```

SPACE(初期割当て量[, 増量])

新規に作成するファイルの大きさを指定します。また， SPACE オプションにつづけて作成時のスペースの単位が指定できます。 SPACE オプションを省略すると

SPACE(10,50) AVBLOCK(1000)

とみなされます。

このオプションは，順編成データ・セットを新規に作成するときのみ有効です。スペース単位の指定オプションを以下に示します。

- AVBLOCK(ブロック・サイズ) を指定した場合
  指定したブロック・サイズを単位としてデータ・セットを作成します。
- TRACKS
  トラック単位でデータ・セットを作成します。
- CYLINDERS
  シリンダ単位でデータ・セットを作成します。

例：

```
SEND  JISSEKI.DAT  USER1.NIPPOU/SEIZOU  [  CRLF  SPACE(5,8)  TRACKS
BLKSIZE(512)
```

NOSO

このオプションを指定すると，JISCII オプションが指定されていても，漢字フィールドに SI/SO を挿入しません。また，X'1F' および X'1E' があっても SI/SO に変換しません。 JISCII オプションを指定しないと，NOSO オプションは無効となります。

TAB(空白コード数)

タブコード (X'09') を空白コード (X'40') に変換するかどうかを指定します。空白コード数は 0 ~ 2 0 の範囲で指定します。 1 ~ 2 0 を指定した場合，タブコードは指定した個数の空白コードに変換されます。 0 を指定した場合，タブコードは変換テーブルに従って変換されます。省略値は 8 です。 TAB オプションは，JISCII 及び CRLF が指定されている場合のみ有効です。

例：

```
SEND  JISSEKI.DAT  USER1.NIPPOU/SEIZOU  [  CRLF  JISCII  TAB(4)
```

1.5.5.2 TSO RECEIVE コマンド

ファイル転送モードでの TSO の RECEIVE コマンド形式は以下のとおりです。

```
RECEIVE file-name data-set-name[(member-name)][/password] [ [option]
```

RECEIVE	ホスト・システムからファイルを受信する時のコマンドです。
file-name	DEC システム上のファイルを指定します。
data-set-name	ホスト・システムの TSO データ・セット名を指定します。指定できるデータ・セットは，既存の順次編成データ・セットまたは既存の区分編成データ・セットです。
member	既存の区分編成データ・セットのメンバー名を指定します。 1 ~ 8 文字で指定します。
password	TSO データ・セットにパスワードが設定されている場合に指定します。

オプション
以下にオプションを示します。

[

必ず指定してください。この記号の前後に必ず 1 つ以上の空白をいれてください。

例：

```
RECEIVE    JISSEKI.DAT    USER1.KOKYAKU(JULY)/DENKI    [    CRLF
```

JISCII

受信ファイルの EBCDIC および IBM 漢字コードをそれぞれ JIS8 ビット・コードおよび DEC 漢字コードに変換します。また，漢字フィールドから SI/SO 文字を削除します。ただし， SO オプションを同時に指定した場合は， SI/SO 文字の処理が異なります。詳細は SO の項を参照してください。

例：

```
RECEIVE    JISSEKI.DAT    USER1.KOKYAKU(JULY)/DENKI    [    CRLF    JISCII
```

CRLF

このオプションは，受信ファイルがテキスト・ファイルのときに必ず指定します。テキスト・ファイル以外のときには指定しないでください。

OpenVMS システムではホストから受け取ったファイルの各行ごとに対応して OpenVMS のレコードを作成し，ファイルに書き込みます。

例：

```
RECEIVE    JISSEKI.DAT    USER1.KOKYAKU(JULY)/DENKI    [    CRLF
```

APPEND

DEC システムに既に同じ名前のファイルが存在するとき，受信ファイルを既存のファイルに追加します。

例：

```
RECEIVE    JISSEKI.DAT    USER1.KOKYAKU(JULY)/DENKI    [    CRLF    APPEND
```

SO

ホスト・システムから送られてきたファイルの SO/SI 文字を X'1F' および X'1E' に変換します。このオプションは JISCII オプションを指定していないと有効になりません。

例：

```
RECEIVE     JISSEKI.DAT     USER1.NIPPOU/SEIZOU     [     CRLF     JISCII     SO
```

BLANK

このオプションを指定すると CRLF オプションを指定していても，受信した各レコードの終端から連続した空白が削除されません。このオプションを指定しないと各レコードの終端から連続した空白が削除されます。

例：

```
RECEIVE     JISSEKI.DAT     USER1.NIPPOU/SEIZOU     [     CRLF     BLANK
```

RLENGTH

このオプションは，CRLF オプションを指定しない場合のみ有効です。 CRLF オプション指定なしでホストからファイルを受信する時，このオプションで指定したレコード長毎に DEC システム上のファイルにデータを書き込みます。 1 ~ 32767（単位はバイト）の間で指定可能です。省略値は 512 バイトです。

例：

```
RECEIVE     JISSEKI.DAT     USER1.NIPPOU/SEIZOU     [     RLENGTH(132)
```

1.5.5.3 CICS SEND コマンド

ファイル転送モードでの CICS の SEND コマンド形式は以下のとおりです。

```
SEND file-name cics-file-name [ [(option [)comment]]
```

SEND	ホスト・システムにファイルを送るときのコマンドです。
file-name	DEC システム上のファイルを指定します。
cics-file-name	ホスト・システムの CICS のファイル名を指定します。

オプション
以下にオプションを示します。

[

必ず指定してください。この記号の前後に必ず 1 つ以上の空白をいれてください。

例：

```
SEND    JISSEKI.DAT    USER1(JULY)   [   (   CRLF
```

(

オプションを指定する場合には必ず指定してください。

例：

```
SEND    JISSEKI.DAT    USER1(JULY)   [   (   CRLF
```

JISCII

送信ファイルの 1 バイト・コードおよび 2 バイト・コードをそれぞれ EBCDIC コードおよび IBM 漢字コードに変換します。また，SI/SO 文字を漢字フィールドに挿入します。受信時に SI/SO コードを X'1F' および X'1E' に変換して受信していた場合は，X'1F' および X'1E' を SI/SO 文字に変換します。

例：

```
SEND    JISSEKI.DAT    USER1(JULY)   [   (   CRLF    JISCII
```

CRLF

このオプションは，送信ファイルがテキスト・ファイルのときには必ず指定してください。テキスト・ファイル以外のときには指定しないでください。このオプションを指定するとファイルの各行末に CRLF(X'0D0A') を付加して送信します。ホスト・システムは CRLF を受信すると，レコードの区切りとして認識します。

例：

```
SEND    JISSEKI.DAT    USER1(JULY)   [   (   CRLF
```

NOSO

このオプションが指定されていると，漢字フィールドへの SI/SO 文字の挿入は行なわれません。また，X'1F' および X'1E' があっても，SI/SO 文字に変換されません。このオプションは，JISCII オプションを指定していないと無効となります。

例：

```
SEND    JISSEKI.DAT    USER1(JULY)   [   (   CRLF    JISCII    NOSO
```

TAB(空白コード数)

タブコード (X’09’) を空白コード (X’40’) に変換するかどうかを指定します。空白コード数は０～２０の範囲で指定します。１～２０を指定した場合，タブコードは指定した個数の空白コードに変換されます。０を指定した場合，タブコードは変換テーブルに従って変換されます。省略値は 8 です。 TAB オプションは，JISCII 及び CRLF が指定されている場合のみ有効です。

例：

```
SEND    JISSEKI.DAT    USER1(JULY)   [   (   CRLF    JISCII    TAB(4)
```

コメント

コメントを 55 文字以内で指定できます。指定する時は，コメントの前に ’)’ が必要です。また，オプションを指定せずにコメントを指定する場合は，コメントの前に ’)’ が必要です。コメントに日本語およびオプションと同じ文字列 (JISCII,CRLF,NOSO) は指定できません。

例：

```
SEND    JISSEKI.DAT    USER1(JULY)   [   (CRLF)JISSEKI    SYORI
```

1.5.5.4 CICS RECEIVE コマンド

ファイル転送モードでの CICS の RECEIVE コマンド形式は以下のとおりです。

```
RECEIVE file-name cics-file-name [ [(option]
```

RECEIVE	ホスト・システムからファイルを受信する場合のコマンドです。
file-name	DEC システム上のファイルを指定します。
cics-file-name	ホスト・システムの CICS のファイル名を指定します。

オプション
以下にオプションを示します。

[

必ず指定してください。この記号の前後に必ず 1 つ以上の空白をいれてください。

例：

```
RECEIVE    JISSEKI.DAT    USER1.KOKYAKU(JULY)/DENKI    [    CRLF
```

(

オプションを指定する場合には必ず指定してください。

例：

```
RECEIVE    JISSEKI.DAT    USER1(JULY)    [    (    CRLF
```

JISCII

受信ファイルの EBCDIC および IBM 漢字コードをそれぞれ JIS8 ビット・コードおよび DEC 漢字コードに変換します。また，漢字フィールドから SI/SO 文字を削除します。

例：

```
RECEIVE    JISSEKI.DAT    USER1(JULY)    [    (    CRLF    JISCII
```

CRLF

このオプションは，受信ファイルがテキスト・ファイルのときに必ず指定します。テキスト・ファイル以外のときには指定しないでください。

例：

```
RECEIVE    JISSEKI.DAT    USER1(JULY)    [    (    CRLF
```

SO

ホスト・システムから送られてきたファイルの SO/SI 文字を X'1F' および X'1E' に変換します。このオプションは JISCII オプションを指定していないと有効になりません。

例：

```
RECEIVE    JISSEKI.DAT    USER1(JULY)    [    (    CRLF    JISCII    SO
```

BLANK

このオプションを指定すると CRLF オプションを指定していても，受信した各レコードの終端から連続した空白が削除されません。このオプションを指定しないと各レコードの終端から連続した空白が削除されます。

例：

```
RECEIVE     JISSEKI.DAT     USER1(JULY)    [    (    CRLF     BLANK
```

RLENGTH

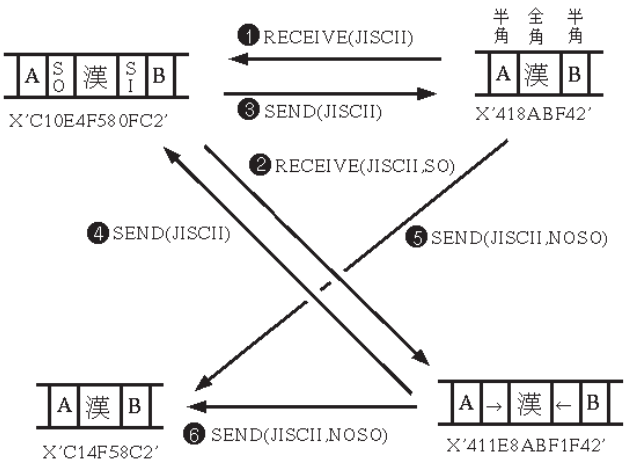
このオプションは，CRLF オプションを指定しない場合のみ有効です。 CRLF オプション指定なしでホストからファイルを受信する時，このオプションで指定したレコード長毎に DEC システム上のファイルにデータを書き込みます。 1 ~ 32767（単位はバイト）の間で指定可能です。省略値は 512 バイトです。

例：

```
RECEIVE     JISSEKI.DAT     USER1.NIPPOU/SEIZOU    [    (    RLENGTH(132)
```

1.5.6 JISCII パラメータの処理

ホストのデータには漢字と EBCDIC の間に SO/SI 制御コードが入っています。DEC システム上のデータとしては，これら SI， SO は不要です。そこで， SEND /RECEIVE の際に，次の図に示すような処理が行われます。



❶ RECEIVE で JISCII を指定し， SO を指定していないとき：
ホスト・ファイルの SO/SI 制御コードは DEC システムのファイルでは削除されます。

❷ RECEIVE で JISCII と SO を指定しているとき：
ホスト・ファイルの SO/SI 制御コードは DEC システムのファイルでは「→」(X'1E')，「←」(X'1F') に変換されます。

❸ SEND で JISCII を指定し， NOSO を指定していないとき，
DEC システムのファイルをホストへ送る場合 (半角，全角文字が続く場合)：
半角文字，全角文字が続くとその間に SO 制御コードが挿入され，また，全角文字，半角文字が続くとその間に SI 制御コードが挿入されてホストへ送られます。

❹ SEND で JISCII を指定し，NOSO を指定していないとき，
DEC システムのファイルをホストへ送る場合 (DEC システムのファイルで→，←が漢字の前後に続いている場合)：
DEC システムのファイルで「→」，「←」が漢字の前後に続いていると，「→」，「←」がそれぞれ SO/SI 制御コードに変換されホストへ送られます。

❺ SEND で JISCII と NOSO を指定しているとき，
DEC システムのファイルをホストへ送る場合 (半角，全角文字が続く場合)：
半角文字，全角文字が続いても，その間に SO 制御コードは挿入されず，また，全角文字，半角文字が続いてもその間に SI 制御コードは挿入されずにホストへ送られます。

❻ SEND で JISCII と NOSO を指定しているとき，
DEC システムのファイルをホストへ送る場合 (DEC システムのファイルで→，←が漢字の前後に続いている場合)：
「→」が漢字の前にあっても SO 制御コードに変換されず，また漢字の後に「←」があっても SI 制御コードに変換されずにホストへ送られます。

JISCII，SO，および NOSO パラメータの指定による SEND/RECEIVE コマンド処理の違いを下表にまとめて示します。

SEND コマンド (DEC システムのファイル→ホスト・ファイル)

パラメータの指定	JISCII 指定あり		JISCII 指定なし
	SO または 無指定	NOSO または 両方	
ファイル転送の機能	コード変換後漢字フィールドに SO/SI を挿入 または 制御文字→/← を SO/SI に変換した後転送	コード変換後転送	無変換（ホストファイルのまま）でファイルに保管

(SEND の場合，「コード変換」は DEC システムの半角文字→ EBCDIC と，DEC システムの全角文字→ IBM 漢字コードの変換を意味します。)

RECEIVE コマンド (ホスト・ファイル→ DEC システムのファイル)

パラメータの指定	JISCII 指定あり		JISCII 指定なし
	NOSO または 無指定	SO または 両方	
ファイル転送の機能	コード変換および漢字フィールドの SO/SI を削除後ファイルに保管	コード変換および漢字フィールドの SO/SI を制御文字→/←に変換後ファイルに保管	無変換（ホストファイルのまま）でファイルに保管

(RECEIVE の場合，「コード変換」は EBCDIC → DEC システムの半角文字と，IBM 漢字コード→ DEC システムの全角文字の変換を意味します。)

2

インストレーション・ガイド

2.1 インストレーションの準備

日本語 DECwindows DECnet SNA 3270 ターミナル・エミュレータ for OpenVMS（以下，単に TE）をインストールする前に，ソフトウェアの適切なオペレーションを確実に行うためのシステム，その通信コンポーネント，およびリモート・システムを準備しなければなりません。

この章では，TE をインストールするために必要な準備および事項について説明します。実際のインストレーションは第 2.2 節で説明します。

必要な媒体の数および内容については，BOM（bill of materials）に示されています。ここに記載された情報と照合して，必ずキットの内容を確認して下さい。万一キットが破損していたり，必要な媒体がすべてそろっていない場合には，最寄りの日本 DEC の各支店 / 営業所にお問い合わせ下さい。

2.1.1 インストレーションに必要な事項

TE をインストールする前に必要な事項を，表 2–1 に示します。

表 2–1 インストレーションに必要な事項

必要な事項	内容
配布メディア	TK50 テープ
	または CD-ROM
必要なソフトウェア	日本語 OpenVMS VAX V6.0
	日本語 DECwindows Motif for OpenVMS VAX V1.1
	DECnet SNA Gateway for Synchronous Transport V1.2 または DECnet SNA Gateway for Channel Transport V2.1
特権	SETPRV または CMKRNL，WORLD 及び SYSPRV
ディスク容量 (VAX システム)	インストール時： 8100 ブロック (フォントのみ install の場合: 8100 ブロック) システム運用時： 5000 ブロック (フォントのみ install の場合: 3000 ブロック)
ディスク容量 (AXP システム)	インストール時： 9600 ブロック (フォントのみ install の場合: 9600 ブロック) システム運用時： 6500 ブロック (フォントのみ install の場合: 4500 ブロック)
システムパラメータ (VAX システム)	

\必要なグローバル・ページ： 1100 以上
必要なグローバル・セクション： 4 以上 (インストール時))

システムパラメータ (AXP システム)	必要なグローバル・ページ： 1100 以上 必要なグローバル・セクション： 4 以上 (インストール時)
インストールに必要な時間	2 ~ 5 分
PAK	ソフトウェア・ライセンス

2.1.1.1 必要なソフトウェア

TE をインストールする前に，表 2–1 に示すソフトウェアがインストールされていなければなりません。

注意

TE を起動する前に，日本語 DECwindows Motif V1.1 をインストールしなければなりません。

DECnet-SNA Gateway に関する詳細は，以下のマニュアルを参照してください。

- *DECnet SNA Gateway-ST and Gateway-CT Management (OpenVMS)*
- *DECnet SNA Gateway-ST Installation (OpenVMS)*

2.1.1.2 ライセンスの登録

TE を使用するには，その使用が許可されたノード上に，ライセンス管理機能 (LMF) を使用してソフトウェア・ライセンスを登録しなければなりません。ライセンスの登録に必要な情報は， TE といっしょに出荷されるプロダクト・オーソライゼーション・キー (PAK) に含まれています。 PAK は，利用者がある特別なソフトウェアを使用することを可能にする，ライセンスに関する情報を含んだ証書です。

TE のライセンスは，インストレーションの前に登録してください。一度ライセンス登録を実行し，オーソライゼーション・キーをロードしたら， TE ソフトウェアを起動することができます。

日本語 OpenVMS 環境でライセンスを登録するには，最初にシステム管理者のアカウントである SYSTEM にログインしてください。ライセンスの登録には次の 2 つの方法があります。

- SYS$UPDATE:VMSLICENSE.COM を実行します。問い合せがあるので，それに対して， PAK のデータを入力します。
- DCL コマンド LICENSE REGISTER を実行します。コマンドの修飾子には， PAK の情報に応じた値を指定してください。

ライセンス管理機能 (LMF) についての詳細は， OpenVMS ドキュメント・セットの『OpenVMS License Management Utility Manual』を参照して下さい。

2.1.1.3 システム・パラメータ値のチェック

TE をインストールして使用するためには，システム上に充分なグローバル・ページとグローバル・セクションがなければなりません。システムの状態によっては，GBLPAGES（グローバル・ページの値）と GBLSECTIONS（グローバル・セクションの値）を増加する必要があります。 TE には，表 2–1 に示す GBLPAGES と GBLSECTIONS が必要です。システム上の未使用のグローバル・ページ数，およびグローバル・セクション数は，次の手順で計算してください。

1. 次のコマンドを入力して， OpenVMS インストール・ユーティリティ (INSTALL) を起動します。

   ```
   $ INSTALL LIST/GLOBAL/SUMMARY
   ```

   上記のコマンドを入力すると，現在使用されているグローバル・ページとグローバル・セクションの数，および未使用のグローバル・ページ数が表示されます。たとえば，次のように表示されます。

   ```
                  Summary of Local Memory Global Sections

   258 Global Sections Used,  22580/3420 Global Pages Used/Unused
   ```

2. 未使用のグローバル・ページが， TE の必要とする値より大きいかどうかを調べて下さい。この例では，未使用値 3420 は TE の必要値 1100 を大きく上回っています。そのため， GBLPAGES の値を調整する必要はありません。

3. 上記の例では，既に 258 グローバル・セクションがシステムによって使用されていることに注意してください。次に SYSGEN ユーティリティを起動して SHOW コマンドを実行し，割り当てられたグローバル・セクションの数を調べます。

   ```
   $ RUN SYS$SYSTEM:SYSGEN
   SYSGEN> SHOW GBLSECTIONS
   Parameter Name  Current  Default  Minimum  Maximum Unit  Dynamic
   --------------  -------  -------  -------  ------- ----  -------
   GBLSECTIONS         512      250       20     4095 Sections
   ```

4. この例は，システムに 512 グローバル・セクションが割り当てられていることを示しています。この内， 258 が使用中です。割り当てられたグローバル・セクションの数から，使用中のグローバル・セクション数を引きます。この値が TE の必要とする値よりも小さい場合には GBLSECTIONS パラメータの値を増やす必要があります。この例では，割当値 512 と使用値 258 の差は， TE の必要値 4 を大きく上回っているため， GBLSECTIONS を調整する必要はありません。

2.1.1.3.1 システム・パラメータ値の変更

システム・パラメータを変更するには， AUTOGEN コマンド・プロシージャを使用します。 AUTOGEN は，変更すべきパラメータと共に，それに関連したパラメータ値も自動的に調整します。 AUTOGEN を使用してシステム・パラメータ値を変更するためには，次のファイルを編集する必要があります。

```
SYS$SYSTEM:MODPARAMS.DAT
```

たとえば，GBLSECTIONS システム・パラメータの最小値を変更するには，次の行をファイルに追加します。

```
MIN_GBLSECTIONS = 1024
```

またはGBLPAGES システム・パラメータを増加するためには，

```
ADD_GBLPAGES = 2000
```

このファイルに変更を加えた後，システム・パラメータを計算しなおすために，AUTOGEN プロシージャを起動します。次のコマンドを入力してください。

```
$ @SYS$UPDATE:AUTOGEN GETDATA REBOOT
```

AUTOGEN は自動的にシステムのシャット・ダウンとリブートを行います。システムのリブートにより，新しいシステム・パラメタが有効になります。 AUTOGEN コマンド行には[NO]FEEDBACK を追加することもできます。 AUTOGEN についての詳細は，システム管理とオペレーションに関する OpenVMS ドキュメントの中のシステム・パラメータの変更の説明をご覧ください。

2.1.1.4 必須オペレーティング・システム・コンポーネント

TE のインストレーションには，次のクラスが必要です。

- OpenVMS Required Saveset
- Network Support
- Utilities
- RMS Journaling Files
- BLISS Require Files
- Example Files
- User Environment Test Package
- OpenVMS Workstation Support

OpenVMS のクラスおよびテーラリングについては，「OpenVMS オペレーティング・システム・ソフトウェア仕様書（SPD）」を参照して下さい。

2.1.2 システム・ディスクのバックアップ

インストールを開始する前に，システム・ディスクのバックアップをとっておくことをお勧めします。

利用者のシステム・ディスクをバックアップした実績のある，バックアップ・プロシージャを使用して下さい。システム・ディスクのバックアップの詳細については，OpenVMS ドキュメントを参照して下さい。

2.1.3　オンライン・リリース・ノートへのアクセス

TE は，オンライン・リリース・ノートを提供します。インストレーションの際に必ずお読み下さい。リリース・ノートには最新バージョンでの機能拡張や，インストレーション・プロシージャの変更などについて記述されています。

リリース・ノートの参照方法については，第 2.2 節を参照してください。

2.2　インストレーションの実行

この章では， VMSINSTAL プロシージャを使用した，日本語 DECwindows DECnet SNA 3270 ターミナル・エミュレータ for OpenVMS（ TE ）のインストレーションの手順について説明します。

インストレーションを通じて，省略値は鍵括弧の中に示されています。このプロシージャは，CTRL/Y を押すことにより，いつでも強制終了することができます。CTRL/Y を押すと，その時点までに作成したファイルがすべて削除され DCL レベルに戻ります。

VMSINSTAL プロシージャの中の質問は，アスタリスク（ * ）で示されます。その質問に対する回答の省略値が鍵括弧で示されている場合もあります。例えば，[YES]です。省略値を選択するには，Return を押して下さい。

2.2.1　インストレーション前の必要事項の確認

次に示す必要事項の一つを満たしていない場合には，インストレーション時に問題が起こるかもしれません。インストレーションを開始する前に，確認する必要があるのは次の事項です。

- オペレーティング・システムの適切なバージョン
- 必要なソフトウェアの適切なバージョン
- 充分なプロセス・クォータ
- 充分なシステム・パラメタ値

さらに次の事項も確認してください。

- OpenVMS ヘルプ・ライブラリが使用可能であること。
- インストールするソフトウェアのライセンスを取得していること。

2.2.2 VMSINSTAL プロシージャの実行

インストレーションには，およそ 2 ~ 5 分かかります。 TE のインストレーションは，一連の質問と情報メッセージから構成されます。必要なら，次のコマンドを実行することによってインストレーションのログを作成することができます。

```
$ SET HOST 0/LOG=file-name
```

*file-name*は，インストレーション・プロシージャのログ情報を保存するファイルの名前です。ファイル名を指定しないと，システムは SETHOST.LOG というファイルを自動的に作成します。インストレーションの終了後，現在のセッションからログ・アウトし，インストレーション・プロシージャのログ情報を含むファイルを印刷することができます。

インストレーションの開始

インストレーションを開始するためには， SYSTEM アカウント等の特権アカウントで VMSINSTAL コマンド・プロシージャを実行します。次のコマンドで，VMSINSTAL を起動します。

```
$ @SYS$UPDATE:VMSINSTAL SNADWTEJAA020 device-name [OPTIONS N]
```

SNADWTEJAA020	TE の製品です。
device-name	媒体をマウントするデバイス名です。
OPTIONS N	リリース・ノートを表示または印刷するかという問い合せを表示するかどうかを指定するパラメータです。

次の例は，テープ・ドライブ MKA500: から TE をインストールするための VMSINSTAL を起動するコマンド，およびシステムの応答です。この例では，リリース・ノートを印刷または表示するように， OPTIONS N パラメータを使用しています。

```
$ @SYS$UPDATE:VMSINSTAL SNADWTEJAA020 MKA500: OPTIONS N

     OpenVMS VAX Software Product Installation Procedure V6.0


It is 15-JAN-1994 at 10:10.
Enter a question mark (?) at any time for help.
%VMSINSTAL-W-ACTIVE, The following processes are still active:
        _FTA10:
        SATO
        TANAKA
* Do you want to continue anyway [NO]?
```

製品名，装置名のどちらかを指定しないと， VMSINSTAL は後でその情報について質問します。また， VMSINSTAL はインストレーションに使用するその他のオプションに関しても質問します。

システムのバックアップ

VMSINSTAL はシステム・ディスクのバックアップをとったかどうか，尋ねます。インストレーションを実行する前にバックアップをとっておいてください。

```
* Are you satisfied with the backup of your system disk [YES]?
```

バックアップをとっていない場合は NO と入力して，インストレーションを中止します。バックアップをとった後，インストレーションを再開始して下さい。

媒体のマウント

VMSINSTAL の起動時に指定した装置に最初のディストリビューション・ボリュームをマウントします。 VMSINSTAL を起動する時に装置名を指定しなかった場合には，次の 3 つの問い合せがあります。

```
* Where will the distribution volumes be mounted?:

Enter the products to be processed from the first distribution volume set.
* Products:
* Enter the installation options you wish to use (none):
```

プロシージャは，処理を続け，次のメッセージを表示します。

```
The following products will be processed:
  SNADWTEJAA V2.0

    Beginning installation of SNADWTEJAA V2.0 at 20:01

%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product saveset A...
```

リリース・ノートのオプション

VMSINSTAL 起動時に OPTIONS N を指定した場合は，リリース・ノートを参照するための 4 つの選択肢を表示します。

```
Release Notes Options:

    1. Display release notes
    2. Print release notes
    3. Both 1 and 2
    4. None of the above

* Select option [2]:
```

オプション 1 を選ぶと，利用者端末にリリース・ノートの内容が表示されます。Ctrl/Cを押すことによって，いつでも表示を中断することができます。

オプション 2 を選ぶとキュー名を聞いてきます。

```
* Queue name [SYS$PRINT]:
```

キュー名を入力するか，またはReturnを押して SYS$PRINT にファイルを出力します。

オプション 3 を選ぶと，利用者端末にリリース・ノートの内容が表示され，続いてキュー名を聞いてきます。

オプション 4 を選ぶと，リリース・ノートの表示も印刷も行なわれずにインストレーションが続行します。

次に，選択したオプションに関わらず，インストレーションを継続するかどうか，という質問が表示されます。インストレーションを継続する時には YES と入力します。中止する場合は，NO と入力して下さい。

```
* Do you want to continue the installation?[N]  YES
%VMSINSTAL-I-RELMOVED, Product release notes have been moved to SYS$HELP.
```

リリース・ノートは SYS$HELP に置かれます。

TE ソフトウェアおよびワークステーション・フォント・ファイルの選択

TE のインストレーション・キットには，2 つのパーツ，TE とワークステーション・フォントが含まれています。次のメッセージと質問が表示されます。

```
This Japanese DECwindows DECnet SNA 3270 TE installation  includes
both Japanese 3270 TE software and workstation font files. You can
choose to install one or both of these on this OpenVMS node.

* Do you want to install the entire kit [YES]?
```

キット全体をインストールする場合は YES と入力します。 NO と入力すると次の質問が表示されます。

```
* Do you want to install the J-3270 TE software [NO]?
```

注意

TE を実行する前に，フォント・ファイルがワークステーションにインストールされるかコピーされている必要があります。

TE ソフトウェアをインストールする場合は YES と入力します。 NO と入力すると，次の質問が表示されます。

```
* Do you want to install the workstation fonts [NO]?
```

サーバ・フォントをインストールするときは YES と入力します。 NO と入力した場合は，サーバ・フォントはインストールされません。

１度インストレーションに関する選択をすると，インストールすることを選択したキット部分を確認するメッセージが表示されます。続いて次の質問があります。

```
* Is this correct [YES]?
```

選択が正しいときには YES と入力します。 NO と入力すると，インストレーションに関する選択がもう１度表示されます。

ライセンスの登録
製品についてのライセンス情報が表示され，TE のプロダクト・オーソライゼーション・キーが登録され，ロードされているか，という質問が表示されます。たとえば，

```
Product:          DW-SNA-3270-TE-VMS-JAPAN
Producer:         DEC
Version:          2.0
Release Date:     01-SEP-1993

* Does this product have an authorization key registered and loaded?
```

オーソライゼーション・キーを登録し，ロードしていない場合には，その製品を使用することはできません。この場合は，この質問に対して NO と入力しなければなりません。そうでなければ，YES と答えて下さい。

IVP の実行の選択
インストレーション検証プロシージャ（IVP）を実行するかどうか，という質問が表示されます。

続いて，この製品の前のバージョンでインストールしたファイルをパージするかどうかという質問が表示されます。

```
* Do you want to run the IVP after the installation [YES]?

* Do you want to purge files replaced by this installation [YES]?

    All questions have been asked, installation continuing ...
```

2.2.2.1 情報メッセージ

以上で必要な入力が終わり，インストレーションの状況を知らせる一連の情報メッセージが表示されます。この時点でインストレーション・プロシージャが正常であれば，新しいファイルまたは修正されたファイルが目的のディレクトリに移され，ヘルプ・ファイルと DCL テーブルが更新されます。

次のメッセージが表示されます。

```
    Japanese DECwindows 3270TE workstation font files for OpenVMS successfully
    moved. It is necessary to restart DECwindows on your workstation to
    install these fonts for use by the Japanese DECwindows 3270 TE. The
    following command will do this:

 @SYS$STARTUP:DECW$STARTUP RESTART

    To install the Japanese DECwindows DECnet SNA 3270 TE images
    as shareable each time the system reboots, you must add the
    following line to your system startup procedure:

 $ @SYS$STARTUP:JSNADWTE$STARTUP

    The SYS$COMMON:[SNA_JDWTE] directory contains DECwindows 3270
    TE server font files for OpenVMS display servers. The command file,
    JSNADWTE$COPY_FONTS.COM, can be used to copy these font files
    over the network to desired servers.
    See the "Japanese DECwindows DECnet SNA 3270 Terminal Emulator
    for OpenVMS Installation Guide" for further details.
```

続いて次のメッセージが表示されます。

```
The IVP for this product, JSNADWTE$IVP.COM, can be found in
the SYS$TEST directory.
%VMSINSTAL-I-MOVEFILES, files will now be moved to their target directories...
```

インストレーション中の IVP の実行

インストレーション・プロシージャの一部として IVP を実行することを選択した場合には，VMSINSTAL は次に IVP を実行します。

IVP が正常に実行されると，次のメッセージが表示されます。

```
      Starting Japanese DECwindows DECnet SNA 3270 TE V2.0 IVP

   Japanese DECwindows DECnet SNA 3270 TE V2.0 IVP completed successfully

   Installation of SNADWTEJAA V2.0 completed at 15:20
```

続いて他にインストールする製品があるか，という質問があります。ないなら，EXIT をタイプして Return を押して下さい。

```
Enter the products to be processed from the next distribution volume set.
* Products: EXIT

   VMSINSTAL procedure done at 15:21
```

以上で TE のインストレールが終了しました。特権アカウントからログアウトします。

```
$ LOGOUT
SYSTEM     logged out at 15-JAN-1994 15:22:23.3
```

IVP が失敗した場合

IVP の実行が失敗した場合は，次のようなメッセージが表示されます。

```
JSNADWTE V2.0 Installation Verification Procedure failed.

%VMSINSTAL-E-IVPFAIL, The IVP for JSNADWTE V2.0 has failed.
```

失敗した場合，第 2.2.1 項を参照して，その原因を調べて下さい。

注意

VMSINSTAL は，インストレーション実行時のプロセス・シンボル・テーブルのエントリを削除または変更します。したがって，この後も続けてシステム管理者のアカウントを使用し，削除または変更されたシンボルを復元するためには，1 度ログアウトし，もう 1 度ログインする必要があります。

2.2.3 リリース・ノートの参照

インストレーション後，リリース・ノートは以下の場所に置かれます。

```
SYS$HELP:SNADWTEJAA020.RELEASE_NOTES
```

Returnキーを押して処理を続行してください。

インストレーション中の IVP の実行
インストレーション・プロシージャの一部として，インストレーション検証プロシジャ（IVP）を実行することをお勧めします。それには，次のメッセージに対して y を入力します。

IVP は利用者が選択したサブセットが正しくインストールされたかどうか確認します。 IVP が終了すると，インストレーションは完了します。オプション

2.2.4 利用者システムに追加されたファイル

製品のインストレーションにより，利用者のシステムにいくつかの新しいファイルが追加されます。第 2.8 節で，これらのファイルとその場所を示します。

2.3 インストレーションの後に

TE のインストレーションの後に，次の項目のうちのいくつか，あるいはすべてを実行する必要があります。

- インストレーション検証プロシージャ（IVP）を実行する。
- システム・スタートアップ・ファイルを編集する。
- システムをリブートする。
- ユーザ・アカウントのクォータをセットする。
- VAXcluster 環境で使用するために TE をインストールする。
- 変換テーブルをコピーする。

2.3.1 サーバへのフォント・ファイルのコピー

すべての DECwindows アプリケーションにおいて，クライアントは実行可能イメージを持つノードです。また，サーバは実行可能イメージを表示するノード (ワークステーション) です。ほとんどの場合，クライアントとサーバは同じノードです。

TE のディストリビューション・キットは， OpenVMS サーバで表示可能なフォント・ファイル (表 2–2 参照) を含んでいます。

表 2–2 フォント・ファイル

VMS Fonts	
JSNADWTE_SCREEN_KANJI11_18_21.DECW$FONT	漢字フォント
JSNADWTE_SCREEN_ROMANKANA_9_21.DECW$FONT	ローマ字 / カタカナフォント

クライアントとサーバが同じノード上になく，サーバにフォント・ファイルをインストールしていない場合は (第 2.2.2 項参照)， DWTE フォントを使用することができません。 TE を実行するためには，クライアントからサーバにフォント・ファイルをコピーしなければなりません。

次のコマンド・ファイルを実行することにより， OpenVMS クライアントから， OpenVMS サーバに DWTE フォント・ファイルをコピーできます。

```
$ @SYS$COMMON:[SNA_JDWTE]JSNADWTE$COPY_FONTS.COM
```

コマンド・ファイルは，進め方を指示します。次の節に記述されている方法でフォント・ファイルをコピーすることもできます。

2.3.1.1 OpenVMS サーバへのフォント・ファイルのコピー

サーバにフォント・ファイルをコピーすれば， OpenVMS サーバに TE を DWTE フォントで表示できます。次のようにします。

1. クライアントに OpenVMS サーバ・フォントをインストールします (第 2.2.2 項を参照)。
2. 次のコマンドを実行して，フォント・ファイルをクライアントから OpenVMS サーバにコピーします。

   ```
   $  COPY SYS$COMMON:[SYSFONT.DECW.USER_75DPI]*.DECW$FONT
   node-name::SYS$COMMON:[SYSFONT.DECW.USER_75DPI]*.*/PROT=(S:RWED,
   O:RWED,G:RWED,W:RE)
   ```

3. OpenVMS DECwindows スタートアップ・コマンドを使用して， OpenVMS サーバをリスタートします。

   ```
   $ @SYS$STARTUP:DECW$STARTUP RESTART
   ```

2.4 インストレーション後の IVP の実行

DEC は，インストレーション中に IVP を実行することをお勧めします。しかし，システムに異常が発生した場合に，製品が影響を受けたかどうかを調べるためにプロシージャを実行する必要があるかもしれません。どのアカウントからも，次のコマンドを発行すれば，インストール後に IVP を実行することができます。

```
$ @SYS$TEST:JSNADWTE$IVP
```

2.4.1 システム・ファイルの編集

システムをリブートする際に TE のスタートアップが自動的に行なわれるように，システム・スタートアップ・ファイルを編集する必要があります。

TE をスタートさせるため，スタートアップ・ファイル，SYS$MANAGER:SYSTARTUP_VMS.COM の中に，次のコマンド行を追加して下さい。

```
$ @SYS$STARTUP:JSNADWTE$STARTUP
```

この新しいコマンド行は，ネットワーク・スタートアップ・コマンド・プロシージャを起動するコマンド行の後に追加しなければなりません。次の例は，ネットワーク・スタートアップ・コマンド行の後に TE のスタートアップ・コマンド行が続くことを示しています。

```
$ @SYS$MANAGER:STARTNET.COM
   .
   .
   .
$ @SYS$STARTUP:JSNADWTE$STARTUP
```

2.4.2 システムのリブート

TE をインストールし，システム・スタートアップ・ファイルを編集し，さらに必要な場合はシステム・パラメータ値を変更した後に，システムをリブートできます。システムをリブートすることにより，製品が使用可能な状態になっているか，システム・スタートアップ・コマンド・ファイルの編集が正しく行なわれているか，そしてパラメータの設定が新しくなっているかを確認できます。ただし，リブートはオプションであることに注意してください。

2.4.3 ユーザ・アカウント特権の設定

TE を使用するためには，システムのユーザ・アカウントの特権とクォータが正しく設定されている必要があります。どのアカウントも，最低 TMPMBX 特権と NETMBX 特権を持っていなければなりません。ユーザが必要な特権を持っているかどうかについては，『OpenVMS Authorize Utility』を使用して確認してください。

2.4.4 クラスタ環境でのインストレーション

VAXcluster の複数のノードで TE ソフトウェアを実行する場合には，まず必要なソフトウェア・ライセンスがあるかどうかを確認してください。そして，クラスタ上の各ノードのスタート・アップ・ファイルに次のコマンドを追加してください。

```
$ @SYS$STARTUP:JSNADWTE$STARTUP.COM
```

ソフトウェアをインストールした後，クラスタの各ノードで，次のコマンドを実行してください。

```
$ LICENSE LOAD DW-SNA-3270-TE-VMS-JAPAN
$ @SYS$STARTUP:JSNADWTE$STARTUP.COM
$ INSTALL REPLACE SYS$SHARE:DCLTABLES
```

2.5 変換テーブルのコピー

OpenVMS システム上では JIS ローマ字と JIS カタカナが用いられます。一方，IBM システム上では，EBCDIC が用いられます。 TE では，これらの文字コードを相互に変換するために，省略時 1 バイトコード変換テーブル・ファイル SYS$LIBRARY:SNADWTE$DEF_KANA.TBL および SYS$LIBRARY:SNADWTE$DEF_ALPHA.TBL を用います。

TE では，内部変換テーブルと同じテーブルをマクロで提供しています。このマクロに変更を加え，ゲートウェイ・ソフトウェアがインストールされた OpenVMS システム上でコンパイルすることにより新しい内部変換テーブルを作成することができます。変換テーブルの作成は以下の手順で行います。

1. マクロを OpenVMS ゲートウェイ・ノードにコピーします。
2. OpenVMS ゲートウェイ・ノード上でマクロを修正し，コンパイルすることにより，新しい変換テーブルを作成します。変換テーブルの作成方法の詳細ついては，『DECnet/SNA Gateway-CT and Gateway-ST Management (OpenVMS)』をご覧ください。
3. 作成した変換テーブルを，TE クライアントの SYS$LIBRARY:SNADWTE$DEF_KANA.TBL または SYS$LIBRARY:SNADWTE$DEF_ALPHA.TBL にコピーします。例えば，次のコマンドを実行します。

```
$ COPY GWNODE::SYS$LIBRARY:MY_KANA_TABLE.EXE -
_$ SYS$LIBRARY:SNADWTE$DEF_KANA.TBL
```

2.6 問題点の通知

本ソフトウェアについては、日本 DEC 所定のソフトウェア保証基準に定められた保証が提供されますので、その内容にしたがった処置をとってください。なお、ご不明な点につきましては、日本 DEC の各支店 / 営業所にお問い合せください。

2.7 インストレーション例

TE のインストレーション例を示します。このインストレーション例は，TE の前バージョンがインストールされていないシステムで実行したものです。このインストレーション例では，インストレーションの最後で，インストレーション検証プロシージャ (IVP) が実行されています。

```
                UNAUTHORIZED ACCESS TO THIS SYSTEM IS PROHIBITED
Username: SYSTEM
Password:
 Welcome to OpenVMS VAX V6.0 on node DEC012
    Last interactive login on Wednesday,  15-JAN-1994 13:30
    Last non-interactive login on Wednesday,  15-JAN-1994 13:31
$ @SYS$UPDATE:VMSINSTAL SNADWTEJAA020 MKB500: OPTIONS N

        OpenVMS VAX Software Product Installation Procedure V6.0

It is 30-MAR-1994 at 15:46.

Enter a question mark (?) at any time for help.

%VMSINSTAL-W-ACTIVE, The following processes are still active:
        DECW$SERVER_0
        DEMO
        _LTA5010:
        _FTA31:
        _FTA32:
* Do you want to continue anyway [NO]? y
* Are you satisfied with the backup of your system disk [YES]?

Please mount the first volume of the set on  MKB500:.
* Are you ready? y
%MOUNT-I-MOUNTED, JDWTE mounted on _MKB500:

The following products will be processed:

  SNADWTEJAA V2.0

        Beginning installation of SNADWTEJAA V2.0 at 15:49

%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set A ...

    Release notes included with this kit are always copied to SYS$HELP.

    Additional Release Notes Options:

        1.  Display release notes
        2.  Print release notes
        3.  Both 1 and 2
        4.  None of the above

* Select option [2]:
* Queue name [SYS$PRINT]:
Job SNADWTEJA020A (queue SYS$PRINT, entry 227) started on LN03
* Do you want to continue the installation [NO]? y
%VMSINSTAL-I-RELMOVED, Product's release notes have been moved to SYS$HELP.
```

```
      Japanese DECwindows DECnet SNA 3270 Terminal Emulator for OpenVMS V2.0A
                          Installation Procedure

    This Japanese DECwindows DECnet SNA 3270 TE  installation  includes
    both Japanese 3270 TE software and workstation font files.  You can
    choose to install one or both of these on this OpenVMS node.

* Do you want to install the entire kit [YES]?

        Product:      DW-SNA-3270-TE-VMS-JAPAN
        Producer:     DEC
        Version:      2.0
        Release Date: 28-MAR-1994

* Does this product have an authorization key registered and loaded? y
* Do you want to run the IVP after the installation [YES]?
* Do you want to purge files replaced by this installation [YES]?

    All questions have been asked, installation continuing ...
    It will take 2 to 5 minutes to complete.

    Japanese DECwindows 3270 TE workstation font files for OpenVMS
    successfully moved.   It is necessary to restart  DECwindows on
    your workstation to install these fonts for use by the Japanese
    DECwindows 3270 TE.
    The following command will do this:

        @SYS$STARTUP:DECW$STARTUP RESTART

    To install the Japanese DECwindows DECnet SNA 3270 TE images
    as shareable each time the system reboots, you must add the
    following line to your system startup procedure:

        $ @SYS$STARTUP:JSNADWTE$STARTUP

    The SYS$COMMON:[SNA_JDWTE] directory contains DECwindows 3270 TE
    server font files for VMS display servers.  The command file,
    JSNADWTE$COPY_FONTS.COM, can be used to copy these font files
    over the network to desired servers.
    See the "Japanese DECwindows DECnet SNA 3270 Terminal Emulator
    for VMS Installation Guide" for further details.

    The IVP for this product, JSNADWTE$IVP.COM, can be found in
    the SYS$TEST directory.

%VMSINSTAL-I-MOVEFILES, Files will now be moved to their target directories...

      Starting Japanese DECwindows DECnet SNA 3270 TE V2.0A IVP

     Japanese DECwindows DECnet SNA 3270 TE V2.0A IVP completed successfully

        Installation of SNADWTEJAA V2.0 completed at 15:54

        VMSINSTAL procedure done at 15:54

"
```

2.8 インストールされるファイル一覧

TE のインストレーションによって、システムにいくつかのファイルが作成されます。これらのファイルは，クライアント・ファイル (表 2–3 参照) とサーバ・ファイル (表 2–4 参照) の 2 つに分けることができます。これらのファイルを表 2–3 に示します。

表 2–3 インストールされるファイル

ファイル	ディレクトリ	内容
SNADWTEJA020A.RELEASE_NOTES	SYS$HELP	リリース・ノート
JSNADWTE$MAIN.EXE	SYS$SYSTEM	実行可能イメージ
JSNADWTE$MSG.EXE	SYS$MESSAGE	メッセージ・ファイル
JSNADWTE$STARTUP.COM	SYS$STARTUP	システム・スタートアップで実行するコマンド・プロシージャ
JSNADWTE$IVP.COM	SYS$TEST	インストレーション検証プロシージャ
JSNADWTE$HELP.HLB	SYS$HELP	DECwindows ヘルプ・ライブラリ
JSNADWTE$UID.UID	DECW$SYSTEM_DEFAULTS	ユーザ・インターフェイスの記述
SNADWTE_DEFAULTS.DAT	DECW$SYSTEM_DEFAULTS	ユーザ・インターフェイスの省略時の設定
SNADWTE_KBD_LAYOUT.DAT	SYS$LIBRARY	省略時キーボード・レイアウト（LK201）
JSNADWTE_SCREEN_KANJI11_18_21.DECW$FONT JSNADWTE_SCREEN_ROMANKANA_9_21.DECW$FONT	SYS$COMMON:[SYSFONT.DECW.USER_75DPI]（注）	J-3270 TE システムに特有なフォント・ファイル
SNADWTE$PROFILE.VUE$DAT	VUE$LIBRARY	VUE プロファイル・ファイル
SNADWTE$DEF_KANA.TBL	SYS$LIBRARY	カナ文字用 1 バイトコード変換テーブル
SNADWTE$DEF_ALPHA.TBL	SYS$LIBRARY	英小文字用 1 バイトコード変換テーブル
SNADWTE$DEF_KANA.MAR	SYS$EXAMPLES	カナ文字用 1 バイトコード変換テーブル・マクロ
SNADWTE$DEF_ALPHA.MAR	SYS$EXAMPLES	英小文字用 1 バイトコード変換テーブル・マクロ
jsnaknjdef.EXE	SYS$SYSTEM	jsnaknjdef ユーティリティ
jsnaknjdef.HLB	SYS$HELP	jsnaknjdef ユーティリティの HELP

（注）クライアントのみのインストールの場合，これら 2 つのファイルは，SYS$COMMON:[SNA_JDWTE]におかれます。

表 2–4 サーバ・ファイル

ファイル	ディレクトリ	内容
SNADWTEJA020A.RELEASE_NOTES	SYS$HELP	リリース・ノート
JSNADWTE$IVP.COM	SYS$TEST	インストレーション検証プロシージャ
SNADWTE$PROFILE.VUE$DAT	VUE$LIBRARY	VUE プロファイル・ファイル
JSNADWTE_SCREEN_KANJI11_18_21.DECW$FONT JSNADWTE_SCREEN_ROMANKANA_9_21.DECW$FONT	SYS$COMMON:[SYSFONT.DECW.USER_75DPI]	J-3270 TE システムに特有なフォント・ファイル

2.9 IBM システムのパラメータ設定

IBM ホスト・アプリケーションは，TE が拡張データ・ストリームおよび照会 (TE のグラフィック機能を識別する) を扱うことができるかどうか確認しなければなりません。したがって，LOGMODE 表の中の適切な項目を定義する必要があります。

次の項目の例は，LOGMODE 表の中の 3270 PC を定義します。

```
DECPS55   MODEENT LOGMODE=DECPS55,                              X
                        FMPROF=X'03',                           X
                        TSPROF=X'03',                           X
                        PRIPROT=X'B1',                          X
                        SECPROT=X'90',                          X
                        RUSIZES=X'8587',                        X
                        PSNDPAC=X'04',                          X
                        SRCVPAC=X'04',                          X
                        SSNDPAC=X'04',                          D
                        COMPROT=X'3080',                        X
                        PSERVIC=X'028000000000185018507F00'

"
```

A

キーボード機能

この章では，日本語 DECwindows DECnet SNA 3270 ターミナル・エミュレータ（TE）のキーボード機能について説明します。省略時のキーの割り当てが利用者の条件に合わない場合には，それらを再定義することもできます。 TE キーボードに対して利用者固有のキー定義を行う方法を知るには第 1.4 節を参照してください。

A.1 LK201 キーボード上の省略時 TE キー機能

表 A–1 は，キーボード機能とキーボード上の省略時のキーを示しています。

表 A–1 TE キー機能

種別	TE 機能名	省略時の TE キー	PS55 日本語 3270 パーソナル・コンピュータキー
カーソル移動	Left	←	←
	Right	→	→
	Up	↑	↑
	Down	↓	↓
	Tab	Tab	Tab（→|）
	BckTab	F12 または Ctrl/H	Back Tab（|←）
	NewLin	Return または Ctrl/M	New Line（←┘）
	Home	F13 または Ext + B	Home（┌↖）
編集	Insert	Ext + PF4	挿入
	Delete	Next Screen	削除
	ErEof	F18	Erase EOF
	ErInp	Ext + F18 または Ext + KP_-	ErInp（Erase Input）
	FM	Ext + F13 または Ext + ;	FM
	DUP	Ext + F12 または Ext + *	DUP
	RubOut	<X	削除
ホストプログラムへの要求	Enter	Do または Enter	実行
	PF1	PF1	PF1
	PF2	PF2	PF2
	PF3	PF3	PF3

(次ページに続く)

表 A–1 (続き) TE キー機能

種別	TE 機能名	省略時の TE キー	PS55 日本語 3270 パーソナル・コンピュータキー
	PF4	KP_7	PF4
	PF5	KP_8	PF5
	PF6	KP_9	PF6
	PF7	KP_4	PF7
	PF8	KP_5	PF8
	PF9	KP_6	PF9
	PF10	KP_1	PF10
	PF11	KP_2	PF11
	PF12	KP_3	PF12
	PF13	Ext + PF1	PF13
	PF14	Ext + PF2	PF14
	PF15	Ext + PF3	PF15
	PF16	Ext + KP_7	PF16
	PF17	Ext + KP_8	PF17
	PF18	Ext + KP_9	PF18
	PF19	Ext + KP_4	PF19
	PF20	Ext + KP_5	PF20
	PF21	Ext + KP_6	PF21
	PF22	Ext + KP_1	PF22
	PF23	Ext + KP_2	PF23
	PF24	Ext + KP_3	PF24
	PA1	PF4	PA1
	PA2	KP_-	PA2
	PA3	KP_,	PA3
	Attn	F19 または Ext + A	Attn（Attention）
	Clear	Ext + F20 または Ext + Enter	Clear
	SysReq	Ext + F19	Sys Rq（System Request）
画面の印刷	Print	F11 または Ext + P	Print
	SetFil	Ext + F11 または Ext + F	Ident
ライトペン代替操作	Select	Ext + Select	Cursor Sel
その他の機能	Reset	KP_0	Reset
	Kanji	Ext + K	日本語入力
	LogNOT	Ext + N	論理 NOT
	LogOR	Ext + O	論理 OR
	ChgCha	Ext + =	-
	HanZen	Ext + W	-

(次ページに続く)

表 A–1 (続き) TE キー機能

種別	TE 機能名	省略時の TE キー	PS55 日本語 3270 パーソナル・コンピュータキー
	CrBlnk	F17	–
	Defkey	Ctrl/K	–
	DspAtt	Ext + F17 または Ctrl/V	–
	DspPos	Ext + Q	–
	DvCncl	Ext + Remove	–
	Exit	F10 または Ctrl/Z	–
	Ext	KP_.	–
	Help	Help または Ext + H	–
	NumOvr	Remove または Ext + J	–
	Play	Insert Here	–
	Record	Ext + Insert Here	–
	Save	Ext + V	–
	Warp	Ctrl/W	–
	Xfer	Ext + T	ホット・キー
	ATCOM	Ctrl/N	–
	ACCncl	Ctrl/A	–

注意

いくつかのキーは，誤って使用すると，キーボードがロックされます。例えば，入力不可フィールドに入力しようとするとキーボードがロックされます。この場合，操作員情報域に状態標識「XX この位置では変更できません。」が表示され，データ入力のためのどのキーも使用できなくなります。この場合には Reset 機能を使用して，キーボードのロックを解除した後，再度キーボードを使用してください。

TE キー機能について詳しい説明が必要な場合には，次の IBM 社の解説書を参照してください。

- IBM 3270 Information Display System
- IBM 3270 Information Display System: Operator's Guide
- IBM 3270 Information Display System: 3278 Display Station Operator's Guide
- IBM 3179-G/3192-G カラー・グラフィック表示装置解説書

A.2 キー機能定義

A.2.1　カーソル移動

A.2.1.1　Left，Right

Left キーと Right キーを使用すれば，すでに入力したデータを変更せずにカーソルを画面上で左右に移動できます。

カーソルが行の最後にあるときに Right キーを使用すると，カーソルは自動的に次の行の先頭に移動します。

カーソルが行の先頭にあるときに Left キーを使用すると，カーソルは自動的に前の行の最後に移動します。

A.2.1.2　Up，Down

Up または Down キーを使用すれば，すでに入力したデータを変更せずに画面上でカーソルを上下に移動できます。

Up キーを使用した時にカーソルが画面の一番上の行にある場合には，カーソルは画面の一番下にある行の同じ桁に移動します。

カーソルが画面の一番下の行にあるときに Down キーを使用した場合には，カーソルは画面の一番上にある同じ桁に移動します。

A.2.1.3　Tab

Tab 機能は画面の次の入力可フィールドの最初の文字位置にカーソルを移動します。画面にフィールドがない場合には，Tab は画面の最初の文字位置にカーソルを移動します。

カーソルが画面の最後の入力可フィールド内にある時に Tab を押すと，カーソルは画面の最初の入力可フィールドの最初の文字位置に移動します。

A.2.1.4　BckTab

BckTab 機能はカーソルを移動します。この機能を定様式画面で使用した場合は，カーソルのある位置により 2 つの動作のいずれかが起こります。カーソルが入力可フィールドの第 2 文字目以降にある場合には，カーソルはそのフィールドの第 1 文字目に移動し，そうでなければカーソルは直前の入力可フィールドの第 1 文字目に戻ります。カーソルが定様式画面の最初の入力可フィールドの第 1 文字目にある時に BckTab を使用した場合には，カーソルは画面の最後の入力可フィールドの第 1 文字目に移動します。不定様式画面で BckTab を使用した場合には，カーソルは画面の先頭に移動します。

A.2.1.5　NewLin

NewLin（New Line）機能は，カーソルを画面の次の行の最初の入力可フィールドに移動します。 NewLin を使用した時に，画面に入力可フィールドが存在しない場合には，カーソルは画面の最初の文字位置に移動します。画面にフィールドが存在しない場合には，NewLin は次の行の先頭にカーソルを移動します。

A.2.1.6 Home

Home 機能は，画面の最初の入力可フィールドの先頭位置にカーソルを移動します。

A.2.2 編集

A.2.2.1 Insert

Insert 機能は，挿入モードを有効にします。挿入モードでは入力可フィールド内の既存の文字の間に新しい文字を入力することにより，データを編集できます (『第 1.2.4.2 項, 挿入モード』を参照)。 Insert 機能を使用すると，状態標識「^」が表示されます。

挿入モードを使用した後に通常モードに画面を戻すには， Reset を使用します。また， Clear， Enter， PA 機能または PF 機能を使用した場合にも，画面は通常モードに戻ります。

空であるように見えるフィールドに文字を挿入しようとした時にキーボードがロックされた場合は，フィールドにはスペースが詰まっているかもしれません。この場合には， ErEof 機能を使用してこれらのスペースを消去してください。

A.2.2.2 Delete

Delete 機能は，現在の文字 (すなわち，カーソルがある位置の文字) を削除します。カーソル位置は移動せず，同じフィールド内でカーソルの右側にある他の文字が 1 文字ずつ左に移動します。フィールドの最後の部分には NULL 文字が挿入されます。

A.2.2.3 ErEof

ErEof 機能は，現在のフィールドの文字をカーソルの現在の位置からフィールドの最後まで消去します。カーソルは同じ位置から移動しません。

A.2.2.4 ErInp

ErInp 機能は，画面の入力可フィールドのすべてのデータを消去し，カーソルを画面の最初の入力可フィールドの最初の位置に移動します。

また，不定様式画面ですべてのデータを消去するためにこの機能を使用することもできます。その場合には，カーソルは画面の最初の文字位置に移動します。

Record 機能 +ErInp 機能を使用すると，それまで記録したすべてのキー入力を取り消すことができます。

A.2.2.5 FM

不定様式画面上では， 1 つのデータの区切りを表します。また定様式画面上では， 1 つの入力可フィールドの終わりを表します。このキーの使用方法の詳細は， IBM システムのマニュアルを参照してください。

このキーを押すと， FM 制御コードがバッファに入り，画面上では空白になります。

A.2.2.6 DUP

DUP（Duplicate）機能は，1 つのフィールド内にいくつかの同じパターンの文字列を入力する必要がある時に使用されます。最初に何文字かのデータを入力した後で DUP キーを押すと，IBM システムの適用業務プログラムは DUP が入力された位置に同じパターンの文字列を挿入します。 DUP 機能の使用法については，IBM システムの適用業務プログラムのマニュアルを参照してください。

DUP 制御コードは，画面上では空白になります。

A.2.2.7 Rubout

RubOut 機能は， Delete 機能と同じ働きをします。

A.2.3 ホストプログラムへの要求

A.2.3.1 Enter

Enter 機能は，利用者が入力したデータを IBM システムの適用業務プログラムに送信します。 IBM システムとの通信を実行している間，状態標識「XX お待ちください。」が表示され，キーボードはロックされます。 IBM システムの適用業務プログラムが利用者の入力に対する処理を終了すると，通常，キーボードのロックは解除されます。

A.2.3.2 PF1 ~ PF24

PF1 ~ PF24 の PF(Program Function) キーも，使用中の各 IBM システムの適用業務プログラムによって定義されています。これらのキーを押すと，定められた信号が IBM システムの適用業務プログラムに送信され，入力したデータが送信されます。 PF キーは適用業務プログラムによって関連するアプリケーション機能を実行するように定義されます。各 PF キーは，各アプリケーション毎に異なる定義がなされている可能性もあります。 IBM システムの適用業務プログラムに関するマニュアルには，その適用業務プログラムでは PF キーをどのように割り当てられているのかについて説明されています。

A.2.3.3 PA1 ~ PA3

PA(Program Access) キー PA1 ~ PA3 は，利用者が使用している各適用業務プログラムによって定義されます。これらのキーを押すと，データは何も送られずに IBM システムの適用業務プログラムに定められた信号が送信されます。 PA キーについては，適用業務プログラムに関するマニュアルを参照してください。

A.2.3.4 Attn

Attn 機能は，動作中の IBM システムの適用業務プログラムにアテンションを要求します。このキーにより，プログラムがどのような応答をするかについては，各 IBM システムの適用業務プログラムのマニュアルを参照してください。

A.2.3.5 Clear

Clear 機能は画面の内容を消去し，カーソルを画面の先頭に移動します。 Clear を使用すると， TE はこの機能が使用されていることを適用業務プログラムに通知します。

A.2.3.6 SysReq

SysReq 機能を使用すると，適用業務プログラム（ LU-LU セッション）と制御プログラム（ SSCP-LU セッション）を切り換えることができます。 LU-LU セッションの場合には，状態標識「RB」が表示されます。 SSCP-LU セッションの場合には「R&」が表示されます。 SysReq を使用することにより LU-LU セッションに戻ると， LU-LU セッションの画面はリフレッシュされます。

A.2.4 画面の印刷

A.2.4.1 Print

ファイルまたは，印刷装置に画面の内容を出力するために Print 機能を用います。 Print 機能を使用すると，状態標識「Print」が表示されます。（ Print 機能に関する詳細な説明は，『第 1.2.5.1 項, 省略時印刷属性での印刷』を参照してください。）

A.2.4.2 SetFil

SetFil（ Set Print File ）機能を使用すれば， Print 機能を使用するたびに出力されるファイルまたは印刷装置の名前を変更できます。省略時の設定では，ファイル SNATPRINT.LIS に出力されます。 SetFil を使用すると，新しい出力ファイルまたは印刷装置の名前を要求するダイアログ・ボックスが表示されます。このように， SetFil は IBM の Ident キーをエミュレートします。

A.2.5 ライトペン代替機能

A.2.5.1 Select

Select 機能を使用すると，ライトペン検知可フィールドにメニュー，表，またはリストから項目を選択し，その選択結果を IBM システムに送信できます。カーソル移動キーを使用して，ライトペン検知可フィールドにカーソルを移動した後， Select を使用してください。詳細は IBM システムのマニュアルを参照してください。

A.2.6 その他の機能

A.2.6.1 Reset

入力不可フィールドや満杯のフィールドにデータを挿入しようとしたり，フィールドに誤ったデータ・タイプを入力しようとしたためにキーボードがロックされた場合， Reset はキーボードのロックを解除し，キーボードを利用者の制御下に戻します。

Reset を使用すると，操作員情報域に表示された状態標識「XX この位置では変更できません。」は消去されます。カーソルはもとの位置から移動せず，画面も変更されません。

A.2.6.2 Kanji

漢字入力の詳細は『第 1.2 節, TE の使用』を参照してください。

A.2.6.3 LogNOT

この機能により，論理 NOT のシンボルを入力することができます。論理 NOT の使用は IBM システムの適用業務プログラムによって制御されます。

A.2.6.4 LogOR

この機能により，論理 OR のシンボルを入力することができます。論理 OR の使用は IBM の適用業務プログラムによって制御されます。

A.2.6.5 ChgCha

ChgCha 機能は， Basic Character 修飾子/オプションで指定された基本文字セットと，指定されなかった代替文字セットの使用を切替えます。この機能は画面表示と Print 機能およびファイル転送に対してのみ有効で，入力には基本文字セットが使用されます。

A.2.6.6 HanZen

HanZen(半角 / 全角) 機能は，入力する文字の幅を切り替えるときに使用します。この機能は，トグル・スイッチになっています。現在，半角と全角のどちらのモードになっているかは，ステータス・ラインに表示されています。この機能は，漢字入力可能英数カナフィールドでのみ有効です。

A.2.6.7 CrBlnk

CrBlnk（ Cursor Blinking ）オプションはカーソルを点滅表示する，しないを切り替えるトグル・スイッチです。省略時の設定では，カーソルは点滅します。

A.2.6.8 Defkey

Defkey（ Define Key ）機能は，セッション活動中に 1 つ以上のキーを定義または再定義します。 Defkey を使用すると，「キーの定義」ダイアログ・ボックスが表示されます。

A.2.6.9 DspPos

DspPos（ Display Position ）機能は，現在のカーソル位置を操作員情報域に表示します。この機能はトグル・スイッチで，カーソル位置が表示されているときは，これを消去するキーとして機能します。操作員情報域には，“行数/桁数”という形で表示されます。

A.2.6.10 DspAtt

DspAtt（ Display Attributes ）機能は，フィールド属性表示モードを有効または無効にします。この操作モードでは，フィールド属性を示す文字が画面に表示されます。すなわち，フィールドの開始位置に表示属性やデータ・タイプを示す文字が表示されます (表 1–7 を参照) 。

A.2.6.11 DvCncl

DvCncl（Device Cancel）機能は，Record 機能を取り消します。 Record 機能を使用している時にこの機能の使用を停止したい場合には，キー入力の記録を取り消すために，いつでも DvCncl を使用できます。

A.2.6.12 Exit

Exit 機能は TE を終了します。 Exit を使用すると，IBM システムとのセッションも終了します。 IBM システムと TE の間で実行中のデータ交換は中断されます。

A.2.6.13 Ext

Ext(Extended Function) キーは，別のキーと組み合わせて使用することでそのキーに対する拡張機能が使用できます。 Ext を押した後，別のキーを押すことでそのキーに対する TE 機能を使用します。

注意

Ext を誤って押した場合には，Reset を使用してそれを取り消すことができます。

Ext を押すと，状態標識「Ext」が表示されます。

A.2.6.14 Help

Help 機能は，現在のキーボード・レイアウトを表示します。この機能は「参照」メニューの「キー配置」選択項目と同じです。

A.2.6.15 NumOvr

NumOvr（Numeric Lock Override）機能はトグル・スイッチであり，数字フィールドへの数字以外の文字の入力を許可します。この機能を有効に設定した後にこの機能が不要になった場合には，NumOvr を使用してこの機能を無効に設定しなければなりません。 NumOvr を使用すると，状態標識「O」が表示されます。

A.2.6.16 Play

Play 機能は，Record 機能を使用して特定の PF キーに記録したキー操作を再生します。 Play 機能を使用するには，Play キーを押した後，キー操作が記録されている PF キーを押します。 Play 機能は，記録されている一連のキー操作をすべて実行します。

Play 機能を使用すると，状態標識「P」が表示されます。

A.2.6.17 Record

Record 機能は，特定の PF キーに一連のキー操作を記録します。キー操作の内容とそれに対応つけられた PF キーについての情報は，現在のディレクトリの，SNADWTE$RECSEQ.DAT，というファイルに登録されます。 Record を押し，プロンプトに従って PF キーを押し，一連のキー操作を行い，その後，Record を再度押してください。各 PF キーに対して最大 127 のキー操作を保存できます。 Record 機能を使用すると，状態標識「R」が表示されます。

次の機能はキー操作として記録できません。

- Defkey
- DvCncl
- Play
- Record
- Save
- SetFil
- SysReq
- Kanji
- Xfer

キー操作を再生するには， Play 機能を使用します。実行中の Record 機能を取り消すには DvCncl 機能を使用します。すでに記録したすべてのキー操作を取り消すには，Record 機能を使用した後， ErInp 機能を使用します。

また，TE ポップアップ・メニューの「キーを記録」選択項目を使用して，キー操作を記録することもできます (『第 1.2.7 項, キー操作の記録と再生』を参照)。

A.2.6.18 Save

Save 機能は，セッションで再定義したキー定義を登録したファイルを作成します。

Save を使用すると，ファイル名を要求するダイアログ・ボックスが表示されます。作成するバイナリ・ファイルの名前を入力してください。次に TE を起動するときに Key Definition 修飾子 / オプションを使用して，作成したバイナリ・ファイルの名前を指定してください。

A.2.6.19 Warp

省略時の設定では， TE は warping をサポートします。すなわち，あるアプリケーションを使用している場合には，マウス・ポインタは画面上の新しい位置に移動 (あるいは "warp") します。この機能はトグル・スイッチであり，いつでも warping を無効にすることができます。

A.2.6.20 Xfer

Xfer 機能は，ファイル転送を開始するために「ファイル転送」ダイアログ・ボックスを表示します。詳細は『第 1.5 節, ファイル転送』を参照してください。

A.2.6.21 ATCOM

ATCOM キー機能は自動コマンドを開始する場合に使用します。 このキーを押すと「自動コマンドファイル」ウィンドウが表示 されます。ここにスクリプトファイル名を指定するとそのスク リプトが実行されます。詳細は『付録 H, 自動コマンドファイル』を参照してください。

A.2.6.22　ACCncl

ACCncl キー機能は現在実行中の自動コマンドを中止する場合に 使用します。この機能は自動コマンド実行中にのみ有効です。

B

変換テーブル

OpenVMS システム上では 1 バイトコードは JIS ローマ字と JIS カタカナが用いられます。一方，IBM システム上では，EBCDIC が用いられます。 TE では，これらの文字コードを相互に変換するために，変換テーブルを用います。この変換テーブルを用いて，基本文字モードおよび代替文字モードで使用される文字セットのコード変換を指定することができます。

TE は，カナ文字用変換テーブルと英小文字用変換テーブルの 2 つの変換テーブルを提供しています。変換テーブルは省略時変換テーブル・ファイルに含まれています。それぞれのファイル名は，
カナ文字用： SYS$LIBRARY:SNADWTE$DEF_KANA.TBL
英小文字用： SYS$LIBRARY:SNADWTE$DEF_ALPHA.TBL

TE はそれぞれの変換テーブルをこの省略時変換テーブル・ファイルから読み込み，基本文字モード修飾子の指定にしたがってそれぞれの変換テーブルを基本文字モード変換テーブルおよび代替文字モード変換テーブルに割り当てます。

これらの変換テーブルは，変更して使用することも可能です。 TE は， TE の提供する変換テーブル・ファイルのそれぞれに対応した変換テーブル・マクロを提供します。このマクロに修正を加え，コンパイルすることにより，変換テーブル・ファイルを作成します。作成したファイルを省略時変換テーブル・ファイルにコピーすれば，作成した変換テーブル・ファイルを TE で使用することができます。あるいは基本文字モード・テーブルのみであれば， Character Set オプションで起動時に直接指定することにより，作成した変換テーブル・ファイルを使用することができます。

利用者固有の変換テーブル・ファイルを作成することもできます。 TE は， TE の提供する変換テーブル・ファイルのそれぞれに対応した変換テーブル・マクロを提供します。このマクロに修正を加え，コンパイルすることにより，変換テーブル・ファイルを作成します。作成したファイルを省略時変換テーブル・ファイルにコピーするか，あるいは Character Set オプションで指定すると，作成した変換テーブル・ファイルを TE で使用することができます。

TE の提供する変換テーブル・ファイル，変換テーブル・マクロ，及び変換テーブル・ファイルの作成方法の詳細については第 2 章『インストレーション・ガイド』を参照してください。

TE が提供するカナ文字用変換テーブルを図 B–1，図 B–2 に，英小文字用変換テーブル・ファイルを図 B–3，図 B–4 に示します。

図 B–1　カナ文字用変換テーブル「送信用」(JIS → EBCDIC)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0	00	10	40	F0	7C	D7	79	D7	40	40	4A	58	91	A5	40	40
1	01	11	5A	F1	C1	D8	C1	D8	40	40	41	81	92	A6	40	40
2	02	12	7F	F2	C2	D9	C2	D9	40	40	42	82	93	A7	40	40
3	03	13	7B	F3	C3	E2	C3	E2	40	40	43	83	94	A8	40	40
4	37	3C	E0	F4	C4	E3	C4	E3	40	40	44	84	95	A9	40	40
5	2D	3D	6C	F5	C5	E4	C5	E4	40	40	45	85	96	AA	40	40
6	2E	32	50	F6	C6	E5	C6	E5	40	40	46	86	97	AC	40	40
7	2F	26	7D	F7	C7	E6	C7	E6	40	40	47	87	98	AD	40	40
8	16	18	4D	F8	C8	E7	C8	E7	40	40	48	88	99	AE	40	40
9	05	19	5D	F9	C9	E8	C9	E8	40	40	49	89	9A	AF	40	40
A	25	3F	5C	7A	D1	E9	D1	E9	40	40	51	8A	9D	BA	40	40
B	0B	27	4E	5E	D2	A0	D2	C0	40	40	52	8C	9E	BB	40	40
C	0C	1C	6B	4C	D3	5B	D3	5B	40	40	53	8D	3F	BC	40	40
D	0D	1D	60	7E	D4	B0	D4	B0	40	40	54	8E	A2	BD	40	40
E	3F	1E	4B	6E	D5	5F	D5	5F	40	40	55	8F	A3	BE	40	40
F	3F	1F	61	6F	D6	6D	D6	6D	40	40	56	90	A4	BF	40	40

変換テーブルは最上段の 0 ~ F は，JIS コードでの上位 4 ビットを表し，最左段の 0 ~ F は JIS コードでの下位 4 ビットを表します。上位 4 ビットに対応する行と下位 4 ビットに対応する列の交わる位置に書き込まれている文字および 16 進コードが，IBM システム上での EBCDIC 16 進コードを表しています。

図 B–2　カナ文字用変換テーブル「受信用」(EBCDIC → JIS)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0	00	10	00	00	20	26	2D	20	20	BF	5B	5D	7B	7D	24	30
1	01	11	00	00	A1	AA	2F	20	B1	C0	7E	20	41	4A	20	31
2	02	12	00	16	A2	AB	20	20	B2	C1	CD	20	42	4B	53	32
3	03	13	00	00	A3	AC	20	20	B3	C2	CE	20	43	4C	54	33
4	00	00	00	00	A4	AD	20	20	B4	C3	CF	20	44	4D	55	34
5	09	00	0A	00	A5	AE	20	20	B5	C4	D0	20	45	4E	56	35
6	00	08	17	00	A6	AF	20	20	B6	C5	D1	20	46	4F	57	36
7	00	00	1B	04	A7	20	20	20	B7	C6	D2	20	47	50	58	37
8	00	18	00	00	A8	B0	20	20	B8	C7	D3	20	48	51	59	38
9	00	19	00	00	A9	20	20	60	B9	C8	D4	20	49	52	5A	39
A	00	00	00	00	A0	21	20	3A	BA	C9	D5	DA	20	20	20	20
B	0B	00	00	00	2E	5C	2C	23	20	20	20	DB	20	20	20	20
C	0C	1C	00	14	3C	2A	25	40	BB	20	D6	DC	20	20	20	20
D	0D	1D	05	15	28	29	5F	27	BC	CA	D7	DD	20	20	20	20
E	20	1E	06	00	2B	3B	3E	3D	BD	CB	D8	DE	20	20	20	20
F	20	1F	07	00	7C	5E	3F	22	BE	CC	D9	DF	20	20	20	20

変換テーブルは最上段の 0 ~ F は，EBCDIC コードでの上位 4 ビットを表し，最左段の 0 ~ F は EBCDIC コードでの下位 4 ビットを表します。上位 4 ビットに対応する行と下位 4 ビットに対応する列の交わる位置に書き込まれている文字および 16 進コードが，DEC システム上での JIS 16 進コードを表しています。

図 B–3　英小文字用変換テーブル「送信用」(JIS → EBCDIC)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0	00	10	40	F0	7C	D7	79	97	40	40	4A	58	76	9F	40	40
1	01	11	5A	F1	C1	D8	81	98	40	40	42	59	77	AA	40	40
2	02	12	7F	F2	C2	D9	82	99	40	40	43	62	78	AB	40	40
3	03	13	7B	F3	C3	E2	83	A2	40	40	44	63	80	AC	40	40
4	37	3C	5B	F4	C4	E3	84	A3	40	40	45	64	8A	AD	40	40
5	2D	3D	6C	F5	C5	E4	85	A4	40	40	46	65	8B	AE	40	40
6	2E	32	50	F6	C6	E5	86	A5	40	40	47	66	8C	AF	40	40
7	2F	26	7D	F7	C7	E6	87	A6	40	40	48	67	8D	B1	40	40
8	16	18	4D	F8	C8	E7	88	A7	40	40	49	68	8E	B2	40	40
9	05	19	5D	F9	C9	E8	89	A8	40	40	51	69	8F	B3	40	40
A	25	3F	5C	7A	D1	E9	91	A9	40	40	52	70	90	B4	40	40
B	0B	27	4E	5E	D2	A0	92	C0	40	40	53	71	9A	B5	40	40
C	0C	1C	6B	4C	D3	E0	93	4F	40	40	54	72	9B	B6	40	40
D	0D	1D	60	7E	D4	B0	94	D0	40	40	55	73	9C	B7	40	40
E	3F	1E	4B	6E	D5	5F	95	A1	40	40	56	74	9D	B8	40	40
F	3F	1F	61	6F	D6	6D	96	40	40	40	57	75	9E	B9	40	40

変換テーブルは最上段の 0 ~ F は，JIS コードでの上位 4 ビットを表し，最左段の 0 ~ F は JIS コードでの下位 4 ビットを表します。上位 4 ビットに対応する行と下位 4 ビットに対応する列の交わる位置に書き込まれている文字および 16 進コードが，IBM システム上での EBCDIC 16 進コードを表しています。

図 B–4　英小文字用変換テーブル「受信用」(EBCDIC → JIS)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0	00	10	00	00	20	26	2D	BA	C3	CA	5B	5D	7B	7D	5C	30
1	01	11	00	00	20	A9	2F	BB	61	6A	7E	D7	41	4A	20	31
2	02	12	00	16	A1	AA	B2	BC	62	6B	73	D8	42	4B	53	32
3	03	13	00	00	A2	AB	B3	BD	63	6C	74	D9	43	4C	54	33
4	00	00	00	00	A3	AC	B4	BE	64	6D	75	DA	44	4D	55	34
5	09	00	0A	00	A4	AD	B5	BF	65	6E	76	DB	45	4E	56	35
6	00	08	17	00	A5	AE	B6	C0	66	6F	77	DC	46	4F	57	36
7	00	00	1B	04	A6	AF	B7	C1	67	70	78	DD	47	50	58	37
8	00	18	00	00	A7	B0	B8	C2	68	71	79	DE	48	51	59	38
9	00	19	00	00	A8	B1	B9	60	69	72	7A	DF	49	52	5A	39
A	00	00	00	00	A0	21	80	3A	C4	CB	D1	20	20	20	20	20
B	0B	00	00	00	2E	24	2C	23	C5	CC	D2	20	20	20	20	20
C	0C	1C	00	14	3C	2A	25	40	C6	CD	D3	20	20	20	20	20
D	0D	1D	05	15	28	29	5F	27	C7	CE	D4	20	20	20	20	20
E	20	1E	06	00	2B	3B	3E	3D	C8	CF	D5	20	20	20	20	20
F	20	1F	07	00	7C	5E	3F	22	C9	D0	D6	20	20	20	20	20

変換テーブルは最上段の 0 ~ F は，EBCDIC コードでの上位 4 ビットを表し，最左段の 0 ~ F は EBCDIC コードでの下位 4 ビットを表します。上位 4 ビットに対応する行と下位 4 ビットに対応する列の交わる位置に書き込まれている文字および 16 進コードが，DEC システム上での JIS 16 進コードを表しています。

C
メッセージ

この付録には，TE を実行しているときに出力される可能性のあるメッセージの一部がまとめられています。『第 C.1 節, 状態メッセージ』には，コマンドの正常終了を受け入れられない条件を示すメッセージが示されています。『第 C.4 節, 回復不可能エラー・メッセージ』には，TE の実行の継続を受け入れられない条件を示すメッセージが示されています。

次の例は TE メッセージを示しています。

図 C–1　エラー・メッセージ・ボックス

メッセージを確認した後で「了解」をクリックすると，そのメッセージは画面から消去されます。

C.1　状態メッセージ

この節では，コマンドの正常終了を受け入れられない可能性のある条件を示すメッセージが示されています。

BIND イメージが無効な値を指定しています

説明: ゲートウェイが BIND イメージを拒否しました。

利用者の対応: トレースを実行してください。 IBM システムの適用業務プログラムが，非常に大きい出力 RU を指定しているか，誤った FM または TS プロファイルを指定しているか，または誤った範囲のペーシング値を送信した可能性があります。

Connect failed

説明: ローカル・システムまたはリモート・システムが DECnet 論理リンクを確立できませんでした。

利用者の対応: 原因を調べるため，この後に表示される補助エラー・メッセージを確認してください。

Connect 要求が IBM ホストから拒否されました，センス・コード=IBM *sense-code*

説明: IBM システムが接続要求を拒否し，センス・コードを表示しました。

利用者の対応: IBM システムのマニュアルからセンス・コードの意味を判断し，適切な処置を実行してください。

Error in opening fonts file

説明: フォント・ファイルを適切なディレクトリから検索できませんでした。

利用者の対応: サーバの適切なディレクトリにフォント・ファイルをインストールするようにシステム管理者に要求してください。

LU にアクセスできません

説明: 指定した LU を使用することは認められていません。

利用者の対応: システム管理者に正しい LU を確認してください。

PU が活動していません

説明: ゲートウェイの PU は，IBM システムによって起動されていません。

利用者の対応: IBM システムからラインと物理装置を確認し，必要に応じてこれらを起動するように VTAM オペレータに要求してください。これらがすでに起動されている場合には，ゲートウェイと IBM システムの間のハードウェアに問題があると考えられます。

PU 名が指定されていません

説明: ゲートウェイから IBM システムに対して使用する PU の名前が指定されていません。コマンド行の PU 修飾子/オプションに対して値を指定しなければなりません。

利用者の対応: 起動コマンドを再入力し，PU の値を指定してください。

PU 名が存在しません

説明: 利用者が指定した PU が存在しないか，またはアクセス名によって指定される PU が存在しません。

利用者の対応: 適切な PU 名またはアクセス名をシステム管理者に質問してください。

PU 名が長すぎます

説明: PU 名の長さは 8 文字以下でなければなりません。

利用者の対応: 8 文字以下の名前を使用して同じ操作を再実行してください。

Session terminated

説明: IBM システムまたはゲートウェイによって，セッションが終了されました。この後に表示されるエラー・メッセージに理由が示されます。

利用者の対応: この後に表示されるエラー・メッセージに適切に応答してください。

SSCP がセッションを非活動化しました

説明: IBM システムの SSCP は DACTLU コマンドを送信することで，セッションを終了しました。一部の適用業務プログラムは，UNBIND コマンドを送信せずに論理装置を終了して，セッションを終了します。

利用者の対応: 使用中の IBM システムの適用業務プログラムにとって，この状況が正常な状況である場合にはメッセージを無視し，EXIT を押すことで TE を終了してください。それ以外の場合には，この問題をシステム管理者に報告してください。

TE では画面サイズ 24x80 しかサポートしません

説明: TE は，24 × 80 の画面サイズのみサポートします。

利用者の対応: サポートしている画面サイズを使用してください。

Unacceptable BIND image, the following byte is invalid: byte-number

説明: このメッセージは，TE が受け入れられない BIND パラメータを受信したことを示しています。表示されたメッセージのバイト数は，TE に受け入けられなかった BIND 内のフィールドを示します。この後に表示されるメッセージには，受け入れられなかった値に関する詳しい説明が示されます。

利用者の対応: TE に対して設定されていないセッション・アドレスを使用しようとしたと考えられます。このエラー・メッセージに示されるデータと，このメッセージの後に表示されるメッセージのデータを記録しておき，システム管理者に提出してください。 BIND 情報は，このセッションが IBM システムで正しく設定されなかったことを示します。

UNBIND を IBM アプリケーションから受信しました

説明: IBM システムの適用業務プログラムが，このタイプの UNBIND コマンドを送信しました。

利用者の対応: IBM システムのマニュアルからコマンドの意味を判断し，適切な処置を実行してください。

UNBIND を受信しました

説明: IBM システムの適用業務プログラムから，制御が引き渡されました。

利用者の対応: なし。

Unknown node

説明: 指定されたゲートウェイ・ノード名が利用者・システムで認識されませんでした。

利用者の対応: ノードを定義するために NCP を使用してください。

Unsupported FM/TS profile

説明: LU が TE により使用できるように正しく設定されていません。

利用者の対応: 各相互接続システムのパラメータ設定資料を参照してください。

アクセス名が存在しません

説明: 存在しないアクセス名が指定されました。

利用者の対応: システム管理者に正しいアクセス名を確認してください。

アクセス名が長すぎます
説明: アクセス名の長さが 16 文字をこえています。
利用者の対応: 正しいアクセス名を指定して同じ操作を実行してください。

アプリケーション名が長すぎます
説明: アプリケーション名は 8 文字以下でなければなりません。
利用者の対応: 8 文字以下の名前を使用して同じ操作を再度実行してください。

画面をファイルにコピー中にエラー
説明: PRINT キー機能を押したときに，TE が画面の内容を利用者指定ファイルにコピーできませんでした。
利用者の対応: 原因を調べるため，この後に表示される補助エラー・メッセージを確認してください。

画面内容が印刷されました
説明: 画面の内容は Print 機能に指定された印刷装置または出力ファイルに送られました。
利用者の対応: なし。

カラー・アロケーションの資源不足，モノクロームで実行継続
説明: TE はカラーのグラフィックとテキストを表示するためにカラー用の資源が必要ですが，現在十分な資源がありません。
利用者の対応: モノクロ表示で使用を続けるか，他のカラー・アプリケーションを終了し，TE を再起動してください。

キー定義ファイルのオープン・エラー
説明: 利用者が指定したキー定義ファイルが見つかりません。
利用者の対応: ファイル指定を確認してください。

キー定義ファイルの書き込みエラー
説明: キー定義ファイル (キー配列を再定義するために使用したファイル) でエラーが発生しました。
利用者の対応: 詳細は，この後に表示されるメッセージを確認してください。エラーを修正した後で，TE を再起動してください。

キー定義ファイルの読み込みエラー
説明: キー定義ファイル (キー配列を再定義するために使用したファイル) でエラーが発生しました。
利用者の対応: 詳細は，この後に表示されるメッセージを確認してください。エラーを修正した後で，TE を再起動してください。

ゲートウェイ・アクセス・ルーチンがゲートウェイと合っていません
説明: ゲートウェイで使用されるソフトウェアがローカル DECnet ノードのソフトウェアと互換性がありません。
利用者の対応: 適切なソフトウェア・バージョンがゲートウェイと DECnet ノードの両方にインストールされているかどうかを確認してください。

ゲートウェイ・アクセス・ルーチンからのエラー

説明: TE からゲートウェイ・アクセス・ルーチンへの呼び出しが異常終了しました。この後に表示されるエラー・メッセージに問題の原因が詳しく説明されます。

利用者の対応: 原因を判断するため，この後に表示される -SNA エラー・メッセージを確認してください。

ゲートウェイ・ノードとの接続の際エラーが発生しました

説明: DECnet ネットワーク内のリンクに問題があります。これはゲートウェイの問題です。

利用者の対応: この後に表示される DECnet エラー・メッセージを確認し，適切な処置を実行してください。ゲートウェイに到達可能になった場合には，TE を再起動してください。

ゲートウェイへの DECnet リンクの確立に失敗しました

説明: TE がゲートウェイに接続できませんでした。

利用者の対応: この後に表示される DECnet エラー・メッセージを確認し，適切な処置を実行してください。

現在アクティブな LU-LU セッションはありません

説明: LU-LU セッションは現在実行されていません。

利用者の対応: この操作を再実行する前に，LU-LU セッションを確立してください。

コマンド・ライン上にパラメータが多すぎます

説明: TE を起動するときに入力した修飾子の数が多すぎます。

利用者の対応: 正しい起動コマンドを再入力してください。

自動コマンドのエラー

説明: 自動コマンド実行中に他の原因でエラーが生じました。

利用者の対応: 詳細は，この後に表示されるメッセージを確認して下さい。エラーを修正した後で，TE を再起動して下さい。

自動コマンド・ファイルの文法に誤りがあります

説明: 自動コマンド・スクリプトの文法が正しくありません。

利用者の対応: 自動コマンド・スクリプトファイルの内容を修正し，再度自動コマンドを実行して下さい。

自動コマンド・ファイル中に無効な文字があります

説明: 自動コマンドで使用できない文字がスクリプト中に記述されています。

利用者の対応: 自動コマンド・スクリプトファイルの内容を修正し，再度自動コマンドを実行して下さい。

修飾子が矛盾します

説明: コマンド列で指定された修飾子に矛盾があります。 Wait 修飾子 / オプションを指定する場合には， Application Name， Logon Mode， Data 修飾子 / オプションを指定することはできません。

利用者の対応: 使用したコマンド列を確認し，正しいコマンド列を再入力してください。

出力ファイルのオープン・エラー

説明: PRINT キーを使用して示されたファイルをオープンしようとした時に，エラーが発生しました。 IBM システムからの印刷を開始した時も，同じエラーが発生する可能性があります。

利用者の対応: Printer 修飾子 / オプションに指定したプリンタまたはファイルの名前を確認してください。使用したコマンド列を確認し，正しいファイル指定を使用してコマンドを再入力してください。

十分なメモリがありません

説明: 現在使用中のシステムには，正しい操作を行なうのに十分なメモリがありません。

利用者の対応: 使用中のメモリを解放後、再起動してください。

セッション・アドレスが活動していません

説明: 二次 LU が IBM システムから活動化されていません。

利用者の対応: IBM システムから二次 LU を確認するように， VTAM オペレータに要求し，必要に応じてその二次 LU を活動化してください。

セッション・アドレスが既に使用中か，活動していません

説明: アクセス名によって指定された範囲内のセッション・アドレスはすべて，現在使用中であるか，または活動化されていません。

利用者の対応: 追加の二次 LU を起動するように VTAM オペレータに要求するか，または現在有効な二次 LU が使用可能な状態になるのを待ってください。

セッション・アドレスが存在しません

説明: 利用者が指定したセッション・アドレスまたはアクセス名によって指定されるセッション・アドレスが存在しません。

利用者の対応: 適切なセッション・アドレスまたはアクセス名をシステム管理者に問い合わせてください。

セッション・アドレスは 10 進数でなければなりません

説明: 入力されたセッション・アドレスに誤りがあります。

利用者の対応: 正しいセッション・アドレスを入力したかどうかを確認してください。起動コマンドを再入力してください。

セッションが異常終了しました

説明: ゲートウェイと IBM システム間のリンクが失われたか，または IBM ホストが物理装置 (PU) あるいはゲートウェイに通じるラインを切断しました。

利用者の対応: リンクが失われた理由を判断してください。 IBM システムとの接続が回復した後，同じ操作を再び実行してください。

セッション確立の為のゲートウェイ資源が十分ではありません

説明: セッションを確立するための十分な資源がゲートウェイにありません。現在，ゲートウェイで実行中のセッションは使用可能な資源をすべて使用しています。

利用者の対応: 一部のセッションが終了するのを待ち，同じ操作を再実行してください。

セッションの確立に失敗

説明: TE は，IBM システムの適用業務プログラムとのセッションを確立できませんでした。この後に表示されるエラー・メッセージには，セッションを確立できなかった理由が示されます。

利用者の対応: 問題を修正して TE を再起動してください。

セッションの確立に失敗

説明: IBM システムの適用業務プログラムが，UNBIND BIND FORTHCOMING コマンドを送信しました。 TE は後続の適用業務プログラムとの間で新しいセッションを確立できませんでした。

利用者の対応: この後に表示されるエラー・メッセージを確認し，理由を判断してください。

代替のフォントを探しています

説明: 代替のフォントを探しています。

利用者の対応: なし

適用業務名が指定されていません

説明: 接続の相手となる IBM システムの適用業務プログラムの名前が指定されませんでした。

利用者の対応: 起動コマンドを再入力し，適用業務プログラム名を指定してください。

ファイルへの書き込みエラー

説明: TE が指定されたファイルに画面の内容を記録しようとした時に，エラーが発生しました。

利用者の対応: Printer 修飾子 / オプションに指定したファイルの名前を確認してください。使用したコマンド列を確認し，適切なファイル指定を使用してコマンドを再入力してください。

パスワードが長すぎます

説明: IBM パスワードの長さは 8 文字以下でなければなりません。

利用者の対応: 8 文字以下のパスワードを使用して同じ操作を再実行してください。

フォントのロードでエラーが生じました

説明: TE によって使用されるフォントのうちのいくつかがありません。

利用者の対応: TE の使用するすべてのフォントが，X サーバまたは X クライアントにインストールおよびロードされていることを確認してください。

不当なスクリーンサイズが要求されました
説明: サポートしていないスクリーン・サイズを指定したログモードを使用しようとしました。
利用者の対応: 正しいログモードを使用してください。

変換テーブルのロードに失敗しました
説明: TE は指定されたファイルから変換テーブルを読み込むことができませんでした。
利用者の対応: 補助メッセージを確認し，変換テーブルをロードできなかった理由を判断してください。

ユーザによるデータの指定が多すぎます
説明: 利用者が指定できる利用者・データは 128 バイト以下です。
利用者の対応: 128 バイト以下の利用者・データを使用して同じ操作を再実行してください。

ログオン・モード名が長すぎます
説明: ログオン・モード名の長さは 8 文字以下でなければなりません。
利用者の対応: 8 文字以下の名前を使用して同じ操作を再実行してください。

ユーザ名が長すぎます
説明: 利用者名の長さは 8 文字以下でなければなりません。
利用者の対応: 8 文字以下の名前を使用して同じ操作を再び行なってください。

C.2 ファイル転送メッセージ

この節では，ファイル転送の操作中に出力されるメッセージを説明します。

TRANS00 ファイル転送中にエラーが発生しました
ファイル転送を中止します
説明: ファイル転送プログラムが何らかの CICS のエラーを検出しました。
対処方法: なし。 CICS 側のエラーメッセージを解析してください。

TRANS01 ファイル転送コマンドを開始します
説明: 入力されたファイル転送コマンドの処理が開始されるとこのメッセージが表示されます。
対処方法: このメッセージはエラーメッセージではありません。 TRANS02 のメッセージが表示されるまで待ちます。

TRANS02 転送されているファイルの転送バイト数は= ==> XXXX
説明: 転送されているファイルの転送済みバイト数が，更新されながら表示され，転送が完了すると TRANS03 のメッセージが表示されます。
対処方法: このメッセージはエラーメッセージではありません。 TRANS03 のメッセージが表示されるまで待ちます。

TRANS03 ファイル転送が完了しました

説明: SEND/RECEIVE コマンドで指定したファイル転送が完了しました

対処方法: なし

TRANS04 ファイル転送が完了しました，分割されたレコードがあります

説明: CRLF オプションを指定して転送されたファイルの一部に，論理レコード長より長いレコードがあり（ホスト側が CICS の場合は，長さが 32767 バイトを越えるレコードがあり），それらは複数のレコードに分割されました。 SEND コマンドで JISCII オプションを指定すると， SO/SI が挿入されレコードが長くなることがありますので，論理レコード長は余裕を持って指定してください。

JISCII オプションを指定して SEND した結果，レコードが分割されると，漢字フィールドが分割されることがあります。このような場合には， SEND したファイルを RECEIVE しても元に戻りませんので，より大きなレコード長を指定して，再度転送を要求してください。（ホスト側が CICS の場合は）行の区切りのないファイルを転送するときに CRLF オプションを指定したと考えられます。

対処方法: 説明の記述を参照してください。

TRANS05 ローカル・ファイルの指定が無効です。ファイル転送を中止します。

説明: ディレクトリ，ファイル名など DEC システムのファイルの指定誤りです。

対処方法: 入力したファイル名が正しいかどうか調べてください。

TRANS06 コマンドの指定が不完全です。ファイル転送を中止します。

説明: SEND コマンドまたは RECEIVE コマンドのパラメータが指定されていません。形式に誤りがあります。

対処方法: パラメータを指定して，再度，転送要求をしてください。

TRANS08 コマンド転送エラー。ファイル転送を中止します。

説明: プログラム・エラーが発生しているため，ファイル転送ができないことを通知するメッセージです。

対処方法: 3270 画面に切り替えて，実行中のジョブがないことおよびキー入力可能であることを確認した後，再度転送を行ってください。さらに同じメッセージが表示される場合は，ホスト・システムの状態およびファイル転送支援プログラム (APVUFILE) が導入されていることを確認してください。

TRANS11 ホストとの接続が切れました。ファイル転送を中止します。

説明: ファイル転送中断キーを押したか，ホスト・システムから一定時間内に応答がなかった場合に表示されます。

対処方法: ファイル転送中断キーを押した場合は， 3270 画面に切り替えてホスト・システムの状態をチェックしてください。また，中断キーを押した場合には，必ず 3270 画面に切り替えて ENTER キーを押し，ホスト・システムのファイル転送支援プログラム (APVUFILE) を終了させててください。

ホストからの応答が一定時間内に送られなかった場合， XFER キーで 3270 画面に切り替えて，ホスト・システムの状態を確認してください。

以下に，ホストシステムが「MVS/TSO」の場合と，「CICS」の場合に分けて対処方法を説明します。

1. ホスト側が MVS/TSO の場合

- 3270 画面に TRANS41 のメッセージが表示されている場合

  ログオン時のセッション・パラメータが間違っているので，正しいログオン・モードを指定して再度ログオンし転送を要求してください。または，ホスト・システムの管理担当者に連絡してください。

- 3270 画面に COMMAND xxxxxxxx NOT FOUND が表示されている場合

  ホスト側でファイル転送支援プログラムが使用可能になっていないか， DEC システム側から間違ったコマンドを送っています。ホスト・システムの管理担当者に連絡してください。

- 3270 画面に READY が表示されている場合

  3270 画面が一杯になっているか，他の原因により『***』が表示されているときにファイル転送を要求したと考えられます。再度転送を要求してください。

- 3270 画面にオプションの誤りを示すメッセージや他の端末からのメッセージとともに『***』が表示されている場合

  ENTER キーを押して READY 状態にします。 READY 状態にならない場合， PA1 キーを押してファイル転送支援プログラムを終了させ，READY 状態にします。その後，エラー・メッセージが表示されている場合は，メッセージの対策をとってから再度転送を要求してください。また，何のメッセージも表示されていない場合は，ホスト・システムが稼動していること，およびホスト・システムと正しく接続されていることを確認してください。

  ENTER キーを押して READY 状態になった場合，または PA1 キーを押してファイル転送支援プログラムを終了させ READY 状態になった場合，ホストと通信回線は正常と考えられます。このとき 3270 画面にメッセージがでることがありますが，無意味なこともあります。

  ホストおよび回線ともに正常である場合，ホストの応答が遅いためにファイル転送ユーティリティがタイムアウトを検知した可能性があります。この場合は，ファイル転送モードで

SET TIMER=nnnn

と入力することにより，制限時間を変更できます。 nnnn は 1 ~ 7281 までの数字で，単位は秒です。 (省略時の値は 60 秒です) 。タイムアウトの制限時間を変更した後，再度転送を要求してください。

2. ホスト側が CICS の場合

- 3270 画面に TRANS41 のメッセージが表示されている場合

  端末管理テーブルでの DEC システムの端末定義が誤っています。ホスト・システムの管理担当者に連絡してください。

- 3270 画面に INVALID TRANSACTION IDENTIFICATION が表示されている場合

  ホスト側でファイル転送支援プログラムが使用可能になっていないか， DEC システム側から誤ったコマンドを送っています。ホスト・システムの管理担当者に連絡してください。

- 3270 画面に何も表示されていない場合

  ホストが稼動していること，およびホストと DEC システムが正しく接続されていることを確認してください。ホストおよび回線ともに正常である場合，ホストの応答が遅いためにファイル転送ユーティリティがタイムアウトを検知した可能性があります。トランザクションが入力可能な状態にするために ENTER キーを押してください。このとき， 3270 画面に TRANS47 のメッセージが表示され，ファイル転送支援プログラムが ATNI アベンドとなります。ホストの応答が遅い場合は，ファイル転送モードで

  SET TIMER=nnnn

  と入力することにより，制限時間を変更できます。 nnnn は 1 ~ 7281 までの数字で，単位は秒です。 (省略時の値は 60 秒です) 。タイムアウトの制限時間を変更した後，再度転送を要求してください。

TRANS12 書き込みエラーです
ファイル転送を中止します
説明: ディスクにアクセスしたときにエラーが発生しています。
対処方法: 再度転送を行ってみてください。同じメッセージが表示される場合は，ディスクをチェックするよう日本 DEC 社にご連絡ください。

TRANS13 ホストへのファイル転送中にエラーが発生しました
ファイル転送を中止します
説明: 正しくない制御データがホストに送られたか，ファイル転送の中断キーを押したか 3270 画面で ENTER キーを押した場合にでることがあります。キーの操作で出た場合は，ファイル転送をもう一度やり直してください。
対処方法: 3270 画面に切り替えて，ホストが MVS/TSO の場合は TSO コマンド (TIME など) を入力し，応答が正しく表示されるかどうかを確認してください。正しく表示されない場合は，ホスト・システムの管理担当者に連絡してください。正しく表示される場合は，ファイル転送モードに切り替えて再度転送を要求してください。同じメッセージが表示される場合は，ホスト・システムの管理担当者に連絡してください。

TRANS14 ホストからのファイル転送中にエラーが発生しました
ファイル転送を中止します
説明: 正しくない制御データがホストに送られたか，ファイル転送の中断キーを押したか 3270 画面で ENTER キーを押した場合にでることがあります。キーの操作で出た場合は，ファイル転送をもう一度やり直してください。
対処方法: 3270 画面に切り替えて，ホストが MVS/TSO の場合は TSO コマンド (TIME など) を入力し，応答が正しく表示されるかどうかを確認してください。正しく表示されない場合は，ホスト・システムの管理担当者に連絡してください。正しく表示される場合は，ファイル転送モードに切り替えて再度転送を要求してください。同じメッセージが表示される場合は，ホスト・システムの管理担当者に連絡してください。

TRANS15 ホスト側の記憶域が不足です
ファイル転送を中止します
説明: ホストが CICS の場合，現在実行されているトランザクションが多すぎるか， CICS 実行のための記憶域が不十分です。
対処方法: ホストが CICS の場合は，実行しているトランザクションが減少するのを待って，再度転送を要求してください。または， CICS 実行のために割り当てる記憶域を増やし CICS を実行してください。また，レコード長が長いとき (例:32767) レコード長を短くすると必要な記憶容量が減少します。

TRANS16 誤ったコマンドが 5550 からホストへ送られました
ファイル転送を中止します
説明: SEND/RECEIVE コマンドが，無効なパラメータを転送しました。
対処方法: 再度転送を要求してください。同じメッセージが表示される場合は，ホスト・システムの管理担当者に連絡してください。

TRANS17 データ・セット名が指定されていない，または正しくありません
ファイル転送を中止します
説明: 以下の原因が考えられます。

- データ・セット名の指定がない。
- データ・セット名の形式が誤っている。
- 指定された名前のデータ・セットが存在しない。
- 区分編成データ・セットでメンバー名の指定がない。
- 区分編成データ・セットで指定された名前のメンバー名がない。
- データ・セットの編成が順次編成でもは区分編成でもない。
- データ・セットがオープンできない。
- レコード長が固定長，可変長，不定形式のいずれでもない。
- 指定したデータ・セットは他のユーザに使用されている。

3270 画面に原因を示すメッセージが表示される場合があるので， 3270 画面のメッセージも確認してください。
対処方法: データ・セット名正しく指定して，再度転送を要求してください。

TRANS18 オプションの指定が正しくありません，ファイル転送を中止します
説明: なし
対処方法: オプションを正しく指定して，再度転送を要求してください。

TRANS19 ホストのデータ・セットの入出力中にエラーが発生しました
ファイル転送を中止します
説明: ホストのデータ・セットの入出力中にエラーが発生しました。ホストのデータ・セットの容量不足の可能性があります。
対処方法: 3270 モードの画面に表示されているメッセージが原因を示しています。

TRANS25 キーボード入力禁止中です。ファイル転送を中止します。
説明: 3270 画面のキーボードがロックされています。
対処方法: キーボードのロックが解除されるのを待って，再度転送を行ってください。キーボードのロックが解除されない場合は，ホスト・システムが正しく稼動していること及びファイル転送支援プログラム (APVUFILE) が導入されていることを確認してください。

TRANS26 回復不能なシステム・エラーです，ファイル転送を中止します
説明: プログラム・エラーです。
対処方法: ホスト・システムの状況を確認し，再度転送を要求してください。

TRANS28 オプション XXXXXXXX は正しくありません，ファイル転送を中止します
説明: ファイル転送コマンドのオプション指定が正しくありません。
XXXXXXXX というオプションはありません。
対処方法: 正しいオプションを指定して，再度転送を要求してください。

TRANS29 オプション XXXXXXXX は，RECEIVE コマンドでは指定できません
ファイル転送を中止します
説明: ファイル転送コマンドのオプション指定が正しくありません。
LRECL,RECFM は RECEIVE コマンドでは指定できません。
対処方法: 正しいオプションを指定して，再度転送を要求してください。

TRANS30 オプション XXXXXXXX は，APPEND と同時には指定できません
ファイル転送を中止します
説明: ファイル転送コマンドのオプション指定が正しくありません。
LRECL,RECFM は APPEND コマンドとは同時には指定できません。
対処方法: 正しいオプションを指定して，再度転送を要求してください。

TRANS31 SPACE の指定がなく TRACKS,CYLINDERS,AVBLOCK が指定されました
ファイル転送を中止します
説明: ファイル転送コマンドのオプション指定が正しくありません。
対処方法: 正しいオプションを指定して，再度転送を要求してください。

TRANS33 TRACKS,CYLINDERS,AVBLOCK はいずれか 1 つだけ指定できます
ファイル転送を中止します
説明: ファイル転送コマンドのオプション指定が正しくありません。
対処方法: 正しいオプションを指定して，再度転送を要求してください。

TRANS42 オプション XXXXXXXX が 2 回指定されました
ファイル転送を中止します
説明: RECFM,LRECL オプションは 1 回しか指定できません。
対処方法: 正しいオプションを指定して，再度転送を要求してください。

TRANS43 オプション XXXXXXXX の値が正しくありません
ファイル転送中止します
説明: ファイル転送コマンドのオプション指定が正しくありません。オプション XXXXXXXX の値が間違っています。
対処方法: 正しいオプションを指定して，再度転送を要求してください。

TRANS44 ファイル・モードの XXXXXXXX は正しくありません
ファイル転送を中止します
説明: ファイル転送コマンドのオプションの指定が正しくありません。

- ファイル名の指定でファイル・モードの次に XXXXXXXX が指定されています。
- 左かっこ『(』がありません。

対処方法: 正しいオプションを指定して，再度転送を要求してください。

TRANS45 ホストの一時記憶への書き込み中にエラーが発生しました
ファイル転送を中止します
説明: なし
対処方法: 一時記憶を調べてください。

TRANS46 ホストの一時記憶への読み取り中にエラーが発生しました
ファイル転送を中止します
説明: なし
対処方法: 一時記憶を調べてください。ユーザ出口ルーチンで，正しい一時記憶の待ち行列の名前を指定していることを確認してください。

C.3 その他のメッセージ

ローカルファイルがオープンできません
説明: なし
対処方法: DEC システム側のファイル名，プロテクション等をチェックしてください。

RLENGTH オプションの指定が不正です
RLENGTH の設定は 1 ~ 32767(バイト) の間で行ってください
説明: なし
対処方法: 1 ~ 32767(バイト) の間にて設定し直してください。

RLENGTH オプションの指定が不正です
ファイル送信時に RLENGTH オプションは指定できません
説明: SEND コマンドにて RLENGTH オプションが指定されています。
対処方法: RLENGTH オプション無しで再度コマンドを入力してください。

RLENGTH オプションの指定が不正です
CRLF と RLENGTH は同時に指定できません
説明: なし
対処方法: RLENGTH または CRLF のどちらか一方のみの指定でコマンドを再入力してください。

C.4 回復不可能エラー・メッセージ

この後に示す回復不可能エラー・メッセージが表示された場合には，TE が異常な動作をしていることを示します。適切な処置を行うには，この種類のエラー・メッセージが表示された時に，画面に表示されているすべてのエラー・メッセージを記録してください。そして，そのエラー・メッセージをシステム管理者に提出してください。システム管理者はどのような処置が必要であるかを判断できます。システム管理者は各相互接続システムに関する「Problem Determination Guide」を参照してください。この節のメッセージはアルファベット順に示されています。

Access routine function aborted

ASTs are disabled or an AST routine is currently in progress

ATTR_VEC is too short, it must be at least byte-number bytes long

Buffer must be at least byte-number + 1 bytes long

Buffer offset in FDB is not the start of field

Call not allowed while a receive is outstanding

A cannot occur state was reached in FSM

CHAR_VEC is too short, it must be at least !UL bytes long

Disconnect failed

Error reading parse table file

Expected %X'nnn'!, received %X'nnn'

Failed to acknowledge data

Failed to allocate memory for a buffer

Failed to allocate memory for a context block

Failed to assign a DECnet channel

Failed to assign an I/O channel to _S

Failed to build DECnet Network Connect Block

Failed to copy BIND image into caller's buffer

Failed to free memory

Failed to receive a screen of data

Failed to receive 3270 data stream

Failed to transmit 3270 data stream

Failed to transmit a screen of data

Failed to transmit the requested SNA command

Failed to write field

A fatal bugcheck error has occurred

Fatal Curses error

Fatal DECnet error

Fatal error in action routine

Fatal parsing error

FIELD_VEC is too short, it must be at least !UL bytes long

FSM state reached contained unrecognized data

Function not valid with port in current state

Gateway detected an error in the Gateway Access Routines

Gateway server task terminated

GAP protocol problem

GAP violation detected by access routine

GAP violation detected by Gateway

IBM application detected a protocol error, sense code IBM-sense-code

IBM application name was not specified

Illegal connection type

Illegal mode type

Incompatible parse table version

Insufficient resources to establish session

Internal error

Internal error in Gateway access routines

Internal error in Gateway, code number/qualifier qualifier:

Internal error in Gateway node, code number, subcode number

Internal send error

Invalid CALLBACK descriptor specified

Invalid data received, rejected with sense code %X' IBM-sense-code'

Invalid SESSION_ID specified

Lock screen failed

Maximum number of sessions already active

MU generated a receive check, sense code

MU generated a send check, sense code

Needed a value in range %X'nn' to %X'nn', received %X'nn'

Negative response received, sense code %X'nn'

A negative response was received from the PLU

Network node is not accepting connects

No response is pending

No sscp session

No such socket

Not in field mode

Not your turn to receive data

Not your turn to send

Not your turn to transmit data

Parameter error

Parameter GWY-NODE is invalid

Parse table buffer too small

Parse table file had illegal contents

PLU violated SNA protocol rules, sense code %X'!XW'

Port in unknown state

Port in wrong state

Port not assigned

Previous TRANSMIT_SCREEN/RECEIVE_SCREEN has not completed

Request aborted due to receipt of CLEAR command

RU converted to exception request

SCRBLK length is incorrect

SIGNAL message cannot be larger than nn bytes

SNA$DEF_GATEWAY is undefined and GWY-NODE was not specified

SNA$DEF_NUMREC is incorrectly defined

SNA protocol error

An SNA protocol error has been detected

_sna3270_set_owner request failed

The specified socket is currently in use

Unable to obtain lucb

Unable to obtain mucb

Unable to obtain scb

Unacceptable BIND image, byte !UL, bit !UL!+, field name !AC
/IDENT=UNABINIMA

Unacceptable BIND image, byte !UL, bits !UL-!UL, field name !AC
/IDENT=UNABINIMA

Unacceptable BIND image, byte !UL!2(+), field name !AC /IDENT=UNABINIMA

UNBIND of type unbind-type received from IBM application

Unexpected result from Data Flow Control Interface

D

TE の修飾子

この章では，TE を起動するために使用できる修飾子について説明します。コマンド行を使用している場合は，コマンドまたはノード名情報の後にコマンド修飾子を指定できます。コマンド行に修飾子を入力する時の形式については『第 1.1.1 項, コマンド行からの起動』を参照してください。

D.1 Access Name

ゲートウェイのアクセス名 (Access Name) テーブル中にある，IBM システム上の適用業務プログラムに関するアクセス情報のエントリ名を指定します。アクセス名は 1 ~ 16 文字の英数字文字列であり，使用できる文字は A ~ Z，0 ~ 9，ピリオド (.)，ドル記号 ($)，アットマーク (@)，およびシャープ記号 (#) です。

Access Name は次の修飾子の値として使用できます。

Application Name
Data
Logon Mode
PU
Session Address

Access Name と共に他の修飾子を指定すると，アクセス名テーブル中に存在する値は無効となり，明示的に指定した他の修飾子が優先されます。

例: `/ACCESS_NAME=PAYROLL`

D.2 Application Name

一次論理装置 (PLU) となる IBM システムの適用業務プログラム名を指定します。この修飾子で指定する値は，VTAM プログラマにより VTAM APPL ステートメントで IBM システム上に設定されている値と同じものでなければなりません。値は，1 ~ 8 文字の英数字文字列です。使用できる文字は A ~ Z，0 ~ 9，ピリオド (.)，ドル記号 ($)，アットマーク (@)，およびシャープ記号 (#) です。

例: `/APPLICATION_NAME=TSS`

D.3 Authorization Password

機密保護されている論理装置 (LU) に対するアクセスを許可します。この修飾子を指定しなければならない場合は，登録パスワードの値についてゲートウェイ管理者にお尋ねください。この修飾子を使用できるのは，DECnet SNA ゲートウェイのバージョンが LU 機密保護機能をサポートする場合だけです。値は最大 32 文字の英数字文字列です。使用できる文字は A ~ Z，0 ~ 9，ピリオド (.)，ドル記号 ($)，アットマーク (@)，およびシャープ記号 (#) です。

例: `/AUTHORIZATION_PASSWORD=645312`

D.4 Auto Logon

Auto Logon 修飾子は，TE セッション開始時に自動コマンド を実行させるために使用します。ファイル名には，自動コ マンドファイルを指定します。

Auto Logon 機能を使用するためには，実行するコマンド列 が記述してある自動コマンドファイルを，あらかじめ用意 します。

自動コマンドについての詳しい説明は付録 H を参照して下さい。

例: `/AUTO_LOGON=MYLOGON.CMD`

D.5 Basic Character

基本文字モードを指定します。 KATAKANA を指定するとカナ文字になり，ALPHABET を指定すると英小文字となります。基本文字モードに対し，代替文字モードがあります。代替文字モードには，基本文字モードで指定されなかった方の文字セットが使用されます。代替文字モードは，表示および Print 機能に対してのみ有効で，入力は基本文字モードが使用されます。省略時の解釈値はカナ文字です。

例: `/BASIC_CHARACTER=KATAKANA`

D.6 Character Set

基本文字モードで指定された文字セットにおける，JIS8 ビットから EBCDIC への変換，および EBCDIC から JIS8 ビットへの変換を登録した，変換テーブルのファイル名を指定します。

JIS8 ビットから EBCDIC への変換テーブルは，JIS8 ビット文字を IBM システムの適用業務プログラムが使用する EBCDIC 文字に変換します。 EBCDIC から JIS8 ビットへの変換テーブルは，IBM システムの適用業務プログラムが生成した EBCDIC 文字を適切な JIS8 ビット文字に戻します。

例: `/CHARACTER_SET=NEWTRAN.TBL`

Character Set を指定しない場合は，基本文字モードの設定によって省略時ファイルを使用します。

- 基本文字モードが KATAKANA の場合
  省略時ファイルは，
  SYS$LIBRARY:SYS$LIBRARY:SNADWTE$DEF_KANA.TBL です。
  このファイルが使用できない場合は，TE の内部変換テーブルを使用します。
  （内部変換テーブルについては，『付録 B, 変換テーブル』を参照してください。）

- 基本文字モードが ALPHABET の場合
  省略時ファイルは，
  SYS$LIBRARY:SYS$LIBRARY:SNADWTE$DEF_ALPHA.TBL です。
  このファイルが使用できない場合は，TE の内部変換テーブルを使用します。
  （内部変換テーブルについては，『付録 B, 変換テーブル』を参照してください。）

省略時ファイルが使用可能であるにもかかわらず，TE の内部変換テーブルを使用したい時は，ORIGINAL を指定します。

例: `/CHARACTER_SET=ORIGINAL`

D.7 [No]Compress

表示画面印刷機能での空白行を削除するかどうかを指定します。 Compress の場合は，画面中の空白行は削除されて印刷されます。
No Compress の場合は，画面中の空白行はそのまま印刷されます。この修飾子を省略した場合は Compress です。

例: /NOCOMPRESS

D.8 [No]Copy Keisen

表示画面印刷機能で罫線を出力するかしないかを指定します。この修飾子は出力するファイルタイプが「テキスト」の場合のみ有効です。/COPY_KEISEN を指定した場合は、画面中の罫線はファイルもしくはプリンタに出力されます。省略した場合は/NOCOPY_KEISEN になります。

例: /NOCOPY_KEISEN

D.9 Data

ログオン要求の一部として IBM システムに送信するユーザ・データを指定します。データとして入力する値は，最大 110 文字の JIS8 ビット文字列です。

スペースまたはタブを使用する時には引用符 (") を使用します。

一部の IBM システム上のアプリケーションでは，ログオンの処理速度を増すために， TE 起動時に data 修飾子の値が使用されます。

例: /DATA=JOE

D.10 External

外字管理ファイルの名前を指定します。外字管理ファイルとは，IBM 選定文字，IBM ユーザ定義文字と DEC 拡張漢字セットとの対応を示す情報を含んだファイルで，jsnaknjdef ユーティリティによって作成，管理されます。ユーティリティの詳細は，本書の『付録 F, jsnaknjdef ユーティリティ』を参照してください。

例: /EXTERNAL=EXTERNAL.TBL

D.11 Graphic Character Cell

グラフィック表示機能において，IBM システムで定義される文字フォントの解像度を指定します。 16x16 ドット・システムを指定する場合は 16, 24x24 ドット・システムを指定する場合は 24 を指定して下さい。

省略時の設定は，24x24 ドット・システムです。

例: /GRAPHIC_CHARACTER_CELL=16

D.12 Interface

起動する TE のタイプを指定します。値として DECWINDOWS を指定すると，本製品が起動されます。省略値は CHARACTER_CELL です。 CHARACTER_CELL を指定した場合あるいはこの修飾子を省略した場合は，文字セル型ターミナル・エミュレータを起動します (インストールしている場合)。文字セル型ターミナル・エミュレータ (たとえば日本語 DECnet SNA 3270 ターミナル・エミュレータ V1.5) は，VT382 日本語端末などの文字セル端末で動作します。

例: /INTERFACE=DECWINDOWS

D.13 Key Definition

キー定義を登録したバイナリ・ファイルを指定します。

例: /KEY_DEFINITION=NEW_KEYS.BIN

D.14 [No]Locking Shift

ファイル転送時のファイルへの出力時，あるいは PRINT キーによるローカル・プリント時のプリンタまたはファイルへの出力データ中にカナ・コードがある場合，カナ・モードへの切り替えコードとしてシングル・シフト (Single Shift)・コードを出力するか，ロッキング・シフト (Locking Shift)・コードを出力するかを指定します。No Locking Shift が省略値です。

- No Locking Shift を指定した場合
  カナ・モードへの切り替えコードとしてシングル・シフト・コードを出力します。
- Locking Shift を指定した場合
  カナ・モードへの切り替えコードとしてロッキング・シフト・コードを出力します。

例: /LOCKING_SHIFT

D.15 Logon Mode

IBM システム上に，VTAM MODEENT マクロで TE 用に定義されたログオン・モード・エントリ名を指定してください。エントリ名は 1 ~ 8 文字の英数字文字列です。使用できる文字は A ~ Z，0 ~ 9，ピリオド (.)，ドル記号 ($)，アットマーク (@)，およびシャープ記号 (#) です。

例: /LOGON_MODE=T3279M3

D.16 [No]Numeric Lock Override

TE 起動時に，NumOvr 機能を有効にする場合に指定します。 NumOvr 機能が有効の場合には，数字フィールドへの数字以外の文字の入力が可能となります。 NumOvr 機能については，『第 A.2.6.15 項, NumOvr』を参照してください。省略時の設定は No NumOvr です。

例: /NUMOVER

D.17 Printer

Print 機能 (『第 1.2.5.1 項, 省略時印刷属性での印刷』を参照) を使用する時に，画面の内容を記録するファイルまたはローカル・プリンタの名前を指定します。省略時の設定は， OpenVMS の場合は SNATPRINT.LIS， ULTRIX の場合は snatprint.lis です。

「ファイル」メニューから「印刷...」を選択すると，省略時の設定を変更できます。

例: `/PRINTER=[JONES]PRINTFIL.LIS`

D.18 PU

ゲートウェイから IBM システムへの，特定の物理リンクの名前を指定します。 PU の適切な値については，ゲートウェイ管理者にお尋ねください。

例: `/PU=SNA-1`

D.19 Session Address

IBM システムと通信するために使用されるセッション・アドレスを指定します。セッション・アドレスに指定される値は NCP LU マクロの LOCADDR オペランドで設定されていなければなりません。値は 1 ~ 255 の 10 進数です。また 0 を指定すれば，ゲートウェイが使用可能なセッション・アドレスを自動的に選択します。

例: `/SESSION_ADDRESS=42`

D.20 [No]Type Ahead

Type Ahead を指定するとキー先読み機能が有効となります。キー先読み機能が有効になると，キーボードがロックした状態でもキー入力が最大 128 文字まで可能です。No Type Ahead の場合は，キー先読み機能は無効です。キーボードがロックした状態でのキー入力は受け付けられません。省略時の設定は No Type Ahead です。

例: `/TYPE_AHEAD`

D.21 Terminal Type

エミュレートするターミナルのタイプを指定します。 J3270 と JPC3270 では，ステータス・ラインの表示形式が異なります。詳細は，第 1.2.1.2 項を参照してください。省略値は JPC3270 です。

OpenVMS 例: `/TERMINAL_TYPE=JPC3270`

D.22 [No]Wait

USS ログオン (不定様式ログオン) を行う時は， Wait を指定します。省略時の設定は No Wait です。他の修飾子の場合と異なり， Wait には値がありません。 Wait 修飾子を使用する場合は，次の修飾子の値は指定できません。

Application Name
Data
Logon Mode

例: `/WAIT`

D.23 Width Switching

入力する文字幅の方法を指定します。

- NARROW を指定した場合

  カーソルが，漢字フィールドにある場合は全角入力モードになり，その他の場合は半角入力モードになります。

- CURRENT を指定した場合

  カーソルが，全角文字上にある場合は全角入力モードになり，半角文字上にある場合は半角入力モードになります。

- WIDE を指定した場合

  カーソルが，漢字フィールドまたは漢字入力可能英数カナフィールドにある場合は，全角入力モードになり，その他の場合は半角入力モードになります。

例: `/WIDTH_SWITCHING=CURRENT`

D.24 Xfer User Macro

ファイル転送におけるユーザ定義マクロの定義を登録したファイルを指定します。ファイル転送におけるユーザ定義マクロについては『第 1.5.3 項, ユーザ定義マクロ機能を使用したファイル転送』を参照してください。

例: /XFER_USER_MACRO=MY_MACRO_DEF.DAT

E

IBM 選定文字および IBM ユーザ定義文字の取り扱い

IBM 選定文字および IBM ユーザ定義文字は，以下の操作手順により取り扱うことができます。

E.1 操作手順

1. フォント・エディタ (FEDIT， FDESIGN) を使用して，ユーザ定義文字フォントを作成します。 TE で使用しているフォントのフォント・サイズは 14 × 14(縮小フォント)， 16 × 18(標準フォント)， 24 × 24(拡大フォント)， 18 × 21(DWTE フォント) ですので，それに合わせてフォントを作成してください。

   フォント・エディタ (FEDIT， FDESIGN) でユーザ定義文字フォントを作成する方法については，「日本語 OpenVMS 漢字フォント・ユーティリティ利用者の手引き」を参照してください。

2. 日本語 DECwindows フォント・ファイル変換ユーティリティ (FONTCONVERTER) あるいは DWTE フォントの場合は日本語 DW 3270 TE 用フォント・ファイル変換ユーティリティ (JSNADWTE$FONTCONVERTER) を使用して，1 で作成したユーザ定義文字フォント・ファイルを DECwindows 形式のフォント・ファイルに変換します。

   日本語 DECwindows フォント変換ユーティリティについては，「日本語 OpenVMS DECwindows 日本語拡張機能説明書」を参照してください。

3. 2 で作成した DECwindows 形式のフォント・ファイルを，フォント・ファイルのディレクトリにコピーします。

```
JDECW_SCREEN_KANJI11_14_14.DECW$FONT (縮小フォント)
JDECW_SCREEN_KANJI11_16_18.DECW$FONT (標準フォント)
JDECW_SCREEN_KANJI11_24_24.DECW$FONT (拡大フォント)

JSNADWTE_SCREEN_KANJI11_18_21.DECW$FONT (DWTEフォント)
```

   この DECwindows 形式のフォント・ファイルを，ユーザ定義文字を使用するワークステーションの以下のディレクトリにコピーします。

```
    縮小 / 標準 / 拡大フォントの場合：
SYS$COMMON:[SYSFONT.DECW.75DPI] または
SYS$COMMON:[SYSFONT.DECW.100DPI]

    DWTEフォントの場合：
SYS$COMMON:[SYSFONT.DECW.USER_75DPI] または
SYS$COMMON:[SYSFONT.DECW.USER_100DPI]
```

4. ワークステーションのサーバを再スタートします。

   DCL コマンドで次のように入力して，ワークステーションのサーバを再スタートします。

```
$ @SYS$MANAGER:DECW$STARTUP RESTART
```

5. jsnaknjdef ユーティリティによって外字管理ファイルを作成します。 jsnaknjdef ユーティリティについては，本書の『付録 F, jsnaknjdef ユーティリティ』を参照してください。
6. TE を起動する際に，/EXTERNAL 修飾子で 5 で作成した外字管理ファイルを指定します。

E.1.1 操作例

以下に DWTE フォントでの操作例を示します。（縮小 / 標準 / 拡大フォントに関しては，日本語 DECwindows 標準のフォント変換ユーティリティを使用します。日本語 DECwindows フォント変換ユーティリティについては，「日本語 OpenVMS DECwindows 日本語拡張機能説明書」を参照してください。）

実行終了まで数時間かかりますのでご注意ください。

1. 日本語 DW 3270 TE 用フォント・ファイル変換ユーティリティを起動します。

```
$RUN SYS$SYSTEN:JSNADWTE$FONTCONVERTER.EXE
```

2. 「フォントのサイズを入力してください。」というメッセージのあとに，フォント・エディタで作成したユーザ定義文字フォントのフォント・サイズを指定します。

```
フォントのサイズを入力してください。[24] : 40
```

3. 「display 名を入力してください。」というメッセージのあとに，日本語 DW 3270 TE 用のフォント・ファイルがあるワークステーションのサーバの display 名を指定します。

```
display 名を入力してください。
          <hostname::number.screen> : xxxx::0.0
```

4. 「ユーザ定義フォントのファイル名を入力してください。」というメッセージのあとに，ファイル名を指定します。

```
ユーザ定義フォントのファイル名を入力してください。 : TEST.FNT
```

5. 設定値を確認します。

```
=== 設定値 ===
フォントサイズ   : 40
display          : xxxx::0.0
ユーザ定義フォント  : TEST.FNT
フォント名
( -JSNADWTE-Screen-Medium-R-Normal--21-210-75-75
                                  -M-180-JIS0208-Kanji11)

  フォント・ファイル変換ユーティリティを実行しますか？(YES/NO)：
```

設定値に間違いがなければ YES を入力してください。次のメッセージが表示されフォント・ファイルの変換が実行されます。

```
  実行終了まで数時間かかります。
```

設定値に間違いがある場合は NO と入力してください。パラメータの再設定となります。

注意

フォントは，日本語 DW 370 TE 用フォント・ファイル変換ユーティリティを起動する際のカレント・ディレクトリに作成されます。

F

jsnaknjdef ユーティリティ

jsnaknjdef ユーティリティは、 OpenVMS ユーザが IBM 選定文字および IBM ユーザ定義文字と DEC 拡張漢字セットのユーザ定義領域の文字との対応を設定、管理するためのソフトウェアです。このプログラムは、 jsnaknjdef コマンドにより起動されます。

F.1 起動方法

次のような OpenVMS のオペレーションにより起動されます。

1. フォーリン・コマンドの定義

```
$ jsnaknjdef :== $jsnaknjdef
```

2. jsnaknjdef コマンドの起動

```
$ jsnaknjdef
```

3. jsnaknjdef コマンドのプロンプト

```
jsnaknjdef>
```

F.2 jsnaknjdef コマンド形式

jsnaknjdef コマンドの形式は次のとおりです。

jsnaknjdef	
(形式)	jsnaknjdef
(コマンド・パラメータ)	外字管理ファイル名 (省略可)
(コマンド・オプション)	なし

F.3 jsnaknjdef ユーティリティ内のコマンド形式

jsnaknjdef>プロンプトに対し、ユーザは次のコマンドを入力することができます。

- use
- list
- define
- undefine
- help
- exit
- quit

以下にこれらのコマンド形式について説明します。

F.3.1 use コマンド

use コマンドの形式は次のとおりです。

use

use コマンドにより指定されたファイルに、外字管理情報を出力します。

(形式)

use 外字管理ファイル名

(コマンド・パラメータ)	(省略値)
外字管理ファイル名	なし

既存のファイルがあればそのファイルを使用対象とし、なければ新しい外字管理ファイルを作成します。外字管理ファイルは、 IBM 選定文字および IBM ユーザ定義文字が、 DEC 拡張漢字セットのどの部分と対応付けるかの情報を保存するファイルです。

注意

use コマンドにより選択された外字管理ファイルは、 jsnaknjdef ユーティリティ内で次に use コマンドを使用するまで、 define, list, undefine コマンドの対象ファイルとなります。

F.3.2 list コマンド

list コマンドの形式は次のとおりです。

---

list

use コマンドにより指定された外字管理ファイルの内容を output で指定したファイルに出力します。

(形式)

list

(コマンド・オプション)	(省略値)
output ファイル名	標準出力

(コマンド・オプション)

output ファイル名

このオプションが省略された場合は標準出力に出力します。

図 F–1　list 表示例– 1

```
jsnaknjdef> use extern.tbl
jsnaknjdef> list

                  List of the DEC-IBM extended Kanji
    File: extern.tbl

    DEC Extended Kanji  IBM Kanji        DEC Extended Kanji  IBM Kanji

            1           External                17          User 6D
            2           External                18          User 6D
            3           External                19          User 6E
            4           External                20          User 6E
            5           External                21          User 6F
            6           External                22          User 6F
            7           User 69                 23          User 70
            8           User 69                 24          User 70
            9           Undefined               25          User 71
           10           Undefined               26          User 71
           11           User 6A                 27          User 72
           12           User 6A                 28          User 72
           13           User 6B                 29          Undefined
           14           User 6B                 30          Undefined
           15           User 6C                 31          Undefined
           16           User 6C                         (END of list)

    Note : DEC Ku No. is decimal. IBM Ku No. is Hexa-decimal.
```

表中の "External"は IBM 選定文字を表し、 "User xx"は IBM ユーザ定義文字領域の第 xx 区を表しています。

F.3.3 define コマンド

define コマンドの形式は次のとおりです。

---

define

use コマンドにより指定された外字管理ファイルに、対応情報を書き込みます。
既存の外字管理ファイルが対象となっていた場合は、その内容を更新します。

(形式)

define

(コマンド・オプション)	(省略値)
external	なし
user IBM ユーザ定義文字領域区番号	なし
to DEC 拡張漢字セット区番号	なし

(制限)　このコマンドを実行するには OPER 特権が必要です。

(コマンド・オプション)

external

IBM 選定文字 (4,370 文字) について定義する場合に指定します。 external と user とは同時には指定できません。

user IBM ユーザ定義文字領域区番号

IBM ユーザ定義文字領域の文字について定義する場合に指定します。指定する IBM ユーザ定義文字領域の区番号は、 69 ~ 7F までを 16 進数で指定します。 external と user とは同時には指定できません。

注意

DEC 拡張文字セットの区の、最初と最後の文字位置に割り当てられる位置にある IBM ユーザ自由領域の文字は使用できません。

to

- external が指定されている場合

  1 ~ 26 までの区番号を 10 進数で指定します。指定された区番号から連続 6 区間に、 IBM 選定文字が対応付けられます。例えば to 21 を指定すると、 DEC 漢字セットの 21 ~ 26 区に IBM 選定文字が対応付けられます。

- user が指定されている場合

  1 ~ 29 までの区番号を 10 進数で指定します。指定された区番号から連続 2 区間に、指定された IBM ユーザ定義文字領域の文字が対応付けられます。例えば user 69 to 1 を指定すると、 IBM 漢字セットの 69 区が DEC 拡張漢字セットの 1, 2 区に対応付けられます。

define コマンド使用例を示します。

- 新規にファイルを作成する場合

```
$ jsnaknjdef
jsnaknjdef> use mytbl.tbl
jsnaknjdef> define  external  to 21
jsnaknjdef> define  user 69  to 1
jsnaknjdef> define  user 6A  to 3
jsnaknjdef> define  user 6B  to 5
jsnaknjdef> define  user 6C  to 7
jsnaknjdef> exit
```

上記のコマンドにより新規に作成された mytbl.tbl の中には、次のような指定がされることになります。

IBM 漢字	DEC 漢字
IBM 選定文字	DEC 拡張漢字セットの第 21 区 ~ 第 26 区
IBM ユーザ定義文字の第 69 区	DEC 拡張漢字セットの第 1 区 ~ 第 2 区
IBM ユーザ定義文字の第 6A 区	DEC 拡張漢字セットの第 3 区 ~ 第 4 区
IBM ユーザ定義文字の第 6B 区	DEC 拡張漢字セットの第 5 区 ~ 第 6 区
IBM ユーザ定義文字の第 6C 区	DEC 拡張漢字セットの第 7 区 ~ 第 8 区

- 外字管理ファイルを更新する場合

```
$ jsnaknjdef
jsnaknjdef> use mytbl.tbl
jsnaknjdef> define use 69 to 9
jsnaknjdef> exit
```

上記のコマンドにより既存の mytbl.tbl は、次のように更新されることになります。

IBM 漢字	DEC 漢字
IBM 選定文字	DEC 拡張漢字セットの第 21 区 ~ 第 26 区
IBM ユーザ定義文字の第 69 区	DEC 拡張漢字セットの第 9 区 ~ 第 10 区
IBM ユーザ定義文字の第 6A 区	DEC 拡張漢字セットの第 3 区 ~ 第 4 区
IBM ユーザ定義文字の第 6B 区	DEC 拡張漢字セットの第 5 区 ~ 第 6 区
IBM ユーザ定義文字の第 6C 区	DEC 拡張漢字セットの第 7 区 ~ 第 8 区

F.3.4 undefine コマンド

undefine コマンドの形式は次のとおりです。

---

undefine

use コマンドにより指定された外字管理ファイルの対応情報をクリアします。

(形式)

undefine

(コマンド・オプション)	(省略値)
group DEC 拡張漢字セット区番号	なし
char DEC 拡張漢字セット文字コード	なし
all	なし

(制限) このコマンドを実行するには OPER 特権が必要です。
group と char を同時には指定できません。

(コマンド・オプション)

group DEC 拡張漢字セット区番号

区対応で定義されている DEC 拡張漢字セットのユーザ定義文字をクリアする場合に使用します。指定するオプションは、 DEC 拡張漢字セットの区番号を 1 ~ 31 までの 10 進で指定します。

char DEC 拡張漢字セット文字コード

文字対応で定義されている DEC 拡張漢字セットのユーザ定義文字をクリアする場合に使用します。指定するオプションは、 DEC 拡張漢字セットの文字コードを A121 ~ BF7E までの 16 進で指定します。

all

現在定義されているすべての区域を未定義にします。新たに編集し直したい場合に使用します。

注意

区対応で定義されている DEC 拡張漢字のある区内のコードを、 char でクリアすることは出来ません。また、ある DEC 拡張漢字が文字対応で定義されている場合、その文字を含んでいる区を group でクリアすることも出来ません。 group , char , all を同時に指定した場合は , 最後に指定したものが有効になります。

F.3.5 help コマンド

help コマンドの形式は次のとおりです。

help
(形式) help

F.3.6 exit コマンド

exit コマンドの形式は次のとおりです。

exit
(形式) exit

F.3.7 quit コマンド

quitコマンドにより jsnaknjdef ユーティリティを終了します。

quit コマンドの形式は次のとおりです。

exit
(形式) quit

F.4 jsnaknjdef のステータス・メッセージ

jsnaknjdef のメッセージは , *facility*=jsnaknjdef です。

この節では、コマンドの正常終了を受け入れられない可能性のある条件を示すメッセージをまとめます。メッセージはアルファベット順に示されています。

INPCVTERR, Input conversion error
説明: 入力されたコードが 10 進数ではありません。
利用者の対応: 入力コードを確認してください。

INVPARAM, Invalid parameter value specified
説明: 入力されたコードが規定された範囲を超えています。
利用者の対応: 入力コードを確認してください。

PARSEFAIL, Fatal parsing error
説明: コマンド・ラインが妥当でありません。
利用者の対応: マニュアルを参照して、正しい形式でコマンドを入力してください。

UNDEFTBL, Undefined extended Kanji management table
説明: 外字管理ファイル名が指定されていません。
利用者の対応: USE コマンドを使用して、外字管理ファイルを指定してください。

G

DEC 拡張漢字セット内の IBM 選定文字

JSNAKNJDEF ユーティリティで DEFINE/EXTERNAL コマンドを発行した際に IBM 選定文字が，どのように DEC 拡張漢字セットに割り当てられているかを以下に表で示します。

ＤＥＣ拡張漢字セット

(第 N 区)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
XX2		41B1	41B2	41B3	41B4	41B5	41B6	41B7	41B8	41B9
XX3	41F6	41F7	41F8	41F9	41FA	425F	426A	427D	427F	446D
XX4	524B	527B	5294	529E	52EB	5386	5394	5397	53C7	5644
XX5	5670	5671	5674	567B	5686	568A	5691	5694	5698	56A2
XX6	56CE	56DC	56E8	56EF	56F7	574F	5750	5756	5758	5761
XX7	578E	57A9	57AE	57BD	57C0	57DE	5860	5863	586C	5870

	A	B	C	D	E	F
XX2	41BA	41F1	41F2	41F3	41F4	41F5
XX3	446E	446F	4478	51BF	51DA	51F7
XX4	565D	5662	5665	5666	566A	566E
XX5	56A3	56A4	56A8	56B2	56B5	56C9
XX6	5763	576B	577C	5780	5787	578B
XX7	5873	5877	5882	588A	588C	

(第 N+1 区)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
XX2		58A1	58AD	58B0	58B1	58B2	58BE	58C0	58EC	58FC
XX3	5970	5978	597F	5980	5984	5987	5993	5995	5997	59C7
XX4	5A57	5A5F	5A65	5A67	5A68	5A76	5A79	5A7E	5A94	5AB5
XX5	5B97	5B98	5B99	5B9D	5BA0	5BA1	5BA4	5BA7	5BA8	5BAB
XX6	5BC7	5BC8	5BC9	5BD8	5BE3	5BEC	5BF0	5BF3	5BF9	5C5F

```
XX7  5C9B 5CA6 5CA9 5CAF 5CB9 5CBC 5CEA 5CF6 5CF9 5CFD
```

```
      A    B    C    D    E    F
XX2  58FE 5942 5944 5951 5967 5968
XX3  59CB 59D8 59E8 59F1 5A44 5A51
XX4  5ADA 5AFB 5B50 5B53 5B54 5B7E
XX5  5BAE 5BAF 5BB4 5BB6 5BB8 5BBB
XX6  5C66 5C6E 5C78 5C79 5C90 5C9A
XX7  5CFE 5D4E 5D58 5D60 5D62
```

(第 N+2 区)

```
      0    1    2    3    4    5    6    7    8    9
XX2       5D6B 5D72 5D74 5D7A 5D7F 5D80 5D8A 5D8E 5D93
XX3  5DD8 5DE3 5DEA 5DED 5DF5 5DF6 5DFB 5DFC 5DFD 5E49
XX4  5E94 5E99 5E9E 5E9F 5EA1 5EA2 5EA7 5EA8 5EAA 5EAB
XX5  5EE7 5F69 5F70 5F71 5F72 5F73 5F7A 5F8E 5FAA 5FAE
XX6  5FD9 5FDC 5FDD 5FDF 604F 6058 6059 605A 6082 60AD
XX7  6157 616E 6177 61F8 6248 625B 6267 6274 627E 628A
```

```
      A    B    C    D    E    F
XX2  5D95 5DA6 5DC1 5DCA 5DD5 5DD7
XX3  5E4B 5E5A 5E73 5E75 5E86 5E8A
XX4  5EAD 5EAE 5EBC 5EBD 5EC0 5ED1
XX5  5FB2 5FB3 5FB6 5FD1 5FD2 5FD5
XX6  60C4 60C6 60D4 60DA 60E1 60FD
XX7  629E 62A1 62A8 62B9 62BB
```

(第 N+3 区)

```
      0    1    2    3    4    5    6    7    8    9
XX2       62CE 62E2 635E 6390 63C5 63CB 63D4 63DF 63E1
XX3  647D 6485 648D 648E 64C9 6AF1 6549 6553 6564 6566
XX4  658C 658D 658F 6590 6593 6595 659B 659E 659F 65A1
XX5  65AD 65B4 65B5 65B6 65B7 65B8 65B9 65BC 65BD 65C1
XX6  65CE 65D0 65D5 65D8 65DD 65E4 65E8 65F0 65F4 65F6
```

```
XX7  6699 669E 66A2 66A3 66A4 66A5 66CB 66CC 66DD 66DF
```

```
     A    B    C    D    E    F
XX2  63ED 63EE 63EF 6445 6450 647C
XX3  6567 656B 6583 6585 6586 658A
XX4  65A3 65A5 65A6 65A8 65AB 65AC
XX5  65C3 65C5 65C6 65C8 65C9 65CC
XX6  664A 6674 6678 6679 667F 6697
XX7  66E5 66E6 66F9 6759 676B
```

(第 N+4 区)

```
     0    1    2    3    4    5    6    7    8    9
XX2       676C 678F 6791 6793 679B 679F 67B1 67E2 67E4
XX3
XX4
XX5
XX6
XX7
```

```
     A    B    C    D    E    F
XX2  67F4 67FE 6856
XX3
XX4
XX5
XX6
XX7
```

注意

第 N+5 区には，該当する IBM 選定文字は割り当てられませんが，将来のための保留領域として扱われます。

H

自動コマンドファイル

自動コマンドファイルは，JTPU などのエディタで作成します。ファイルには手動で操作したときと同じキー操作を自動コマンド用のコマンドと入力したい文字列を使って定義します。

自動コマンドファイルを作成する場合には，以下の点に注意してください。

- 自動コマンドファイルの最大レコード長は，512 バイト以内にしてください。
- 自動コマンドファイル中の定義に誤りがあった場合は，その時点で自動コマンドファイルからの読み込みは中止されます。ただし，TE 自体には影響がありませんので，継続して端末操作はできます。
- 自動コマンドファイルを実行中は，ACCNCL キーおよび EXIT キーを除いてキーボードからのキー入力はできません。
- 1 つのコマンドを複数レコードにまたがって指定しないでください。

H.1 自動コマンドファイル指定時の動作概要

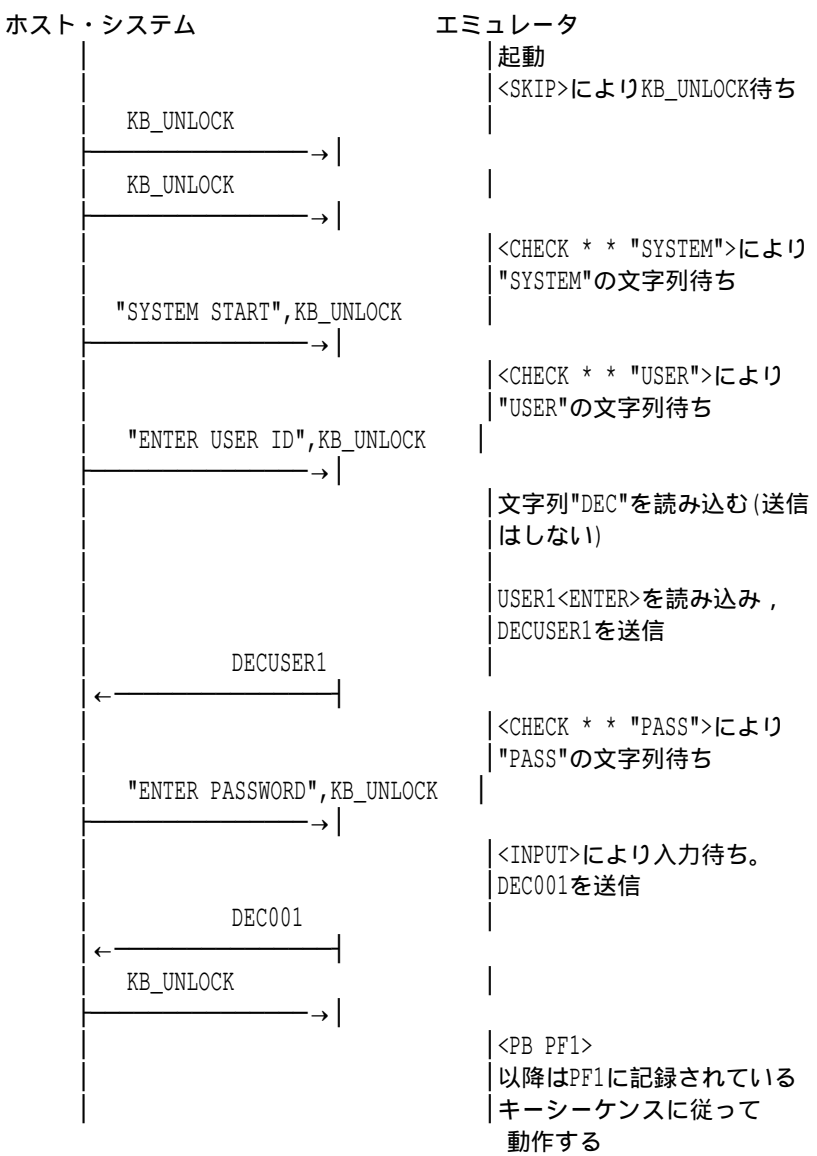
H.1.1 起動時の自動コマンドファイル指定

起動時に/AUTO_LOGON 修飾子を指定する事により、 TE は，起動後自動的に自動コマンドファイルの内容を読み込み処理します。ホスト・システムにデータを送信するコマンドが指定されていた場合は，送信後キーボード・アンロック指令の受信を待ち合わせます。キーボード・アンロックを受信すると次の処理に移り，同じ動作を繰り返します。

以下に/AUTO_LOGON 修飾子に自動コマンドファイルを指定して TE を起動した場合の例を示します。

自動コマンドファイルの内容

```
<SKIP>
<CHECK * * "SYSTEM">
<CHECK * * "USER">
DEC
USER1<ENTER>
<CHECK * * "PASS">
<INPUT>
<PB PF1>
```



(注):KB_UNLOCKは，ホスト・システムからのキーボード・アンロック指令を示す。

H.1.2　起動後の自動コマンドファイル指定

セッション開始後に自動コマンドファイルを実行させる場合は「オプション (O)」メニューから「自動コマンド (P)」を選択するか ATCOM キー (Ctrl/N) を押します。これにより「自動コマンド」ウィンドウが表示されますので、実行するスクリプトファイルを指定 / 選択した後、「了解」ボタンを押すと自動コマンドの実行が開始されます。

H.2　文字列の指定

自動コマンドファイルには，キー入力により文字列を入力するのと同じように文字列を指定できます。文字列に '<' または '>' を指定する場合，それぞれ '<<' または '>>' と指定してください。

例：

以下の例は，文字列 "<YES>"を送信することになります。

<<YES>><ENTER>

H.3　コメント行の指定

自動コマンドファイルにコメントを記述したい場合は，1 桁目にイクスクラメーション記号 ('!') を記述することにより，その行をコメント行とみなすことができます。コメント行は，TE の動作に何も影響を与えません。

例：

! THIS LINE IS A COMMENT'S LINE

H.4　コマンド

コマンドには，キーボードからのキー入力の代わりを示すキー入力コマンドと，TE の動作を制御するための制御コマンドがあります。

H.4.1　キー入力コマンド

キー入力コマンドは，キーを実際に押して入力する代わりに，キーに対応したコマンドを定義しておくことにより，キー入力と同じ動作を TE に行わせるためのコマンドです。キー機能については，付録 A を参照してください。表 H–1 に，キー入力コマンドの一覧を示します。

例：

以下の三つの例は，結果的には同じ文字列 "DEC001"を送信することになります。

DEC001<ENTER>

DEC00X<LEFT>1<ENTER>

DEC001Y<LEFT><DEL><ENTER>

表 H–1　キー入力コマンド

キー入力コマンド	対応するキー機能
<ATTN>	Attn
<BTAB>	| ← (back tab)
<CLEAR>	Clear
<DEL>	Delete
<ENTER>	ENTER
<EEOF>	ErEof
<EINP>	ErInp
<EXIT>	EXIT
<HOME>	HOME
<LEFT>	←
<LOGNOT>	論理 NOT
<LOGOR>	論理 OR
<RIGHT>	→
<NEWLINE>	↩(new line〈改行〉)
<INS>	Insert
<PA1>	PA1
<PA2>	PA2
<PA3>	PA3
<PFxx>　(xx は 1 ~ 24)	PFxx　(xx は 1 ~ 24)
<PRINT>	PRINT

(次ページに続く)

表 H–1 (続き) キー入力コマンド

キー入力コマンド	対応するキー機能
<RESET>	Reset
<SELECT>	SELECT
<SYSREQ>	SysReq
<TAB>	→|(tab)
<UP>	↑
<DOWN>	↓
<XFER>	XFER

H.4.1.1 自動コマンドによるファイル転送を行なう際の注意点

ファイル転送を自動コマンドで行なう場合に<XFER>コマンドを使用しますが，このときの注意点，制限事項を以下に挙げます。

- <XFER>コマンドは Xfer キー機能と同様に使用できます。<XFER>コマンドで「ファイル転送」ウィンドウを開き，もう一度<XFER>コマンドを実行するとウィンドウは閉じます。この間は XFER モードになっていて入力の対象は「ファイル転送」ウィンドウになります。
- ファイル転送実行中に，「ファイル転送」ウィンドウの「中止」ボタンをマウスでクリックするとファイル転送は中止されますが，このとき実行中の自動コマンドも中止されます。
- XFER モードの間は入力できるコマンドは制限されます。また，通常の TE 画面に入力するときとは動作が異なるコマンドもあります。

<NEWLINE>	ファイル転送コマンドを入力します。 TE 上で[Return]キーを押したのと同じ動作をします。
<ENTER>	XFER モードでは<NEWLINE>コマンドと同じ動作をします。
<RIGHT> <LEFT>	入力したファイル転送コマンド上で 1 文字分カーソルを移動させます。
<DEL>	入力したファイル転送コマンドを 1 文字削除します。
<INS>	挿入 / 上書きモードを切り換えます。
<EXIT>	通常の Exit キーと同様に， TE を強制的に終了させます。
<XFER>	「ファイル転送」ウィンドウを閉じて XFER モードを終了します。

H.4.2 制御コマンド

制御コマンドは，コマンド送信のタイミングを制御したり， PLAY 機能を実行したりします。表 H–2 は，制御コマンドの一覧です。

表 H–2 制御コマンド

制御コマンド	機能
<CHECK 行数|* 列数|* "文字列 ">	文字列の待ち合わせ
<INPUT>	文字列の入力待ち合わせ
<PB PF1 ~ PF24>	PLAY 機能
<SKIP>	キーボード・アンロックの待ち合わせ

<CHECK 行数|* 列数|* "文字列 ">

指定した文字列がホスト・システムからキーボード・アンロックを受信した時点でディスプレイ上の指定した行と列の位置に表示されているかをチェックし，表示されていなければ引き続き表示されるまで待ち合わせます。行数または列数に '*' を指定した場合は，行数または列数のチェックは行いません。文字列中にダブル・クオーテイション (' " ') を指定する場合は，' "" ' と指定してください。

例 1：

<CHECK 10 5 "LOGON">

10 行， 5 列の位置に "LOGON"を受信するまで待ち合わせます。

例 2 ：

<CHECK * 5 "LOGON">

いずれかの行の 5 列の位置に "LOGON"を受信するまで待ち合わせます。

例 3 ：

<CHECK * * "LOGON">

位置のチェックは行いません。ディスプレイ上のどこかに "LOGON"を受信するまで待ち合わせます。

例 4 ：

<CHECK * * "TEST""MOJI""RETU">

文字列 "TEST"MOJI"RETU"を待ち合わせます。

<INPUT>

<INPUT>制御コマンドは，文字列が入力され， Enter キーにより送信されるまで待ち合わせます。入力は，通常のエミュレーション画面でのキーボードからの入力と同じに入力できます。パスワードなどファイルに残したくない情報を自動 LOGON の途中で入力したい場合などに有効です。

例１：

<INPUT>

キーボードからの文字列の入力及び Enter キーの入力を待ち合わせます。

<PB PF1 ~ PF24>

RECORD キーにより PF キー (PF1 ~ PF24) に記録したキーシーケンスを PLAY キー機能と同じように再生できます。

例１：

<PB PF24>

PF24 キーに記録したキーシーケンスを PLAY キー機能と同じように再生します。

<SKIP>

このコマンドは，ホスト・システムからのキーボード・アンロック指令の受信を待ち合わせます。

例１：

TEST<ENTER>

<SKIP>

START<ENTER>

例１のように自動コマンドファイルにコマンドが定義されていた場合，文字列 "TEST"を送信後キーボード・アンロック指令を受信しても，もう一度キーボード・アンロック指令を受信しないと次の文字列 "START"を送信しません。

H.5　自動コマンドの中断

自動コマンド機能の実行を中断するためには，ACCNCL キー (Ctrl+A) を入力してください。入力された時点で自動コマンドファイルからの読み込みを中断し，キーボードから入力可能な状態に戻ります。

用語集

DECnet SNA ゲートウェイ (DECnet SNA Gateway)
: DECnet ノードを IBM SNA ネットワークに接続する通信サーバ (ハードウェア/ソフトウェア・システム) 。このゲートウェイを使用することによって，あるノード上でのアクセス・ルーチンは，リモート・ジョブ・エントリやターミナル・エミュレーション，アプリケーション・インターフェイスをはじめ，その他のいろいろなサービスが提供されます。

SNA
: システム・ネットワーク・アーキテクチャ (Systems Network Architecture) を参照。

LU
: 論理装置 (logical unit) を参照。

PU
: 物理装置 (physical unit) を参照。

SSCP
: システム・サービス制御ポイント (System Services Control Point) を参照。

VMS/SNA
: システムが IBM の SNA ネットワークと通信するのに必要な機能を実行できるようにする， VAX システムで実行されるソフトウェア。

アクセス・ルーチン・ソフトウェア (access routine software)
: リモート・ジョブ・エントリやターミナル・エミュレーションなどの特定の操作を実行するために， DECnet ノードや VMS/SNA ソフトウェアが実行されている VAX を SNA ネットワークに接続するレイヤード・プロダクト。

イーサネット (Ethernet)
: 個人的に所有されるローカル・エリア・ネットワークであり，制限された地域 (たとえば，オフィス，ビルディング，複数のビルディングなど) 内でプロセッサを接続するために信頼性の高い高速通信チャネルを提供します。イーサネット (Ethernet) は受動通信媒体であり，異なる種類のコンピュータ，情報処理製品，オフィス機器を相互接続します。

エミュレータ (emulator)
: ある装置を別の装置の動作方法で実行できるようにするプログラム。

エンド・ツー・エンド (end-to-end)
制御機能の処理がこれらの機能に特に適したコンピュータによって複数のレベルで実行されるコンピュータ・ネットワーク。コンピュータ階層構造の一番上のレベル（ホスト・コンピュータ）が階層型ネットワークを制御します。

ゲートウェイ (gateway)
あるネットワークの規則を別のネットワークの規則に変換するモジュールまたはモジュールの集合。本書では，DECnet SNA ゲートウェイと VMS/SNA を単にゲートウェイと呼びます。

システム・サービス制御ポイント (System Services Control Point) (SSCP)
ネットワーク・ドメインを管理し，制御するのに必要な機能の総称。SSCP はドメイン・ホストに存在します。

シングル・ドメイン・ネットワーク (single-domain network)
1 つのシステム・サービス制御ポイントを持つ IBM SNA ネットワーク。

セッション (session)
2 つのソフトウェア構成要素の間の長期的な論理接続。TE の場合には，TE が IBM 適用業務に正しく接続されたときにセッションが開始されます。

装置 (device)
ネットワークに接続されているデータ処理機器またはユーザ機器。

ターミナル・ノード (terminal node)
ユーザがそのノード上でプログラミングすることができないような周辺ノード。処理能力はクラスタ・コントローラより劣ります。

チャネル (channel)
CPU，メモリ，および入出力装置の間で転送されるデータ，アドレス，制御情報のための通信経路。

通信アクセス方式 (telecommunications access method)
ホストとリモート・システムのアプリケーション間でデータを転送するのに必要な機能を提供する IBM システムのソフトウェア製品。

通信サーバ (communications server)
イーサネットなどのローカル・エリア・ネットワーク (LAN) の専用ノードであり，他のすべての LAN ノードに対してサービスを提供します。DECnet/SNA ゲートウェイは通信サーバです。

通信制御装置 (communications controller)
IBM システムで処理しなければならないようなアクセス方式の操作を実行する，プログラム可能なプロセッサ。この制御装置は通信"フロント・エンド"が実行できるようにする役割を果たし，IBM システムがより多くの時間と資源を使用しなくてもよいようにします。

トポロジ (topology)
ネットワーク内で相互接続されるノードとラインの物理的な配置および関係。

ドメイン (domain)
ホスト・ノード上の SSCP (システム・サービス制御ポイント (System Services Control Point) を参照) によって制御されるネットワークの一部。 SNA では，シングル・ドメイン・ネットワークとマルチドメイン・ネットワークがあります。

ネットワーク (network)
情報と資源を共用するために接続された 2 つ以上のコンピュータ構成。

ノード (node)
ネットワーク・ソフトウェアをサポートする DEC コンピュータ・システム。

SNA の用語では，ノードはリンク (接続) またはネットワーク内の 2 つ以上のリンクの中間点です。

システム・ネットワーク・アーキテクチャ (Systems Network Architecture) (SNA)
IBM 社のネットワーク・アーキテクチャ。 SNA は，IBM ネットワークを構成する構成要素間の関係と機能を定義する概念および構造です。

物理装置 (physical unit)(PU)
SSCP (システム・サービス制御ポイント (System Services Control Point) を参照) から受信した指示に従って，IBM ノードの物理資源 (たとえば接続されているリンク) を制御するインテリジェント構成要素。 SNA の用語では，PU は物理的な装置という意味ではありません。 PU はソフトウェア，ハードウェア，またはソフトウェアとハードウェアの組み合わせのいずれでもかまいません。

プロトコル (protocol)
コンピュータ間のデータの流れを管理し，制御する規則の集合。また，相互に交換されるメッセージの形式と内容に関して通信プロセスの間で設定された規則の集合。

フロント・エンド・プロセッサ (front end processor)
通信制御装置 (communications controller) を参照。

ポイント・ツー・ポイント (point-to-point)
2 つのコンピュータの間だけで接続が確立されるようなネットワーク構成を示す用語。

ホスト・ノード (host node)
IBM SNA ネットワークにおいて，ホスト・ノードは，集中制御機能とカード・リーダ/パンチ，ディスク，テープ，表示装置などのローカル接続された装置をはじめ，ネットワークの汎用データ処理機能を提供するコンピュータです。

マルチドメイン・ネットワーク (multidomain network)
複数のシステム・サービス制御ポイントを持つ IBM SNA ネットワーク。

マルチドロップ・ライン (multidrop line)
マルチポイント・ライン (multipoint line) を参照。

マルチポイント・ライン (multipoint line)
2 つ以上のシステムによって共有されるライン。ホスト・システムは，マルチポイント・ラインに接続されたシステムと交互に通信を実行することが可能です。

メインフレーム (mainframe)
本書では IBM システムを示すためにこの用語を使用します。ホスト・ノード (host node) も参照してください。

ユーザ (user)
ネットワークにサービスを要求する適用業務，装置，または人間。

リアルタイム (real time)
ユーザまたはプロセス間の対話による操作モード。

リモート・ノード (remote node)
ユーザが使用しているノード以外のノード。

隣接ノード (adjacent node)
ローカル・ノードと単一の物理ラインによって接続されているノード。

論理装置 (logical unit)(LU)
ユーザ (適用業務プログラム) が SNA ネットワークをアクセスするためのインターフェイス。 LU は適用業務プログラムにネットワークを使用できるようにサービスを提供します。

論理リンク (logical link)
DECnet ネットワーク内の 2 つのトランザクション・プログラムの間に確立された一時的な会話経路。

索引

A

/ACCESS_NAME D–1
all オプション
  undefine コマンド F–8
/APPLICATION_NAME D–1
/AUTHORIZATION_PASSWORD D–2
/AUTO_LOGON D–2

B

/BASIC_CHARACTER D–2

C

/CHARACTER_SET D–3
char オプション
  undefine コマンド F–8
CICS RECEIVE コマンド 1–68
CICS SEND コマンド 1–65
/COMPRESS D–4
/COPY_KEISEN D–4

D

/DATA D–4
DEC 拡張漢字セット G–1
DEC 拡張文字 F–1
DEC ユーザ定義領域 F–1
define コマンド
  jsnaknjdef ユーティリティ F–5
  使用例 F–7

E

exit コマンド
  jsnaknjdef ユーティリティ F–9
/EXTERNAL D–5
external オプション
  define コマンド F–5

G

/GRAPHIC_CHARACTER_CELL D–5
group オプション
  undefine コマンド F–8

H

help コマンド
  jsnaknjdef ユーティリティ F–9

I

IBM 拡張文字 E–1
IBM 選定文字 F–1
IBM 選定文字 G–1
IBM ユーザ定義文字 F–1
/INTERFACE D–5

J

JISCII パラメータの処理 1–70
jsnaknjdef ユーティリティ
  define コマンド F–5
  exit コマンド F–9
  help コマンド F–9
  list コマンド F–3
  quit コマンド F–9
  undefine コマンド F–8
  use コマンド F–2
  終了 F–9
  起動 F–1
jsnaknjdef ユーティリティ内のコマンド
  jsnaknjdef ユーティリティ F–2

K

/KEY_DEFINITION D–5

L

list コマンド
  jsnaknjdef ユーティリティ F–3
/LOCKING_SHIFT D–6
Logical unit . . . . . 用語集 –4
/LOGON_MODE D–6

N

/NUMOVR D–6

O

output オプション
  list コマンド F–3

P

/PRINTER D–7
/PU D–7

Q

quit コマンド
  jsnaknjdef ユーティリティ F–9

S

/SESSION_ADDRESS D–7
SETHOST.LOG 2–6

T

/TERMINAL_TYPE D–8
TE ウィンドウのサイズ変更 1–14
TE の起動 1–1
  コマンド行から 1–1
TE の終了 1–8
to オプション
  define コマンド F–6
TSO RECEIVE コマンド 1–62
TSO SEND コマンド 1–58
Type Ahead D–7

U

undefine コマンド
  jsnaknjdef ユーティリティ F–8
user オプション
  define コマンド F–5
use コマンド
  jsnaknjdef ユーティリティ F–2

W

/WAIT D–8
/WIDTH_SWITCHING D–8

X

/XFER_USER_MACRO D–9

イ

インストレーションの準備 2–1
インストレーション例 2–15

カ

拡張属性表示モード 1–33
カーソル 1–11
画面
  定様式 1–9
  不定様式 1–9
画面サイズ 1–9
画面定様式 1–9
画面不定様式 1–9

キ

キー操作の記録 1–24
キー定義ファイル 1–38
キー定義ファイルの読み込み 1–38
キーボード・レイアウト 1–29
キーボード機能 A–1
  ACCncl A–11
  atcom A–10
  Attn A–6
  BckTab A–4
  ChgCha A–8
  Clear A–7
  Crblnk A–8
  Defkey A–8
  Delete A–5
  DspAtt A–8
  DspPos A–8
  DUP A–6
  DvCncl A–9
  Enter A–6
  ErEof A–5
  ErInp A–5
  Exit A–9
  Ext A–9
  FM A–5
  HanZen A–8
  Help A–9
  Home A–5
  Insert A–5
  NewLin A–4
  NumOvr A–9
  PA1 ~ PA3 . . . . . A–6
  PF1 ~ PF24 . . . . . A–6
  Play A–9
  Print A–7
  Record A–9
  RubOut A–6
  Save A–10
  Select A–7
  SetFil A–7
  SysReq A–7
  Tab A–4
  Xfer A–10
  漢字 A–8
  論理 NOT A–8

キーボード機能 (続き)
論理 OR A–8
基本属性表示モード 1–33

ク

クライアント 2–11
クラスタ環境でのインストレーション 2–13

コ

コマンド形式
jsnaknjdef コマンド F–1

サ

サーバ 2–11
サーバ・フォント 2–8

シ

システム・ディスクのバックアップ 2–4
システム・パラメータ値のチェック
SYSGEN 2–3
システム・パラメータ値の変更 2–3
システム・ファイルの編集 2–13
システムのリブート 2–13
自動コマンドファイル H–1
自動コマンドの中断 H–8
自動コマンドファイル指定時の動作概要 . . H–1
起動時の自動コマンドファイル指定 H–1
起動後の自動コマンドファイル指定 H–3
コマンド H–3
制御コマンド H–5
キー入力コマンド H–4
コメントの指定 H–3
文字列の指定 H–3
修飾子 D–1
/ACCESS_NAME D–1
/APPLICATION_NAME D–1
/AUTHORIZATION_PASSWORD D–2
/AUTO_LOGON D–2
/BASIC_CHARACTER D–2
/CHARACTER_SET D–3
/COMPRESS D–4
/COPY_KEISEN D–4
/DATA D–4
/EXTERNAL D–5
/GRAPHIC_CHARACTER_CELL D–5
/INTERFACE D–5
/KEY_DEFINITION D–5
/LOCKING_SHIFT D–6
/LOGON_MODE D–6
/Numeric Lock Override D–6
/NumOvr D–6
/PRINTER D–7
/PU D–7
/SESSION_ADDRESS D–7
修飾子 (続き)
/TERMINAL_TYPE D–8
/TYPE_AHEAD D–7
/WAIT D–8
/WIDTH_SWITCHING D–8
/XFER_USER_MACRO D–9
状態標識
P 1–12
A 1–12, 1–13
Appl 1–13
Ext 1–12, 1–13
Inhib 1–13
Insert 1–13
K 1–12, 1–13
L 1–12
O 1–13
OVR 1–12
P 1–12, 1–13
Pr 1–12
Print 1–13
R 1–12, 1–13
rr/cc 1–12
S 1–12
SSCP 1–13
SysAvl 1–14
Wait 1–14
XX 数字フィールド。数字のみ入力可能。 1–12
XX お待ちください。 1–12
XX この位置では変更できません。 1–12
XX このフィールドでは，セレクト不可。 1–12
XX 無効なキーが押されました。 1–13
XX 英数かな文字のみ入力可能。 1–12
XX フィールドがいっぱいです。 1–13
XX やり直してください。 1–13
全角 1–12
半角 1–12
状態メッセージ C–1
回復不可能 C–15
ファイル転送 C–8

ス

数字キーパッド 1–29
数字キーパッドのアクセス 1–29
スクリプト・ファイルによるファイル転送 . . . 1–56
スクリプト・ファイル 1–56
スクリプト・ファイルによるファイル転送の起動
スクリプト・ファイル転送時におけるのファイル転送の中止 1–57
スクリプト・ファイル 1–56
ステータス・ラインのメッセージ
Inhib 1–13

セ

接続パラメータの参照 1–31
設定 1–29
　キーボード・レイアウト 1–29
　接続パラメータ 1–31
設定の参照
　接続パラメータ 1–31
設定の表示
　キーボード・レイアウト 1–29
設定の保存 1–29

ソ

操作員情報域 1–12
ソフトウェア・キットの構成 2–8

タ

代替文字モード 1–33

テ

定様式画面
　へのデータの入力 1–14
適用業務域 1–9
データの入力 1–14

ト

特権 2–13
特権の設定 2–13

ヒ

必須オペレーティング・システム・コンポーネント 2–4
表示画面 1–9
表示画面の使用 1–9
標準的なオプション 1–6

フ

ファイル転送機能の使用方法 1–45
　オプション
　　(. 1–66, 1–69
　　[. 1–59, 1–63, 1–66, 1–69
　　APPEND 1–59, 1–63
　　BLANK 1–64, 1–69
　　BLKSIZE 1–60
　　CRLF 1–59, 1–63, 1–66, 1–69
　　JISCII 1–59, 1–63, 1–66, 1–69
　　LRECL 1–60
　　NOSO 1–61, 1–66, 1–69
　　RECFM 1–60
　　RLENGTH 1–64, 1–70
ファイル転送機能の使用方法
　オプション (続き)
　　SO 1–63
　　SPACE 1–60
　　TAB 1–61, 1–66
　　コメント 1–67
ファイル転送コマンド 1–58
ファイル転送コマンドの入力 1–48
　コマンドの直接入力 1–48
　コマンドマクロを利用したコマンドの入力 1–48
　メッセージ表示域を利用したコマンドの入力 1–48
ファイル転送の中止 1–49
フィールド属性の参照
　拡張属性表示モード 1–33
　基本属性表示モード 1–33
フォント・ファイル
　VMS 2–11
　OpenVMS サーバへのコピー 2–12
　サーバへのコピー 2–11
フォント・ファイル 2–8
不定様式画面
　へのデータの入力 1–14
プロダクト・オーソライゼーション・キー (PAK) 2–2

ヘ

ヘルプ 1–7
ヘルプの取得 1–7
変換テーブル B–1

メ

メニュー項目 1–4
メニュー項目の追加 1–4

ユ

ユーザ定義マクロ機能を使用したファイル転送 1–51
　転送方法 1–52
　ユーザ定義マクロの削除 1–52
　ユーザ定義マクロの定義保存 1–53
　ユーザ定義マクロの読み込み 1–54
　ユーザマクロの定義 1–51
ユーザ定義文字 E–1

ラ

ライセンスの登録 2–2, 2–9

リ

リリース・ノート 2–5

ワ

ワークステーション・フォント 2–8

日本語 DECwindows DECnet SNA 3270 ターミナル・エミュレータ for OpenVMS
ユーザーズ・ガイド / インストレーション・ガイド

1994 年 4 月　発行

日本ディジタル イクイップメント株式会社

〒 167 東京都杉並区上荻 1-2-1

電話　(03)5349-7111 (大代表)

AA–Q4XWA–TE